

生鳥沼

久久比奴末

はまゆうと桜貝と

海光るわが故里

第 100 号

創刊100号記念特集 相模国準四国八十八ヶ所

『生鳥沼』創刊100号を祝す … 生鳥沼市民センター長 松久 雅治 …	1
公開講座講演記録 江戸時代「生鳥沼村庶民の弘法大師信仰」 ～相模国準四国八十八ヶ所札所巡りの成立～ ……………明治大学名誉教授 圭室 文雄 …	2
同講演テキスト ……………	25
相模国準四国八十八ヶ所の調査にあたって ……………	40
相模国準四国八十八ヶ所弘法大師像現在地分布図 ……………	44
札所番号順目次 ……………	46
相模国準四国八十八ヶ所調査 第1番札所 感応院 ……………	47
相模国準四国八十八ヶ所調査 第88番札所 普門寺 ……………	134
「生鳥沼を語る会」活動の記録（平成21年10月～3月）総務担当 …	135
編集後記 ……………	138

『新編相模風土記稿』（天保13年、1892）に、「生鳥沼村久久比奴末牟良」とあり、当時は“くぐいぬま”と呼んでいたことが分かる。

生鳥沼を語る会 発行

『鶴沼』創刊 100 号を祝す

鶴沼市民センター長 松久 雅治

会誌『鶴沼』創刊 100 号おめでとうございます。

「鶴沼を語る会」は昭和 50(1975)年 11 月に設立して以来、郷土文化の研究調査と、ふるさと意識の啓発および広く地域文化に貢献することを目的に活動してきた歴史あるサークルであります。

みなさん御存じのとおり鶴沼は明治以降別荘地や保養地として開発され、これまで近代史に名を残した数多くの作家や芸術家、文化人等が滞在し居住して来た歴史あるまちです。そして、このことは私たち市民が郷土の史実として誇れる貴重な歴史的財産でもあります。

しかしながら、このような貴重な歴史的事象も、年を経るに従って私たちの記憶から徐々に遠のくと同時に伝承されにくくなるのもまた事実であります。

このような中、「鶴沼を語る会」の会誌『鶴沼』は設立の翌年から発刊され、鶴沼の郷土史全般にわたる質の高い内容を毎号掲載し、郷土史研究サークルの機関誌としてはまさに出色のものであり、後世に郷土の史実を伝える貴重な歴史的資料として評価されています。

また一方では、「鶴沼を語る会」は市内の小中学校で「鶴沼の歴史」をテーマにした課外学習に会員が講師となって生徒と一緒に勉強するなど、子供たちのふるさと意識の高揚に尽力いただいております。このことは鶴沼地区の「市民力」として他に誇れることがらであり感謝申し上げます。

「継続は力なり」といいますが、100 号続くということ自体、大変な努力を必要とすることであり敬服いたしておりますが、さらに、これを節目に「鶴沼を語る会」と会誌『鶴沼』がますます発展充実していかれることを心から祈念いたします。

(まつひさ まさはる)

江戸時代 鵜沼村庶民の弘法大師信仰

相模国準四国八十八ヶ所札所巡りの成立

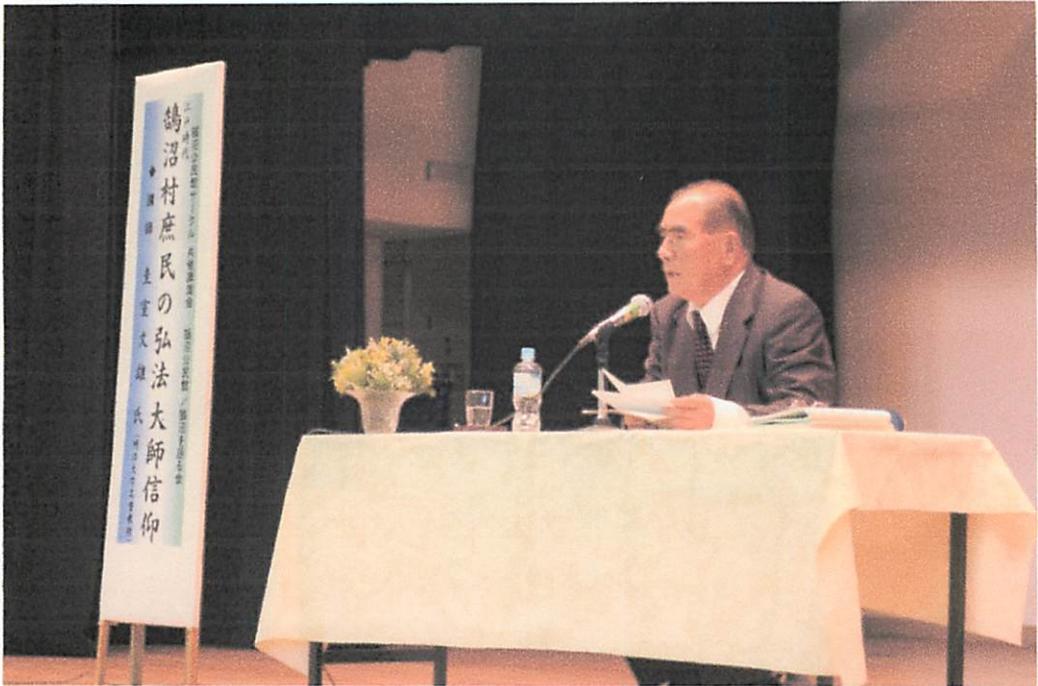
講師： 圭室 文雄 先生

只今ご紹介を頂きました^{たまむろ}圭室でございます。私がこのお話をいただいたのは半年ほど前でしたか、鵜沼を語る会の有田さんと杉本さんのおふた方がお出でになり何か話せということでした。東海道線の北側では何回かお話したことがございますが、私自身はこの地域に住んでいてあまり世間を狭くしたくないと思ひまして、なるべくこの地域で話す機会を持たないようにしてきました。電車の中などで酔っぱらっていたりして評判が悪くなるといけませんので…。(笑) けれども家内はどうせこの地で亡くなるんだから今のうちにお付き合いしとかないといけないとしきりに申しまして、それで今回お引き受けした次第でございます。

私は、もう 73 年くらい前になりますがこの公民館の道を隔てて 30m ほど入ったところで生まれたと母は申しておりました。小学校は戦争中でしたので藤沢第三国民学校という今の鵜沼小学校だと思います。そこに通っておりまして 10 歳の時、昭和 20 年 2 月に父が出征することになりました。当時は本籍地から出征するかたちでしたので、父母の郷里、九州熊本の山のなかの寺で中学高校を過ごし、昭和 35 年に鵜沼に戻ってきましたから 15 年ほど間が抜けてはいますが、鵜沼生まれであることは事実で私の戸籍は高座郡藤沢町（市制が敷かれたのは昭和 15 年）となっています。そんなわけで御縁はあるのですがなかなかお話する機会がなかったというのが実情でございます。

* * *

さて、本日お話し申します「弘法大師信仰」というと真言宗のお寺の檀家でなければ信仰はないだろうとお考えになるでしょうけれども実はそうではないんでありまして、弘法大師空海が亡くなります時にですね、空海は弟子たちを集めて自分はまだ臨終なんだ、それで山に入るといつて入った。それを別所^{べつしょ}といっています。それが今の高野山^{こうのやま}の奥の院であります。その奥の院の山のなかに空海は入った。ところが空海の亡骸を見た人は誰も居ないので。ですから空海は生きて



講演される 圭室 文雄 先生

いる。四国八十八ヶ所においでになった方はお分かりと思いますが同行二人^{どうぎょうふたり}と書きますね、二人のうち一人は自分ですがもう一人は弘法大師空海なのです。

それで何故、だれもが高野山に登ったり八十八ヶ所に行くようになったかといいますと高野山に登るということはまだ空海が生きているわけですね、高野山は極楽浄土の入り口なのです。ですから是非皆さんも奥の院にお出でになって、奥の院への道筋の条件のいいところにお墓をお作りになれば確実に極楽浄土に行けることになっております。

そういう信仰が鎌倉時代から盛んになりまして高野山の浄土信仰を全国に布教して歩く人、それを高野聖^{こうやひじり}といいます。例の泉鏡花の「高野聖」が出ましたのが明治 33(1900)年ですから今から 100 年ちょっと前ですが、その頃はまだ高野山の御師たち、つまり高野聖たちが我々の近所までやって来ていたのです。

高野聖はどんな事をやるかと申しますと、一つは南無遍照金剛^{なむ へんじょうこんごう}のお札を配る、それから弘法大師の絵図を配ります。それからもう一つはですね、土砂加持^{どしちかじ}といまして加持祈祷をした土砂ですね、それをほんの一つまみですけどそれを持って参ります。でそれを貰うとどんなご利益^{りやく}があるかという土砂加持の場合です

たとえばお墓にお出でになって生前は仏教を信仰していなかった人であっても土砂加持を墓石に載せますと、たちどころに地獄から極楽に行けるといふ有難いものでございます。今でも買うことができますから是非ご利用いただきたいと思ひます。それから花咲じじいという話を御存じと思ひますが花咲じじいが木に撒きますよね灰を。あれも土砂加持の一種です。それともう一つは陀羅尼助だらにすけという薬がござひます。これはお腹をこわしたときに効くのですが、それが万病の薬といわれまして高野聖は必ずそれを持って廻ったわけがござひます。ですから真言宗の末寺を使ってネットワークを作つてそこから薬を売つて歩いた。富山の薬は立山の山伏がやつていますが同じようなものであります。

そんなわけで、単に祈禱するだけでなく、病氣も治すというような信仰、しかも極楽浄土にちゃんと連れて行つてくれる、そういうような信仰が定着するのが大体江戸時代に入る頃 1600 年過ぎてからでありまして、われわれの先祖たちが高野山に足を運ぶようになります。後ほど詳しくご説明しますが、鶴沼村からも 10 人、15 人でですね、行つております。

配付資料の表紙の裏のページ（本誌 26 ページ）にお話することの大体の主旨を書いておきましたのでこういう順序でお話を進めたいと思ひます。以下簡単にご説明しておきますと、

1 番目は相模国の庶民の「弘法大師信仰のはじまり」はいつごろなのか、ということですが。

2 番目の高野山慈眼院とげいんに宿泊した人々というのは鶴沼村から行つた人々ということで、慈眼院というのは塔頭たつちゆうであります。明治以降つぶれまして現存してありませんが、相模国の相模川より東側に住んでいた人たちは、このお寺に宿泊してあります。ちなみに西側の人たちは、高室院たかむろいんという丁度、慈眼院と向い側になりますが、そこに宿泊してあります。

3 番目に鶴沼村に住んでいた人たちの苗字を調べました。宿泊した人たちの中にどういふ方がいらつしやつたのかというのを表にしてみました。

4 番目の伊勢参宮と高野山参詣はセットになっておりまして、伊勢に行つた人は必ず高野山に行きます。伊勢参宮というのは現世利益げんぜりやくの祈禱をして貰う、現在は天照大神が祭神ですから天皇の祖先神といふかたちですが、これは明治以降の話でありまして、江戸時代までは現世利益、特に病氣を治す、安産、豊作祈願、このようなことを伊勢神宮で太々神樂たいたいかぐらをあげてやつておりました。で、その足で高野山にお参りをする。自分の近親者で亡くなつた人の戒名を持って行つて、紙

の位牌を作って貰いましてその戒名を向こうで書きこんで貰い朝のお勤めの時に勤行して貰う、それを月牌^{げつはい}といいます。つまり命日の日、ひと月1回、年に12回そういうことをして貰うために高野山に参ります。ですから相当の費用をここで使います。そしてそのあと畿内を廻ったり四国八十八ヶ所の一部を廻ったりするのですが、鶴沼村の記録がありませんので、お隣の羽鳥村、羽鳥というのはご承知と思いますが三楽オーシャンのある辺りから東海道線にかけての辺りでありまして。そこに三^{みつ}齋^しさんというお宅がありまして、史料が残っておりますのでそれをご紹介したいと思います。

5番目ですがこれがいよいよ本番の相模の国準四国八十八ヶ所というのであります。これを作った人はそこに書いてありますように浅場太郎右衛門という方でございます。相当な経済力を持っておられたようです。それに協力したのが鶴沼小学校のそばにある普門寺の住職の善応という人でございます。

6番目に四国八十八ヶ所の実態をご説明したいと思います。

最後に史料、参考文献の一覧をあげておきました。特に準四国八十八ヶ所については鶴沼の山上家、藤沢宿の平野家の文書を使用させて頂きました。

参考文献の著者、真柴敬典氏は茅ヶ崎南湖金剛院の住職。丸山久子氏は鶴沼海岸商店街もと安齋花屋さんの裏のあたりにお住まいでしたが故人です。樋田豊宏氏は若い方。三木洋氏は歯医者さんです、この本は先ごろまで本屋で見掛けましたが今どうでしょうか、図書館にはあると思います。

それでは本題に入らせていただきます。

1：相模国の庶民の弘法大師信仰のはじまり

配付資料の1ページ目をご覧下さい。高野山高室院相模国月牌帳です。月牌つまり毎月命日に戒名を読んでもらう費用、月牌料はいくら位納めるかと申しますと江戸時代は一つの位牌について（現在のお金に換算しますと）2万5千円くらい納めております。両親をやりますと5万円になります。今は1万円で済みます。私も父母の月牌料を払いましたが10年あまりこの寺の史料の調査に参りましたので、ま、やむを得ずという語弊がありますが、多分極楽に行けるのではないかという期待を寄せて行いました。

江戸時代は日牌というのもありまして、これは365日間、毎朝のお勤めの時に戒名を読んでもくれる訳です。すごいスピードで3人ほどで読み上げますからよほ

どよく聞いていないと分かりません。日牌料はいくらかといいますと江戸時代は20万円くらい今は5~10万円くらい。どのように刻んであるのか分かりませんが、戒名に院号が付いているか、居士(大姉)号か、信士(信女)号か、ということのようであります。

さて、このデータはですね、さっき申しましたように相模川の西側ですね高室院ですから。東側で高室院の檀家が多いのは三浦郡です。それ以外は殆ど慈眼院であります。本当は慈眼院の月牌帳が使いたかったのですが実は慈眼院という寺は1710年に燃えております。そのときは死者が出、仏像も灰になっておりますから当然のことながら史料も全部燃えてしまいました。ですから慈眼院には1710年以前の史料はまったくありません。そういうことでやむなく相模国ですので高室院のものを分析させていただきます。

これをご覧くださいますと、一番最初は1536年から我々の先祖たちは高野山にお参りしております。その数字がちょっと増えて来るのが1551年、126人という数字が出てくる。この辺りから庶民が本格的に高野山参りを行うようになったと考えられます。表のなかほど1591~1600年、そこまでを中世と考えて切ってみますと1,152人となります。

本来、戒名というのは坊さんと約束して戒律を守ったら貰えるものであって、例えばひと月ならひと月戒律を守りますと呉れたのであります。ですから日常ちゃんとした生活をする、ま、いちばん簡単なのは五つの戒律(編集注:不殺生戒、不偷盗戒、不邪淫戒、不妄語戒、不飲酒戒)ですがその戒律をまもる、そうするとその坊さんが認めれば戒名を呉れるわけです。戒名の分布をみますと中世には二字・二字ぜんじゆう禪定門尼が圧倒的に多い。二字戒名というのは二文字だけの戒名で今はほとんどありませんが当時はそれが一般でありました。禪定門尼というのはなにかというと禪定門とか禪定尼は禅宗の戒名であります。ですから二字戒名と二字禪定門尼とはイコールと考えてよろしい。つまり我々の先祖の戒名は本来二字戒名だったということが分かります。1600年までの所を見て頂きますと信士信女3、居士大姉9、院号戒名1しかありません。しかもこのうち、居士大姉院号はすべて武士の戒名であって庶民の戒名ではございません。

ところがそれが江戸時代になると様子はかなり変わって参ります。全体の流れが少しづつ右に動いて行く。二字・二字禪定門尼が少なくなり四字・四字禪定門尼さらに信士信女が一般的になっていきます。これは江戸時代に檀家制度が成立します。それまでは檀家制度はありませんでした。で何故檀家制度ができたかと

申しますとキリスト教徒ではないということを寺が保証しないと戸籍が作れなくなる。それでどこかの寺に所属しなければならない。つまり自分がいろんな選択肢を持っていてあっちの寺よりこっちの寺の方がよろしいとって選んだわけではありません。その村にその宗派の寺しかなければ好き嫌いは関係なくそこに登録してもらわないと自分の身分保証が出来ないということになります。

そうなると寺側からいえば有難いことで戒名料を少しづつグレードアップすることが可能であります。今までは二字戒名でいいというのが、つまり 1630 年以降の所を見て頂くと二字戒名は惨憺たるものでほとんど使われなくなっています。

そして大きな動きとして信士信女が多くなりますが当然これは戒名料を寺が取るようになります。今、戒名料のメニューの一番古いものは 1660 年代でありまして神奈川県で一番古いものは 1663 年のものがございます。その辺りから寺側ではそういう情報を末寺に流します。そうして一律にこういう戒名はいくらだということを決めます。ところがですね、ご覧いただくと分かる通り居士大姉院号を貰っているのは極めて少ないことが分かります。これから出て参ります浅場太郎右衛門という人は院号戒名を貰っています。この当時、院号戒名を貰うことがいかに稀有なことであったかは、この表でも院号 2 を全体 2646 で割りますとわずか 0.08% しかないことから分かります。浅場さんの場合には準四国八十八ヶ所を建てたその功勞によって藤沢大鋸^{だいざり}にある^{かんのういん}感応院というこの地域で一番大きな寺の過去帳に浅場さんは院号戒名で記録されています。大変な功勞者ということでお寺のほうでそういう戒名を与えたのだと思います。

というわけで相模国で庶民が高野山へ行くようになったのはおおむね 1550 年代くらいからではないかということが推察できます。当然ながら慈眼院にもこのくらいの時期から我々の先祖は行っているであろうと思われます。

もうひとつの問題はのちにも触れますが、高野山に行きまして、自分の住所、苗字、名前を申告して書いて貰っています。これは庶民の苗字というのは明治になって初めて使うようになったのだと教科書には書いてありますが、それは間違いでありまして、すでに 1550 年代には苗字を使っております。苗字はですね、当時はつまり公的な記録の中では使えなかったのです。苗字帯刀を許すというのがありますね。大名が苗字帯刀を許すといって金を巻き上げるわけです。たとえば飢饉やなんかの時に寄付を集めます。今の金で 300 万円も出せば苗字帯刀を許すということになります。そのとき苗字は大名が付けてくれるわけではありません、自分が持っている苗字を公的に名乗ってよろしいという意味です。ですから

我々の先祖の苗字の存在というのは少なくとも高野山の史料によればこの表にあるように 1530 年までは遡れます。その前はどうかといわれても記録がありません。これから記録が出てくればもっと遡れると私は思っています。

それで弘法大師信仰の始まりというのは 1550 年代と考えて差し支えないと思うのであります。

2：高野山慈眼院に宿泊した人々

高野山の慈眼院に宿泊した人たち、これを表にしたのが 2 ページから 3 ページであります。ちょっと字が小さくてご覧になりにくいかもしれません…。

これを見て頂きますと先程申しましたように慈眼院の記録は 1710 年以前のは燃えてしまいましたから 1711 年からの分が残っております。それを集計して表にいたしましたのがこれでございます。

一年間に鶴沼村から何人くらいの人が行っているであろうかということですね、表を見て行きますが、少人数のところを飛ばして 10 人以上でみてみますと正徳元年には 6 月 21 日、26 日、7 月 4 日に到着しております。これは宿帳ですから泊まった日が書いてあります。鶴沼から高野山までどのくらい日数がかかるかといえますと歩いて 20 日くらいかかります。ですからスタートは一緒だったのではないかと、けれども着いたときは 3 グループに分かれていた。この年 14 名泊っています。次に享保 10 年を見て下さい。7 月 1 日 10 名おります。寛保 3 年 6 月 10 日、15 日 15 名おります。先着が若者組で後着が年寄り組だったのかも知れません。安永 9 年 14 名。天明 6 年、世の中では天明の大飢饉の最中ですが、17 名が行っております。その前後を見て頂いても天明年間にたくさんの人が行っています。ですから一定の地域では飢饉があったかも知れないけれどもたまたまこの地ではそういうことはなかったといえるかと思えます。さらに寛政 5 年 13 名、3 ページにいきまして文政 2 年 2 月 1 日に 12 名、文政 4 年にも 12 名、文政 10 年も 12 名、さらに天保 12 年は 14 名が記録されています。弘化 4 年 12 名、安政 3 年 12 名と続きます。

このように 10 人以上の団体でお参りしています。この場合に隣接の村も一緒に行っております。ですから一つの村から 12 人とか 15 人とか行っていますが近所の 10 か村位の連中がまとまって行くということは 100 人を超えるような一行を泊められる宿屋というのが江戸時代には出来上がっていた。同時に伊勢にもお

参りしますので伊勢の方でもこの地域の講というものがあります。この伊勢講というのはですね 15 人で一つの講をつくります。そして 30 両の金を集めます。それを年 10%の利回りでまわすと利息が 3 両になります。3 両は今の金にすると 30 万円くらいに相当します。

この 3 両の費用で 1 人の人が行きます。15 軒で一つの講を構成していますから 16 年目にはまた自分の番が回って来るわけで、この場合貧富の差はありません。金持ちは^{もどきん}元金を余計に差し入れます。江戸時代の初期は大体元金 30 両、約 300 万円ですね。約 300 万円を 10 年くらいかかって貯めます。そして利息の 3 両で誰でも均等に伊勢参りに行けます。

鶴沼の場合は全体で 258 軒ありましたから 15 で割りますと 17 の講ができるわけで、つまり毎年 17 人が伊勢までは行ける旅費はあるのです。

ところがこの史料は高野山のもの、伊勢まで行く人と高野山まで行く人、更には四国まで行くとなると経済力が違います。伊勢までは誰でも行けるが、伊勢から先まで行く人はそれより金持ちだということになります。それで伊勢まで行って帰る人と高野山まで行く人を比べますと 40%が高野山まで行っています。60%の人は伊勢から帰って行く。

鶴沼村から伊勢までの往復はおおよそ 1 か月かかります。ところが高野山、奈良、京都、大阪を廻るとなると 2 か月、さらに金毘羅さんを廻るとなると 3 か月かかります。それだけの経済力が現実にあったということです。しかも表を見て分かる通り 10 人 15 人のグループで行っている。周りの村の人も行っているわけです。

江戸時代の農民生活というものは非常に苦しかったと我々は教科書で習いましたし、それを信じて学生にもそのように教えてきましたが、これを見た瞬間に、どうもそれは違っているのではないか？という感を持ちました。我々の先祖たちは必ずしも苦しゅうなかったのではないかという風にも考えられるのです。

3：鶴沼村に住んでいた人々の苗字

慈眼院の宿泊名簿に出てくる人たちの苗字を拾って 4 ページに表にしてあります。特に多いものを太字にしてあります。浅場さん小林さん斎藤さん関根さん高橋さん宮崎さん森さん山上さん山口さん渡辺さん…皆さまも朝散歩されるときバードウォッチングもよろしいが表札ウォッチングをなさると、どこが昔から居

たんだと知るのもよかろうと存じます。

この表のなかで、すこし私が疑問に思っているのは3行目に「加り田」とありますね。3ページの文化12年の所に加り田好右衛門という人がおります。この加り田は変体かなであって、鶴沼には荻田という地名がありますので或いは苗字ではなく地名かも知れません。その場合はこの表から外していいかなと考えております。万が一この中にカリタさんという方がいらして江戸時代からいるぞ、とおっしゃられれば訂正を致しますが。

表の下の方に文政7(1824)年現在、鶴沼村の石高は700石、家数258軒と書いてあります。村の面積は700石とれる広さ、大体田んぼと畑とあわせて石盛(田畑の反当たり収穫高を示す数)を1としますと700反つまり70町歩あったことになります。それで家が258軒あったということです。

この表ですが、これは慈眼院に宿泊した人の名簿からリストアップしましたから慈眼院に行っても泊らなかった人は入っていません。これはどういうことかといいますと、高野山に登るとき大抵は橋本というところから登ります。いま現在も橋本という駅に南海電車が止まります。その橋本から高野山に登るのに大体半日かかって登ります。帰りは下りですからそんなにかからない。だから、そのあと奈良や京都に行く予定の人で高野山のうえに泊まる人はあまりないのです。

つまりその日のうちに橋本まで戻ってきちゃうわけですね。そうすると1日得します。その意味でいえば、この高野山に泊った人のリストは全体で279人いますけれども、おそらくこの何倍かの人が高野山にお参りしていると考えられます。

4: 伊勢参宮と高野山参詣

では具体的に伊勢と高野山にお参りした記録についてお話しします。これは残念ながら鶴沼村の記録ではありません。私は先程のご紹介にもありましたが今から40年ほど前に藤沢市史の仕事で史料調査を致しましたが、そのとき藤沢市域で最も史料が乏しかったのが宿場と鶴沼村でした。それが気になっていましたが鶴沼に住んでいるのでそのうち探せるだろうと思っていましたが40年過ぎましたが一向に探せないのであります。そういうお心当たりの方はご一報いただきたい。また鶴沼を語る会の皆さんで是非古い家の史料を探して頂きたいと思います。

さて、本題に入りますが、この史料は隣村である羽鳥村の三贅家、地元では大三贅と呼んでいます。大きな樹がありますから行けばすぐ分かりますが、この三

菊さんの古文書に「伊勢参宮道中記」というのがございます。それをもとに私が表にまとめたものが5ページ、6ページに載せてあります。

まず1月15日に羽鳥村をスタートしております。年号は上に書いてあります文政11年であります。この時は3人で行っております。

最初の日には小田原に泊っています。宿泊先はそこにあります由左衛門というところであります。賃銭つまり宿賃の分かりますものが下の方にあります、これは銭の単位です。

次の日は箱根権現、三島明神にお参りして沼津に泊って、蒲原に宿泊、それから駿府、駿府というのは今の静岡ですね、そこで浅間神社にお参りをして金谷に行きまして秋葉山にお参りしているのが分かります。秋葉山というのは火伏せの神様です。そしてそのあと鳳来寺、豊川稲荷にお参りし池鯉鮒（今の知立）を経て佐屋というこれは名古屋に近いところですが泊まります。熱田神宮、名古屋城を見学して四日市に行きます。それから津を通過して新茶屋というところを通過して伊勢に入ります。伊勢に着いたのが1月29日ですからスタートして15日目ということになります。ここで帰ってくれば一ヶ月で帰れるというのはそういう意味でございます。

伊勢では一ノ木神主に4泊していますが、この一ノ木神主というのは相模の地域を縄張りに持つ神主であります。

毎年、伊勢神宮の御師たちは伊勢神宮のお札とお守りと伊勢暦などを持って自分の縄張りを一軒一軒廻ります。

こうして伊勢暦というのは全国に配られるのでありますが、これがないと困るのであります。つまりカレンダーですね。中に何が書いてあるかという生活暦が書いてある、農村ではいつ種をまいて、いつ田植えをして、いつ草取りをして、いつ刈り入れるかというようなこまかいスケジュールが書いてあるのです。それはなにも米だけではなく、麦も稗も蕎麦も野菜類も皆書いてあるのです。それも北海道と九州とではかなりズレがありますがそういうこともちゃんと書いてある。

これが山村ですと山に入る日付だとか、材木を伐り出す時期つまり水が出る時ですね梅雨や台風シーズンには川の水位が上がりますからそういう時に山から木を下ろす。

漁村ですと魚が来る時期、たとえばカツオ一つとってもですね鹿児島枕崎から三陸沖までやって来るのに3か月くらいかかります。またモドリカツオもありますね。そういうことが各地域ごとに克明に書いてある。

ですから生活暦として必要ですから買わざるを得ないのであります。

伊勢の御師は大体 500 人ほどおりまして、その 500 人がお札とかお守りとか暦とかを持って日本全国に散らばって行くわけです。ひとりの御師が持って歩く分量はとても馬の 1 匹や 2 匹で背負える分量ではありません。どうするかというと船で運びます。たとえば相模の国ですと、伊勢から三浦三崎まで船で運んでそこからそれぞれの川沿いに置いて行きます。境川、相模川、酒匂川といった大きな川の川沿いに御師宿がありまして、そこから川舟を使って上流に順々に船着場のちかくに宅配便の出張所みたいなところに置いて行く。大抵は山伏の家です。

そこから一日分を背負って出かけるわけであります。この仕組みは高野聖も同様であります。

なぜ一ノ木神主に 4 日も泊っているかお分かりいただけたと思います。伊勢では太々神楽を見物し、内宮、外宮に参拝して朝熊山^{あさまやま}に行っています。

朝熊山というのは伊勢のすぐそばにあります。天ノ岩戸^{あまのいわど}があります。天ノ岩戸は有名などころだけで 5 か所ありますが、そのうちの一つであります。ここでは万金丹という薬を売っています。万病に効くといわれています。なんにも効かないともいわれていますが、兎も角それを買います。それで一応、お伊勢参りが終わりまして、今の関西線沿いを道が走っていますが、それを通って長谷に参ります。長谷観音、三輪明神にお参りをして今度は奈良に参ります。

奈良も方々に行っています。いま我々が行くような寺はみんな行っていますね、しかも、それぞれの寺は拝観料を取っています

初めての人がどうしてそんなに方々に行けるかと申しますと、ちゃんとガイドが付いているのであります。宿屋にガイドが居りまして A コース、B コースなどメニューがあつて、沢山廻りたい人は余計にお金を出せば連れて行ってくれるわけであります。で調べてみますと、それぞれの寺が皆、拝観料を取っているのです。恐らく奈良や京都の寺はこの頃からすでに観光で食べていてお経なんか上げていなかったのではないかと思われるほどです。

そして 2 月 11 日、いよいよ高野山に到着いたします。近親者菩提供養と書いてありますね。そして慈眼院に宿泊しています。

ここで先程の鶴沼村から行って慈眼院に泊まった人の名簿 3 ページの右の方を見て下さい。文政 11 年 2 月 11 日に加藤儀左衛門、関根三左衛門と 2 人の人が泊っています。羽鳥村の人と同じようなコース日程であったと思われます。

さらに慈眼院の宿泊名簿を詳しく調べますと、まず羽鳥村が三觜さん以下 3 名、

鶴沼村 2 名、辻堂村 1 名、小和田村 1 名、茅ヶ崎村 12 名、浜の郷村 1 名、松尾村 1 名、柳島村 2 名、矢畑村 1 名、合計 24 名の方が同じ日の 2 月 11 日に泊っていることが分かりました。つまり今の、藤沢市の南寄りの部分と茅ヶ崎市の海寄りの部分、この辺りの人が一緒に行っているのが分かります。

24 人が高野山に行くということは、伊勢まではこの 2.5 倍、約 60 人の人が東海道筋を一緒に歩いていたことになります。

このように、ほぼ同じ時期に行くというのは帰って来た時の農作業の関係があったものと思われます。この辺りは養蚕をやっていたから、蚕の初蚕を春蚕といいますが、春蚕が始まるときまでに帰ってこなければならぬ。特に女の人は、蚕が始まると徹夜で蚕の世話をしなければならぬのです。男衆は直接忙しいわけではありませんがその時期家をあけるわけには参りません。だから後が切られているのです。

ともかく高野山で一緒であるということは伊勢でも、あるいはスタートも一緒であったと考えてよろしいかと思えます。

道中記に戻りますが、高野山参詣を終わって粉河寺、紀ノ川に沿って下って和歌山に行き紀三井寺、東照宮などを見物して 16 日、加太より船に乗るとあります。加太は和歌山の港です。そこから船で四国に渡ります。2 月 17 日に四国霊場八十八か所の第 1 番札所：壺山寺、第 2 番札所：極楽寺、第 3 番札所：金泉寺、18 日に第 86 番札所：志度寺、20 日には第 75 番札所：善通寺、第 71 番札所：彌谷寺、第 84 番札所：八島寺（道中記には浦島寺と書いてあるが誤記とおもわれる）、第 77 番札所：道隆寺と 88 のうち 8 つの寺を廻っています。

四国に行く主たる目的は金毘羅山にお参りすることであって 2 月 20 日に行っていますね。金毘羅山というのは水の神様であります。金毘羅山に行って周りの札所も廻れるだけ廻って丸亀から船に乗っております。岡山県の田ノ口湊に着いてちょっと上陸して嘸伽山（由加山）に、これは山伏ですが、お参りしています。又、船に乗って兵庫県の室津に 22 日に着いております。3～4 日その辺を廻って 26 日摩耶山に行って、灘にて造り酒屋見物。今と同じですね。利酒かなんかやって、ちょっとお土産かなんか買っているんでしょう。それから西宮大神宮というのは西宮恵比須ですがそこにもお参りして大阪に入ります。

27 日には道頓堀で大芝居を見物しています。ここで相当お金を使うのです。3 人ですから棧敷席を 4 畳くらい買わないと座れません。棧敷の 1 畳は普通のタタミの半分の大きさですから 4 畳でタタミ 2 畳分の大きさです。

そこに芸者を呼んで酒を飲みながら芝居を見るのが、この道中一番の楽しみで必ず行っております。(笑)

大阪を見物して淀川を船で上り京都に参ります。京都も方々を見物していますが、ここで注目して頂きたいのは3月3日、御所にて鶏合せと書いてあります。鶏合せとは闘鶏です。つまり皇居のなかでシャモの喧嘩をさせるのです。金を賭けたかどうかは分かりませんが、この行事は3月3日に決まっています、この日は皇居を公開するのであります。ですから伊勢参りの後、京都まで行く人は必ず3月3日に京都に着くように参ります。

3月5日、津の国屋で藤沢、平野新蔵と会うとあります。ここでまた藤沢から来たグループと一緒にいることが分かります。そして帰りは大してどこも見ずにさっと帰って来ますけど…。

3月16日に箱根に着き、芦の湯に泊っています。17日も箱根に泊っていますね。最後に来て疲れが出たのか、安心したのか知りませんが、宮の下の奈良屋の温泉に入り、お土産を買い、木賀温泉の亀屋に泊ったりしています。この宿賃が1泊2食付きで200文、今のお金で3,000円くらい。いかに今は温泉が高いかということですね。昔、あんたんとは、これで泊めたよということで行ってみたいと思っておりますが、まず無理でしょうね。

この道中で、一番高い宿賃のところはどこかと申しますとですね、高野山であります。2月11日、慈眼院が500文です。8,300円くらいに当たります。2番目に高いのが大阪の平野屋佐吉で463文、7,800円くらい。3番目が伊勢の御師宿一ノ木神主のところ410文、6,800円。その次が京都であります。今もこんな順番かという、どうもそうではなさそうです。高野山は2食ついて10,000円で泊まれます。伊勢も安いけれど京都、大阪の方が高いかも知れません。

この三臂八郎右衛門の全行程が64日間、つまり2ヶ月とちょっとですね。もっと強烈なものになりますと山口県の岩国まで行っています。大抵の所は見つて帰って来るといふものです。

6ページ、表の下に主な支出先を書いております。一番多いのが、京都での支出でお土産代5,250文を含む8,606文。2番目が高野山での7,544文、これには供養料6,400文が含まれております。

今の金額に換算しますと、京都では160,000円、高野山135,000円、以下、大阪100,000円、伊勢80,000円となります。これだけの経済力があつたのです。ここに登場する人たちは皆同じようなコースをたどっております。

日本全国から年間約 50 万人の人が伊勢参りをしております。これらの人が、一人当たり 8 万円ずつ使うとしますとその金額は 400 億円になります。当時は御師宿だけで 500 軒ありました。それに、いわゆる旅籠が 120 軒。そのほか遊興の巷も一杯ありましたから 600~700 軒泊るところがあったわけですから、ある地域から 5~60 人まとまって行ったら一つの宿屋に泊れる、300~500 人収容可能な宿がたくさんあったのです。

今はその面影すらありません。ビジネスホテルが 2 軒あるだけで観光客は皆鳥羽にとられてしまっています。

これは明治元年に神仏分離令が施行され、伊勢神宮を日本の宗廟^{そうびょう}として神社の位のトップに据えようということになった。これは平田派の学者たちが考えたことですが、伊勢神宮の祭神は天照大神でありますから、これから天皇を中心とした政治が始まるについて天皇の祖先神としての天照大神を祭る伊勢神宮をその位に付けたのであります。その時に仏教的施設はすべて撤去され、御師たち下級神官は全員クビになりました。潰したお寺が 80 ヶ寺、クビになった御師が 500 人に及びました。

簡単に言いますと御師はいわば伊勢神宮の営業マンだったわけですから、この営業マンを全員クビにしたら客は集まりっこありませんよね。また、全国いたるところにあった伊勢講も禁止されましたから、どの地方でも金を集めてその利子で伊勢に行くということができなくなりました。ですから伊勢にお出でになれば分かりますが実に閑散としていますが江戸時代は今の内宮の神殿の横まで店屋が並んでおりました。絵図が残っていますけども隆盛を極めたわけですね。少し脱線しましたが本論に戻ります。

表紙の裏のページに戻って頂いて

5：相模国準四国八十八ヶ所

相模国準四国八十八ヶ所設立の目的であります、下に書いてあります浅場太郎右衛門という人が自分の父親の十七回忌に誰もがお参り出来るような霊場を作りたい、と。四国まで行ったんでは 100 万円ではあがりませんから、でも、八十八ヶ所巡りたい、という人もいるだろうということで、そのモデルにしたのが坂東^{ばんとう}霊場巡りです。下総国相馬郡、今の茨城県が一番南の辺りですね。そこに八十八ヶ所を持ってきたものを作っていた。浅場太郎右衛門はこの霊場巡りをしていま

す。それでこれをモデルにしようということになります。

浅場さんは同じ鶴沼の普門寺、真言宗のお寺です。その住職の善応という人に協力を求めます。そうしますと普門寺は藤沢の感応寺の末寺でありますから、善応は感応院の住職に頼んでこの地域の真言宗の大きな寺に働きかけて、それぞれのお寺の境内に弘法大師の座像を置かせてくれないか交渉します。

一方、善応は弟子の浄心という人を四国霊場に派遣します。そして、それぞれのお寺の砂を集めて来ること、砂を集めるといってもそんなに沢山じゃないです。僅かでもいいんですが、それを集めてくる。それから宝印、宝印といいますのはハンコですね。それぞれのお寺のハンコを貰って来る。今は納経帳というのに皆さんお押しになるのですが、それを一枚ずつ、帳面ではなく、色紙みたいなのに一寺一枚ずつ貰って来るのです。その砂と宝印をそれぞれの所に埋めてその上に弘法大師の石像（座像）を安置するのであります。

弘法大師の石像を安置するといってもご覧いただくと分かりますが、おそらく一体 50 万円はかかると思います。石屋さんに訊いてみないと分かりませんが私の所で小さな墓石をつくりましたが、値段は強烈でした。私の所の墓石よりは大きそうに思える座像ですから、かりに 50 万円としても 88 体で 4,400 万円。それに運搬費がかかりますし、安置する際、各々、開眼供養が必要でお寺さんをお呼びでこななければならない。そんなことを考えますと、おそらく倍くらいの費用がかかったのではないのでしょうか、一億円仕事だと思ふのです。で、一人でやったかという必ずしもそうではないのです。大半の部分は浅場さんが出していますが、地元でかなり協力した人もおります。

これが作られたのが文政 3 年～4 年（1820～1821）、旧鎌倉郡と高座郡に作ったのです。2 年間に 88 体の石像を作るということは一人ではとても出来ません。

一つ作るのに少なくとも一ヶ月はかかるでしょうから 7～8 人の石工の集団がいたのではないかと考えられますが、分かっておりません。

で、何のために建てるかといいますと、弘法大師の利益は現当二世の安穩と病氣平癒です。つまり我々の現在の暮らしが安穩であること、死んだら極楽浄土に行くこと、それから今病気に罹っていたらそれを拜めば治るといふ、そういうことを目的に作られております。

そして行程は 4～5 日コースであります。巡礼の時期は春の彼岸であります。なぜかといいますと、弘法大師の命日が 3 月 16 日ですから、その前後を狙ってお彼岸の時期に参ります。皆さんもぜひこの時期にお参り下さい。現当二世の安

穏と病気が治ります。

鶴沼からのコースについてこれは丸山久子さんの50年前の聞き取り調査ですが、それによりますと

第一日目は鎌倉から片瀬

第二日目は茅ヶ崎、柳島

第三日目は寒川から宮山

最後の日は藤沢から俣野

となっています。関東大震災までは盛んであったといますから、もう百年近くになりますが、その頃まではこの地域の人たちも巡礼していたようです。

さて、それでは具体的に山上さんと平野さんの史料、両方を照合しながら作ったのが7～10ページの表であります。表には載せませんでした。浅場さんは準四国八十八ヶ所の一つ一つに御詠歌を作っておられます。そして本来の四国八十八ヶ所の御詠歌とふたつ並べてあります。

表の太字の部分、たとえば7ページ最初の行、藤沢宿大鋸感応院、右に行きまして阿波霊山寺1番、が史料に依ったもので、明朝体の部分は私が調べて書きこんだものであります。最初の感応院はこちらでも1番、阿波でも1番であります。10ページ最後の行、88番鶴沼普門寺別堂、これは四国の方も讃岐の大窪寺88番と一致しますがそれ以外のものはまったく一致しません。それは浅場さんが書いているところによりますと、四国と地形が似ていたり、全体の雰囲気似ているところを順次当てはめていったと書いています。

そんなわけで感応院はどこに相談したかといいますと7ページ10番目^{しょうれんじ}青蓮寺という鎌倉手広にありますが、この寺は末寺をたくさん持っているのです。ここに相談した。それから8ページ27番鶴沼の普門寺、9ページ45番茅ヶ崎の円蔵寺これは大きな寺です。62番寒川の安楽寺、その辺りと相談しながら真言宗の自分の所の末寺に置かせているのが分かります。真言宗の寺だけでは足りませんから他の宗派の寺にも置いていますし7ページを見ても分かるように村にあります御堂にも置いております。たとえば2番の関屋の地藏堂、3番の高谷の弥陀堂それから少し飛んで16番の川名の地藏堂、17番の舟久保の不動院（堂）その次は、18番砂山の観音堂、19番蔵前の稲荷社、21番鶴沼東の観音堂、22番鶴沼東の毘沙門堂などです。そうしてみますと神社にも置いていることが分かります。

廻る順番としては表の左の番号順に1番から88番まで廻るのが正規のルートであります。がですね、浅場太郎右衛門は必ずしも原則通りに行かなくてもよろ

しいと書いています。先程の鶴沼の人の行程ですと最後の日に藤沢から俣野に行くようになっていて、そうなりますと1番の感応院が最後になってしまうということになります。ですから順番にはそうこだわっていなかったことが分かります。

つぎに浅場太郎右衛門とはどんな人物であったかを少し推理をしてみようと思います。

2ページに戻って下さい。その中から浅場太郎右衛門を拾い出してみます。左の欄下から1/3ほどに寛保3(1743)年6月10日、それから右の欄上の方に明和8(1771)年8月24日、安永2(1773)年3月19日、と3年間に2回行っています。

3ページにいて左の欄、26年ほど経った寛政11(1799)年1月23日、寛政12(1800)年3月21日、享和3(1803)年閏1月3日と5年間に3回も行っています。

この人物は文化2(1805)年に亡くなっています。

そのあと文化9(1812)年2月8日に苗字の記入がない太郎右衛門がいますが多分、浅場太郎右衛門と思われます。

下の方に、文政4(1821)年2月26日浅場太郎左衛門とあるのは太郎右衛門の間違いで、この時の記録が残っておりまして伊勢、高野山だけではなく、そのあと百観音巡りをしたことが分かっております。ということは西国三十三番、坂東三十三番、秩父三十四番をめぐってお参りをしている。この人は文政10(1827)年に亡くなっています。そうすると先程の人物は父親だと思われます。生前親父さんがしきりに高野山に行っていた。この表で見ると6回行っています。その父親の気持ちを察して自分も2回行き、さらに百観音巡りを完了した段階で弘法大師像を建てよう、父が亡くなって、その十七回忌に準四国八十八ヶ所の霊場を建立しよう、そういう気持ちになったものと思われます。

それからもう一つあります。

2ページ右側の欄上から4行目、明和6(1769)年5月12日渡辺万右衛門という人がいます。この人はですね、伊勢、高野山のあと四国八十八ヶ所をすべて廻っております。そのすぐ後に浅場太郎右衛門が2度も登場します。おそらく渡辺万右衛門がそういうところを廻ったことを浅場太郎右衛門は知っていたと思われます。それも相模国準四国八十八ヶ所建立のヒントになったと思われます。

この渡辺万右衛門が四国を廻った記録が2、3年前に普門寺の阿弥陀様の解体修理をしたときに阿弥陀様の胎内から出てきました。

つまり、もともと弘法大師信仰というのがずっと前からこの地域にあって、おそらくこういう講が組まれて行くようになったのは1600年前後からで団体で行

っております。ほかのところが行っていますから、ここからも行ったでしょう。

そういう素地があったところに自分たちの仲間で父と同世代の渡辺万右衛門が四国八十八ヶ所巡りをした。太郎右衛門が高野山のあとどこに行ったかというのは記録がないのです。もし浅場さんの御縁の方の家に記録が残っていれば、自分も四国へ行ってそういうことを体験し、それを皆に分かち合いたいということで建てただろうという推理が出来るのですが、史料不足でそこまでは行かないのですね。ただ、そういうことがあったかも知れないと思うのであります。

そういうわけで父の遺志を継いで息子が建てた、ということになります。この息子の方の浅場太郎右衛門もかなり信仰に熱心だった人で、先に申しました百観音巡りのほか、長野の善光寺に結願けつがんをしております。やはり相当な人物であったのだと思いますし、浅場家にはそれなりの経済力があつただろうと推測されます。

息子の太郎右衛門は文政 10(1827)年に亡くなっていますがその時に院号戒名を貰っています。これはお寺としても功労者と位置付けていたことの表れだと思われれます。

さきほども見ましたように大師像が置かれたのは藤沢が一番多い、藤沢の中でも鶴沼が一番多いのです。やはり自分が生まれ育ったところを中心にして八十八ヶ所を作っていたと考えていいと思います。7ページの表をもう一度開けて下さい。地名、寺社名、宗派名の次に「所在地、旧郡名」という欄を入れておきました。所在地は現在の行政区です。1～17番目までが旧鎌倉郡（藤沢市、鎌倉市）に入ります。18番目以降はずっと高座郡がつづきます。8ページ40番目まで藤沢市、41～44番目までと次の9ページ45～58番目までが茅ヶ崎市、59～64番目までが寒川町、65番目に藤沢市がひとつ入りまして66～69番目までが又、寒川町、70～75番目まで又茅ヶ崎市、76～88番目までが87番（横浜市）を除いて全部、藤沢市です。

6：四国八十八ヶ所の実態

11ページ、上の左の表は相模国準四国八十八ヶ所寺院宗派名と寺院数の関係を表しています。高野山が古義真言宗ですので圧倒的に古義真言宗が多いのが分かります。不明を除きますと64%にあたります。次が曹洞宗、禪宗ですね。それから浄土宗、天台宗です。不明というのは地藏堂、観音堂、弥陀堂といったたぐいでありませう。

上の右の表は四国八十八ヶ所霊場寺院の地域割りであります。

阿波の国（徳島県）	1～23 番札所	23 ヶ寺
土佐の国（高知県）	24～39 番札所	16 ヶ寺
伊予の国（愛媛県）	40～65 番札所	26 ヶ寺
讃岐の国（香川県）	66～88 番札所	23 ヶ寺

最も多いのは愛媛県、最も少ないのが高知県であるのが分かります。

下の表はその寺院の宗派分布を表しています。16の宗派の名と寺数の多い順に書いてありますが上から11番目までが真言宗です。真言宗の中にもそこにございますようにいろんな何々派というふうに分かれましたが、こういう宗教法人が出来たのは戦後のことでありまして1947年にこういう形になってそれぞれのところが自分の所が本山だというようになった。江戸時代はそうではありませんでした。そこで、とにかく真言宗と名の付く11番目までの寺院数を集計しますと80ヶ寺になり、全体の91%になります。のこりの8ヶ寺は天台宗4、臨済宗2、曹洞宗1、時宗1であります。

12ページに相模国準四国八十八ヶ所の順路を地図にしております。私が作りました。廻る順番はこういうコースで廻ればいい、ということです。早速明日からでもお廻り頂きたいと思えます。中途半端な散歩をするよりも余程御利益があります。病気にも効きます。

最後のページに幹事の方にお世話をかけまして鶴沼地区の札所を写真と地図にまとめて頂いたものがございます。最小限度これだけでも廻って頂いて利益を受けて頂きたいというふうに存じます。

むすび

一応、結びらしいことを申し上げなければならないのですが、今まで申し上げてきましたように我々の先祖の信仰というものは1550年代に高野山信仰というものがスタートしたらしいということです。そして1600年つまり関ヶ原の戦いの頃までには、この地域はほぼ完璧に慈眼院の檀家として抑えられている。抑えられているという語弊がありますが把握されているといつていいでしょう。

これはですね寺で檀家帳というのを作っているのです。この檀家帳というのを圏内の各郡ごと各村ごとに作りました。2万3千軒拾い出せます。

それから慈眼院の宿帳のほうですが1万7千人のリストを作りました。ですか

ら完璧なデータを高野山は持っていたわけでありませぬ。ただフラッと高野聖がきてその辺の人にお札を配ったというのではないのです。何故苗字が必要だったかといいますと一つの村に太郎兵衛とか次郎兵衛とかが3人も5人もいるわけですね。山田さんなのか、田中さんなのか、山上さんなのか、関根さんなのかはつきりしないとお札が配れないのです。

宗門人別帳といひまして江戸時代の戸籍があります。これはそれぞれの村で作っている。その戸籍には苗字は入っていません。高野聖はその戸籍をですね世話人の所へ持って行って苗字を書き入れて貰っています。ですから逆に地元には苗字の入った帳面というのは残っていないのです。ところが高野山とか伊勢神宮にいきますと向こう側には苗字入りが残っている、そういうわけですね非常に貴重な史料ということが出来ます。

浅場太郎右衛門に話を戻しますが、この親子というのは非常に信仰に熱心で、こういう信仰圏を作って行こうとした。それには莫大な費用を要したでしょうし、それを賄える経済力もあったということです。こうした行為は特異なことではなく、日本全国に亘っていて、今残っているだけでも100か所以上ございます。

ただ、鶴沼村からこういう方が出て、普門寺さんがそれに積極的に協力をして「相模国準四国八十八ヶ所」を作り上げたというところに非常に大きな意味があると思うのであります。

私の話はこれで終わりに致します。御清聴有難うございました。

…拍手…

質疑応答

問：当時の街道の様子はどんなでしたか。

答：まず宿の問題ですが、宿はですね、先ほども申しましたとおりこの近隣だけで60人くらい行っておりますが、実は相模の国で一つの村で一番沢山行っているのは海老名に本郷という村がありますが、この村から140人高野山に行っております。ですから伊勢までは、この2.5倍ですから350人くらい行っている勘定になりますね。ですから東海道筋には200～300人収容可能な宿屋が各宿場に何軒もあったと考えられます。

つぎに道中の警備や安全はどうであったかといいますと、これは安全であった

と思います。大体、江戸時代の五街道の整備は 1650 年代までにほぼ完了しています。五街道のそれぞれの宿場には今で言う警察力というものがある、そう簡単に追剥が出るということはありません。それともう一つは伊勢参官の旅は夜は歩きません。しかも団体で歩きます。そういうことを考慮しますと、警備は問題なかったと考えられます。ある偉い人のお書きになった本で松尾芭蕉が奥の細道に行った、大変危険なところであると書いておられるのですが、それは東北を馬鹿にしていると私は思います。何故なら、伊勢参りと同じように出羽三山巡りというのをやります。伊勢に行って 3 年経って出羽三山に行きます。それで出羽三山に行く時は、坂東三十三観音と秩父霊場を廻って参ります。松尾芭蕉が行ったのは元禄のころですから、もうその時はいわゆる出羽三山参詣というのは出来上がっていた。大体寛永ですから 1640 年代には、道路の整備も宿場の整備も出来上がっております。たとえば出羽三山には 8 か所の入り口がありますがその道も全部整備され隆盛を極めておりました。

問：女人禁制の実態についてお聞かせ下さい。

答：高野山に行くのに三条駅からバスに乗りますとバスの中で「高野山は清浄な山でございます。他の山は明治元年から女人に開放されましたが、この山は明治 6 年まで禁制でありました。」という趣旨のアナウンスがあります。入口、入口に女人堂があって女性はそこに泊めたという、これは高野山大学のある先生がそんな講演をしましたので、それはおかしいのではないか、お金を集めるときは女性からも集めているわけだから、半分の人口を無駄にすることはないだろう。また中に入ってきたらその人たちも金を出してくれるのではないかと絡みましたが、私がそう言った理由はですね、慈眼院の檀家帳 17,000 人分を集計した時、その中に 100 人くらいの女性が泊まった記録が載っているのです。

建前は女人禁制ですが現実には亭主と一緒に泊っていると、親が娘を連れていっているとかいう記録がありまして、宿帳の横に担当の坊さんがいろんなことを書き込んでいます。一番面白いのは「天下一の美女なり」なんてことを書いてある…こんなこと見なけりゃ分からないことですよ。(笑) だから当然女性も泊っていた。

17,000 人中 100 人ですから比率は少ないですが相模の国から女性がついて行くというのは並大抵のことじゃないわけで、たとえば畿内ですとか、もっと近いところの人は、当然、夫婦で行くというのは日常的なことで女性の入山比率はも

っと高くなると思われます。

それで何回かそういう事件があるのです。女性が山に入って怪しからんという史料が残っております。残っているということは入っているということですね。

奥の院に入る入り口の所にお堂があります。これを建てるとき全国から金を集めるのですが、そのとき江戸に来た高野聖が日記を残しています。それには芸者から取らない手はないだろう、また、遊女から取らない手はないだろうということで吉原ですとか深川ですとかから相当の金を集めております。男も女も極楽に行けるのだから開眼供養のときにはいらっしやいと書いているのです。それで行くんですよ。供養の前の晩から夜陰にまぎれて相当な数入ります。1,000人近くの女性が入っています。

高野山の僧侶の階級に学侶^{がくりよ}と行人^{ぎやうにん}と聖^{ひじり}というのがあります。学侶というのは中にいて威張っている。学侶はそんなこと言っていないといっているんですね。そういう怪しからん事をしたのは行人と聖に違いないといって幕府に訴えるのです。それで処罰されるのです、そういう記録が現実に4回分残っています。

建物を建てるので金を集めるとき、男だけだよ、女は駄目だよ、なんて集めませんよね。女性の方が金を持ってたらそっちから取った方がいいわけですから。

そういうことで女人禁制といって女人堂があるからそれでおしまい。というふうには考えないで頂きたい。あれはあくまで建前であって、たとえば慈眼院の記録をみても、さきほど100人の女性が泊っていると申しましたが、やっぱり女人堂に帰るといって帰った人もいます。ですから入山した女性はもったいしたことになります。

以上でお答えになっていますでしょうか。

…拍手…

司会：以上を持ちまして公開講座を終了いたします。

* * *

この講演は2008年9月27日、鶴沼公民館ホールにおいて開催されました

「鶴沼公民館サークル共催講演会 主催：鶴沼公民館、共催：鶴沼を語る会」

の録音テープから書き起こしたものです。 (テープ起こし：岡田 哲明)

講師紹介

圭室 文雄（たまむろ ふみお）氏

^{たまむろたいじょう}
圭室諦成（仏教学者 駒沢大学・明治大学教授）の長男
として 1935 年 神奈川県高座郡藤沢町鶴沼で生まれる
現在も鶴沼松が岡 3 丁目に居住
國學院大學文学部卒業
明治大学大学院文学研究科博士課程履修
近世仏教史が専門
明治大学教授を経て明治大学名誉教授
日本近代仏教史研究会会長 日本風俗史学会会長
藤沢市史編纂委員 寒川市史編纂委員長を歴任

主要著書

『江戸幕府の宗教統制』（評論社）
『日本仏教史：近世』（吉川弘文館）
『葬式と檀家』歴史文化ライブラリー（吉川弘文館）
『日本人の宗教と庶民信仰』（吉川弘文館）
『神仏分離』（教育社）
『遊行 日鑑』1～3 巻（角川書店） など多数

なお、この講演の後、鶴沼を語る会に入会されました。

鵠沼公民館サークル共催講演会

江戸時代

鵠沼村庶民の弘法大師信仰

～相模国準四国八十八ヶ所札所巡りの成立～



講師：^{たまひろ} 圭室 ^{ふみお} 文雄氏 (明治大学名誉教授)
 日時：2008年9月27日(土) 14時～16時
 会場：鵠沼公民館ホール
 主催：鵠沼公民館/鵠沼を語る会

江戸時代 鶴沼村庶民の弘法大師信仰

- | | | |
|---|-------------------|--------|
| 1 | 相模国の庶民の弘法大師信仰の始まり | p 1 |
| 2 | 高野山慈眼院に宿泊した人々 | p 2～3 |
| 3 | 鶴沼村に住んでいた人々の苗字 | p 4 |
| 4 | 伊勢参宮と高野山参詣 | p 5～6 |
| 5 | 相模国準四国八十八か所 | p 7～10 |

設立の目的・モデルとしたのは下総国相馬郡・
 設立者浅場太郎右衛門・普門寺住職善応・
 弟子浄心を四国霊場に派遣、砂を集める・
 文政3～4年(1820～21)弘法大師石像の設立・
 石工集団は不明・利益は現当二世の安穏と病氣平癒・
 全行程は4～5日のコース・巡礼の時期は春の彼岸・
 鶴沼からのコースは

- 一日目は鎌倉・片瀬、
- 二日目は茅ヶ崎・柳島、
- 三日目は寒川・宮山、
- 四日目は藤沢～俣野、

関東大震災(1923年)ごろまで盛んであった。

- | | | |
|---|------------|------|
| 6 | 四国八十八か所の実態 | p 11 |
| | む す び | |

史料 「高野山月牌帳」 高野山高室院文書
 「慈眼院登山帳」 〃
 「伊勢参宮道中記」 藤澤市羽鳥 三臂博家文書
 「再版新四国八十八か所」 藤沢市鶴沼山上家文書
 「相模国準四国八十八箇所」 藤沢市藤沢平野雅道家文書

参考文献	真柴敬典「相模国準四国八十八ヶ所開創の考証と詠歌」	茅ヶ崎市南湖金剛院	1964年
	丸山久子「弘法大師新八十八ヶ所の霊場とその御詠歌」(『藤沢民俗文化』8)		1974年
	樋田豊宏「相模国準四国八十八か所について」(『藤沢市史研究』6)		1975年
	三木洋「相模国準八十八か所～弘法大師石像をめぐるて」		1994年
	圭室文雄「相模国準四国八十八か所」(『寒川町史』10別編第5章第4節)		1997年

高野山高室院 相模国月牌帳(神奈川県)
参考文献

「高室院月牌帳」 高野山高室院文書

西暦	二字・二字禪定門尼	四字・四字禪定門尼	信士・信女	居士・大姉	院号	合計
1536~1540		2				2
1541~1550	37	8				45
1551~1560	122	3		1		126
1561~1570	134	12		1		147
1571~1580	139	21		2		162
1581~1590	341	60	3	2	1	407
1591~1600	229	31		3		263
1631~1640			7			7
1641~1650	8	26	55			89
1651~1660	13	11	80			104
1661~1670	10	91	244			345
1671~1680	13	58	144			215
1681~1690	67	82	74		1	224
1691~1700	82	111	92	6		291
1701~1710	27	83	107	2		219
合計	1222	599	806	17	2	2646

配付資料：P-2

登山年月日	姓名	備考	姓	名	備考
正徳 1(1711)	6 21 森井	金右衛門	明和 3(1766)	6 29 山田	四郎左衛門
正徳 1(1711)	6 21 山口	平左衛門	明和 3(1766)	6 29 渡辺	三郎
正徳 1(1711)	6 21 渡辺	新右衛門	明和 6(1769)	5 12 森	半右衛門
正徳 1(1711)	6 26 小菅	平左衛門	明和 7(1770)	3 6 渡辺	万右衛門
正徳 1(1711)	6 26 板井	七郎兵衛	明和 8(1771)	8 24 渡邊	六右衛門
正徳 1(1711)	6 26 宮崎	所左衛門	安永 2(1773)	3 19	太田右衛門
正徳 1(1711)	6 26 宮崎	伝九郎	安永 2(1773)	3 19 渡邊	普門寺
正徳 1(1711)	6 26 八橋	茂右衛門	安永 2(1773)	3 19 伊藤	太郎右衛門
正徳 1(1711)	6 26 八橋	与左衛門	安永 2(1773)	3 19 小林	勘次郎
正徳 1(1711)	7 4 渡邊	重右衛門	安永 2(1773)	3 19 斎藤	三左衛門
正徳 1(1711)	7 4 渡邊	重郎兵衛	安永 2(1773)	3 19 関根	六左衛門
正徳 1(1711)	7 4 渡邊	惣右衛門	安永 2(1773)	3 19 関根	伝左衛門
正徳 1(1711)	7 4 鈴木	新右衛門	安永 2(1773)	3 19 榎葉	久兵衛
正徳 1(1711)	7 4 宮崎	源五郎	安永 3(1774)	2 22 関根	万右衛門
正徳 2(1712)	5 7 榎本	八兵衛	安永 9(1780)	3 19	源藏
正徳 3(1713)	2 8 相沢	伝兵衛	安永 9(1780)	3 19 渡邊	普門寺
正徳 3(1713)	2 8 田中	長三郎	安永 9(1780)	3 19 渡邊	三郎
正徳 3(1713)	2 8 森井	置左衛門	安永 9(1780)	3 19 渡邊	置左衛門
正徳 3(1713)	2 8 山口	五郎左衛門	安永 9(1780)	3 19 榎本	孫左衛門
正徳 3(1713)	2 8 山口	清右衛門	安永 9(1780)	3 19 工藤	金兵衛
正徳 3(1713)	2 8 山口	彦四郎	安永 9(1780)	3 19 斎藤	久四郎
正徳 3(1713)	2 8 山口	平右衛門	安永 9(1780)	3 19 関根	元右衛門
正徳 3(1713)	2 8 山口	致右衛門	安永 9(1780)	3 19 関根	伝五郎
正徳 3(1713)	2 8 山口	門右衛門	安永 9(1780)	3 19 高橋	茂右衛門
享保 8(1723)	2 22 普門寺	普門寺	安永 9(1780)	3 19 高橋	友右衛門
享保 8(1723)	2 22 法照寺	法照寺	安永 9(1780)	3 19 森	七兵衛
享保 8(1723)	2 22 小林	森右衛門	安永 9(1780)	3 19 山上	八左衛門
享保 8(1723)	2 22 原田	小兵衛	安永 9(1780)	3 19 山上	八郎兵衛
享保 8(1723)	2 22 森	武左衛門	安永 9(1780)	3 19 山口	六郎右衛門
享保10(1725)	7 1 渡邊	伝右衛門	天明 4(1784)	3 18	芳官房
享保10(1725)	7 1 井上	治左衛門	天明 6(1786)	4 3 石田	太郎兵衛
享保10(1725)	7 1 榎本	尊五郎	天明 6(1786)	4 9 渡邊	幸右衛門
享保10(1725)	7 1 小林	伊兵衛	天明 6(1786)	4 9 渡邊	清右衛門
享保10(1725)	7 1 小林	新五郎	天明 6(1786)	4 9 新家	折右衛門
享保10(1725)	7 1 森井	武兵衛	天明 6(1786)	4 9 関根	義兵衛
享保10(1725)	7 1 小林	空右衛門	天明 6(1786)	4 9 高橋	才治郎
享保10(1725)	7 1 関根	渡右衛門	天明 6(1786)	4 9 宮崎	清四郎
享保10(1725)	7 1 関根	源次郎	天明 6(1786)	4 9 森井	作左衛門
享保10(1725)	7 1 長谷川	七左衛門	天明 6(1786)	4 9 森井	佐兵衛
享保19(1734)	3 12 普門寺	普門寺	天明 6(1786)	4 9 森井	太兵衛
享保19(1734)	3 20 小林	森右衛門	天明 6(1786)	4 9 山上	真七
元文 5(1740)	1 26 渡邊	十郎右衛門	天明 6(1786)	4 9 山口	五郎兵衛
元文 5(1740)	1 26 田名瀬	七兵衛	天明 6(1786)	4 9 山口	才兵衛
元文 5(1740)	1 26 森井	藤兵衛	天明 6(1786)	4 9 山口	平兵衛
寛保 3(1743)	6 10 智光房	智光房	天明 6(1786)	4 9 山口	安五郎
寛保 3(1743)	6 10 普門寺	普門寺	天明 6(1786)	4 9 渡邊	市郎右衛門
寛保 3(1743)	6 10 渡邊	太郎右衛門	天明 6(1786)	4 9 渡邊	長松
寛保 3(1743)	6 10 小林	三左衛門	天明 7(1787)	9 22	晴山
寛保 3(1743)	6 10 斎藤	甚左衛門	天明 8(1788)	3 22	尾沙門堂
寛保 3(1743)	6 10 関根	伝左衛門	天明 9(1789)	1 30 山口	乙松
寛保 3(1743)	6 10 高橋	吉兵衛	寛政 4(1792)	4 28 関根	勘左衛門
寛保 3(1743)	6 15 渡邊	孫右衛門	寛政 5(1793)	2 1 渡邊	金兵衛
寛保 3(1743)	6 15 小林	摩右衛門	寛政 5(1793)	2 1 渡邊	文七
寛保 3(1743)	6 15 斎藤	伝右衛門	寛政 5(1793)	2 1 板橋	四平
寛保 3(1743)	6 15 斎藤	元右衛門	寛政 5(1793)	2 1 関根	忠左衛門
寛保 3(1743)	6 15 関根	勘左衛門	寛政 5(1793)	2 1 関根	伝左衛門
寛保 3(1743)	6 15 山上	佐五左衛門	寛政 5(1793)	2 1 関根	孫七
寛保 3(1743)	6 15 山口	庄左衛門	寛政 5(1793)	2 1 竹内	孫八
寛保 3(1743)	6 15 口	森右衛門	寛政 5(1793)	2 1 羽山	又兵衛
寛保 4(1744)	6 9 小林	森右衛門	寛政 5(1793)	2 1 宮崎	長四郎
延享 4(1747)	8 24 多聞院	武州山伏下 同道 (修)	寛政 5(1793)	2 1 山上	源七
宝暦 8(1758)	7 4 堀沢	庄左衛門	寛政 5(1793)	2 1 渡邊	致右衛門
宝暦13(1763)	4 18 高橋	吉三郎	寛政 5(1793)	2 1 渡邊	清左衛門
明和 3(1766)	6 29 斎藤	権右衛門	寛政 8(1796)	1 29 斎藤	忠兵衛
明和 3(1766)	6 29 高橋	吉兵衛	寛政 8(1796)	1 29 関根	権右衛門
明和 3(1766)	6 29 高橋	与兵衛	寛政 8(1796)	1 29 榎本	直五郎
明和 3(1766)	6 29 森井	角左衛門	寛政 8(1796)	2 3 榎葉	六兵衛
明和 3(1766)	6 29 森井	多左衛門	寛政 8(1796)	2 3 須藤	市郎

(古)
六部也、於此寺
剃髮為致門心、
申候

(古)

普門寺現住 (古)

普門寺現住 (古)

配付資料：P-3

登山年月日	姓名	備考	
寛政 8(1796)	2 3 永井	□□□	
寛政 8(1796)	2 3 林	佐五右衛門	
寛政 8(1796)	2 3 森	武左衛門	
寛政 11(1799)	1 23 淺場	太郎右衛門	
寛政 11(1799)	1 23 須藤	勘右衛門	
寛政 11(1799)	1 23 山口	六郎右衛門	
寛政 11(1799)	1 23 渡辺	勘右衛門	
寛政 12(1800)	3 21 淺場	太郎右衛門	
寛政 12(1800)	3 21 斎藤	元右衛門	
寛政 12(1800)	3 21 関根	勘左衛門	
寛政 12(1800)	3 21 山口	久右衛門	
享和 3(1803)	関 1 3 伊藤	太郎右衛門	
享和 3(1803)	関 1 3 林	佐吉	
享和 3(1803)	関 1 3 藤原	利右衛門	
享和 3(1803)	関 1 3 森	武兵衛	
享和 3(1803)	関 1 3 渡辺	鉄五郎	
享和 3(1803)	関 1 3 渡辺	徳治郎	
享和 3(1803)	4 5 おこめ	伝右衛門	
享和 3(1803)	4 5	毘沙門堂隠居	
文化 4(1807)	1 26 伊藤	清五郎	
文化 4(1807)	1 26 岩田	徳右衛門	
文化 4(1807)	1 26 菅野	久左衛門	
文化 4(1807)	1 26 小林	久左衛門	
文化 4(1807)	1 26 関根	与兵衛	
文化 4(1807)	1 26 宮崎	権左衛門	
文化 4(1807)	1 26 森居	太郎兵衛	
文化 4(1807)	1 26 山口	佐右衛門	
文化 4(1807)	1 26 渡辺	藤左衛門	
文化 7(1810)	6 29 関根	伝左衛門	
文化 9(1812)	2 3	源右衛門	
文化 9(1812)	2 3	源七	
文化 9(1812)	2 3	長五郎	
文化 9(1812)	2 8	太郎右衛門	
文化 9(1812)	2 8	藤右衛門	
文化10(1813)	2 1 小菅	太郎左衛門	
文化10(1813)	2 1 小林	佐兵衛	
文化10(1813)	2 1 宮崎	和右衛門	
文化11(1814)	1 26	市右衛門	
文化11(1814)	1 26	仁右衛門	
文化11(1814)	1 26	茂右衛門	
文化11(1814)	1 26	左左衛門	
文化12(1815)	4 8 加り田	好右衛門	
文政 2(1819)	2 1	喜八	
文政 2(1819)	2 1	金五郎	
文政 2(1819)	2 1	三郎兵衛	
文政 2(1819)	2 1	七郎右衛門	
文政 2(1819)	2 1	清五郎	
文政 2(1819)	2 1	代吉	
文政 2(1819)	2 1	藤助	
文政 2(1819)	2 1	徳兵衛	
文政 2(1819)	2 1	八右衛門	
文政 2(1819)	2 1	又左衛門	
文政 2(1819)	2 1	又兵衛	
文政 2(1819)	2 1	吉松	
文政 4(1821)	2 21 岩下	喜太郎	
文政 4(1821)	2 21 高橋	友吉	
文政 4(1821)	2 21 橋本	久兵衛	
文政 4(1821)	2 25 山口	平左衛門	
文政 4(1821)	2 26 淺場	太郎左衛門	
文政 4(1821)	2 26 小林	三左衛門	
文政 4(1821)	2 26 関根	伝左衛門	
文政 4(1821)	2 26 関根	茂右衛門	
文政 4(1821)	2 26 林	佐五右衛門	
文政 4(1821)	2 26 山上	八左衛門	
文政 4(1821)	2 26 山口	佐右衛門	
文政 4(1821)	2 26 渡辺	伊兵衛	
文政 5(1822)	関 1 28	藤兵衛	
文政10(1827)	2 1 淺場	弥五兵衛	
文政10(1827)	2 1	内田	金三郎

クダ
クダ
クダ

下人1人

文政10(1827)	2 1	関根	仁兵衛
文政10(1827)	2 1	関根	徳左衛門
文政10(1827)	2 1	関根	安右衛門
文政10(1827)	2 1	宮崎	清四郎
文政10(1827)	2 1	宮崎	利右衛門
文政10(1827)	2 1	宮沢	平左衛門
文政10(1827)	2 1	山口	作兵衛
文政10(1827)	2 1	山口	伝七
文政10(1827)	2 1	山口	六兵衛
文政10(1827)	2 11	加藤	徳左衛門
文政11(1828)	2 11	関根	三左衛門
文政11(1828)	2 11	関根	毘沙門堂
天保10(1839)	8 3		鹿虎房
天保11(1840)	4 20		太郎右衛門
天保12(1841)	関 1 10	淺場	文四郎
天保12(1841)	関 1 10	淺場	市兵衛
天保12(1841)	関 1 10	志村	武兵衛
天保12(1841)	関 1 10	関根	甚兵衛
天保12(1841)	関 1 10	橋本	曾右衛門
天保12(1841)	関 1 10	林	蔵七
天保12(1841)	関 1 10	林	彦左衛門
天保12(1841)	関 1 10	栗山	市郎左衛門
天保12(1841)	関 1 10	森	乙右衛門
天保12(1841)	関 1 10	森	藤兵衛
天保12(1841)	関 1 10	森	武兵衛
天保12(1841)	関 1 10	山口	久左衛門
天保12(1841)	関 1 10	山下	与三左衛門
天保12(1841)	関 1 10	ワタナベ	市右衛門
天保12(1841)	2 14	宮崎	清四郎
天保14(1843)	2 14	宮崎	利右衛門
弘化 2(1845)	2 8	内田	喜三郎
弘化 2(1845)	2 8	斎藤	弥五右衛門
弘化 2(1845)	2 8	中村	徳兵衛
弘化 4(1847)	2 10	関根	佐七
弘化 4(1847)	2 10	関根	甚八
弘化 4(1847)	2 10	山上	茂助
弘化 4(1847)	2 10	山口	伊右衛門
弘化 4(1847)	2 15	淺場	太郎左衛門
弘化 4(1847)	2 15	小林	三左衛門
弘化 4(1847)	2 15	関根	庄左衛門
弘化 4(1847)	2 15	関根	伝左衛門
弘化 4(1847)	2 15	宮崎	宇右衛門
弘化 4(1847)	2 15	森井	作左衛門
弘化 4(1847)	2 15	山上	八左衛門
弘化 4(1847)	2 15	渡辺	小兵衛
弘化 5(1848)	1 29	淺場	源兵衛
弘化 5(1848)	1 29	淺場	重郎兵衛
弘化 5(1848)	1 29	淺場	清五郎
弘化 5(1848)	1 29	板橋	甚兵衛
弘化 5(1848)	1 29	栗山	六兵衛
弘化 5(1848)	1 29	扇場	平次郎
弘化 5(1848)	1 29	渡辺	藤十郎
嘉永 5(1852)	3 11		寛調房
安政 3(1856)	2 6	淺場	太右衛門
安政 3(1856)	2 6	小菅	清右衛門
安政 3(1856)	2 6	斎藤	弥五右衛門
安政 3(1856)	2 6	関根	伊兵衛
安政 3(1856)	2 6	関根	勘左衛門
安政 3(1856)	2 6	関根	重五郎
安政 3(1856)	2 6	関根	甚八
安政 3(1856)	2 6	宮崎	五郎左衛門
安政 3(1856)	2 6	宮崎	清左衛門
安政 3(1856)	2 6	山上	茂助
安政 3(1856)	2 6	山口	由右衛門
安政 3(1856)	2 6	渡辺	万右衛門
安政 6(1859)	9 3		万福寺
安政 6(1859)	9 3		権左衛門
安政 6(1859)	9 3		万福寺道持
慶応 3(1867)	8 13		普門寺
		淺場	太郎右衛門
			五郎兵衛
			三左衛門

普門寺弟子〈古〉

普門寺資〈古〉

外、普1人
〈浄真〉
〈古〉

名主、村中不渡
檀所

江戸時代 鵜沼村に住んでいた人々の苗字 (1711~1867)

(五十音順 敬称略)

相沢	浅場	麻葉	石田	板橋
伊藤	井上	岩下	岩田	内田
榎本	加藤	加り田	菅藤	工藤
桑山	小菅	小林	斎藤	桜井
志村	新家	鈴木	須藤	関根
高橋	竹内	田中	田名瀬	永井
中村	橋場	橋本	榛葉	長谷川
葉山	羽山	林	原田	馬場
堀沢	宮崎	宮澤	森	森井
森居	八橋	山上	山口	山下
山田	渡辺	渡鍋	渡部	

参考文献

「慈眼院登山帳」 高野山高室院所蔵文書

文政7年(1824)現在、鵜沼村村高700石、家数258軒(『新編相模国風土記稿』)

伊勢参宮道中日記にみる見物・宿泊地

文政11年 (1828)

月	日	主な見物場所	宿泊地	宿泊先	宿賃銭
1	15	羽鳥村出発	小田原宿	由左衛門	
1	16	箱根権現・三島明神	沼津	虎屋与右衛門	
1	17		蒲原宿	まきや	
1	18		駿府	中菊屋	
1	19	駿河浅間社	金谷宿	松屋	
1	20		戸倉	大田屋	
1	21	秋葉山	大野	山形屋与兵衛	
1	22	鳳来寺・豊川稲荷	大野	山形屋与兵衛	
1	23		赤坂宿	輪違屋	
1	24	八橋山無量寺	池鯉鮒	木綿屋嘉七	
1	25	池鯉鮒明神・熱田明神・名古屋城	佐屋	えびすや藤八	
1	26	桑名城	四日市	本陣清松	
1	27	白子観音	津	若狭屋六右衛門	
1	28	安濃津観音	(新茶屋)	秋田屋浅右衛門	
1	29		伊勢	一ノ木神主	410
1	30	太々神楽見物	伊勢	一ノ木神主	410
2	1	伊勢外宮・伊勢内宮・朝熊山・古市踊見物	伊勢	一ノ木神主	410
2	2	休息日	伊勢	一ノ木神主	410
2	3		六軒	みの屋本陣	
2	4		垣内	大和屋源左衛門	132
2	5		長谷	山城屋藤七	
2	6	長谷観音・三輪明神	奈良	池田屋庄左衛門	200
2	7	春日明神・大仏・二月堂・能見物	奈良	小刀屋善助	
2	8	法華寺・西大寺・菅原天神・唐招提寺・西ノ京・法隆寺・龍田明神・達磨寺	法隆寺門前	玉屋徳兵衛	150
2	9	当麻寺・安倍文殊院・多武峰・飛鳥坐明神・橘寺・岡寺	多武峰	木屋五兵衛	150
2	10	吉野蔵王権現・吉水院	吉野	海老屋六蔵	150
2	11	(近親者菩提供養)	高野山	慈眼院	500
2	12	高野山奥の院・大塔・金堂	志賀	井筒屋源兵衛	130
2	13	粉河寺	和歌山	伊丹屋吉兵衛	200
2	14	紀三井寺・玉津島神社・東照宮・五百羅漢・根上り松	和歌山	伊丹屋吉兵衛	200
2	15	淡島大明神		正木屋小右衛門	164
2	16	加太より船に乗る(海上13里)	撫養岡崎村	桶屋彌五郎	150
2	17	盤山寺・極楽寺・金泉寺・白鳥大明神	白鳥	屋葺屋徳兵衛	150
2	18	盤芝寺・志度寺・真覚寺・壇ノ浦	高松	稲津屋九郎兵衛	200
2	19		金毘羅	児島屋源二郎	
2	20	金毘羅山・普通寺・彌谷寺・蒲島寺・道隆寺・丸亀城	丸亀	備前屋東蔵	200
2	21	丸亀から室津へ船に乗る、与島に着船		船中泊	
2	22	田ノ口湊に着船、唸伽山参詣、塩飽経由室津に着船	室津	伊予屋平九郎	120
2	23	曾根天神	曾根天神門前	江戸屋彦兵衛	150
2	24	高砂・尾上参詣、別府の松	大久保宿	丸屋治右衛門	150
2	25	柿本人麻呂社・須磨寺・生田大明神	摩耶山麓	日野屋五兵衛	132
2	26	摩耶山・灘にて造り酒屋見物・西宮大神宮	大坂七堀橋	平野屋佐吉	463
2	27	道頓堀大芝居見物	大坂七堀橋	平野屋佐吉	463
2	28	四天王寺・茶白山・堺	大坂七堀橋	平野屋佐吉	463
2	29	大坂所々見物、昼より休息		淀川夜船中泊	339

配付資料： P-6

月	日	主な見物場所	宿泊地	宿泊先	宿賃銭
3	1	石清水八幡・宇治平等院・興聖寺・黄檗山・伏見稲荷・三十三間堂・方広寺大仏	三条	津ノ国屋忠兵衛	255
3	2	洛中・御所・北野見物	三条	津ノ国屋忠兵衛	255
3	3	御所鶏合	三条	津ノ国屋忠兵衛	255
3	4	京都所々見物、買い物	三条	津ノ国屋忠兵衛	255
3	5	津ノ国屋で藤沢平野新蔵と会う、三井寺	大津	松葉屋清兵衛	200
3	6	石山寺・所々見物、木曾行きの人と別れる	石部宿	油屋文七	200
3	7		関宿	鶴屋吉兵衛	200
3	8	石薬師	桑名宿	京屋七兵衛	200
3	9		池鯉鮒	水本屋	200
3	10		吉田宿	升屋庄七	200
3	11		浜松宿	帯屋七郎右衛門	200
3	12		掛川宿	捻金屋	200
3	13		岡部宿	小松屋与市	200
3	14		興津宿	大黒屋儀左衛門	200
3	15		原	若狭屋久兵衛	200
3	16		箱根芦の湯	松坂屋	
3	17	宮下奈良屋入湯、曲がり物買い物	箱根木賀	亀屋	200
3	18		小田原宿	小清水屋伊兵衛	200
3	19	帰宅			

参考文献 『伊勢参宮紀行・道中日記』（藤沢市史料集28） 藤沢市文書館

文政11年の旅行者は相模国高座郡羽鳥村 三芥八郎右衛門
(小太郎)

全行程64日間

主な支出先	(銭 文)
伊勢	3,054 (御札 143)
高野山	7,544 (供養料 6400)
金毘羅山	1,081
大坂	4,594
京都	8,606 (土産代5250)

相模国準四国八十八か所

地名	寺社名	宗派名	所在地	旧郡名	国名	寺名	順番	宗派名	県名	備考
1 藤沢宿大鋸	感応院	古義真言宗	藤沢市	鎌倉	阿波	靈山寺	1	高野山真言宗	徳島	
2 関屋(関谷)	地藏堂		関屋	"	"	恩山寺	18	"	"	
3 高谷	弥陀堂		高谷	"	伊予	円明寺	53	真言宗智山派	愛媛	
4 宮前	徳壽院	曹洞宗	"	"	阿波	観音寺	16	高野山真言宗	徳島	
5 町屋(上町谷)	泉光院	古義真言宗	鎌倉市	"	土佐	五台山	31	真言宗智山派	高知	竹林寺
6 "	"	"	"	"	"	禅寺峰寺	32	真言宗豊山派	"	禅師峰寺
7 寺分	東光寺		"	"	阿波	一之宮	13	真言宗大覚寺派	徳島	大日寺
8 梶原	等覚寺	古義真言宗	"	"	"	大龍寺	21	高野山真言宗	"	
9 手広	宝積院	"	"	"	讃岐	国分寺	80	真言宗御室派	香川	
10 "	青蓮寺	"	"	"	土佐	神峰寺	27	真言宗豊山派	高知	
11 津村	宝善院	"	"	"	伊予	観自在寺	40	真言宗大覚寺派	愛媛	
12 腰越	浄泉寺	"	"	"	土佐	国分寺	29	真言宗智山派	高知	
13 "	満福寺	"	"	"	伊予	瑠璃光院	50	真言宗豊山派	愛媛	繁多寺
14 片瀬	念成寺		藤沢市	"	阿波	井土寺	17	真言宗普通寺派	徳島	
15 "	泉蔵寺	古義真言宗	"	"	伊予	明石寺	43	天台宗門派	愛媛	
16 川名	地藏堂		"	"	"	甲山寺	74	真言宗普通寺派	"	
17 舟久保	不動院		"	"	阿波	焼山寺	12	高野山真言宗	徳島	
18 砂山	観音堂		"	高屋	伊予	佐紀山	58	"	愛媛	仙遊寺
19 蔵前	稻荷社		"	"	"	横峰寺	60	真言宗御室派	"	
20 藤沢	常福寺	古義真言宗	"	"	阿波	薬王寺	23	高野山真言宗	徳島	
21 鶴沼東	観音堂		"	"	讃岐	金花山	79	真言宗御室派	香川	天皇寺
22 "	毘沙門堂		"	"	伊予	吉祥寺	63	真言宗東寺派	愛媛	

地名	寺社名	宗派名	所在地	旧郡名	国名	寺名	順番	宗派名	県名	備考
23 鶴沼原	地藏堂		藤沢市	高座	阿波	地藏寺	5	真言宗御室派	徳島	
24 鶴沼浜道	"		"	"	土佐	津寺	25	真言宗豊山派	高知	津照寺
25 鶴沼堀川	"		"	"	伊予	桑山寺	56	真言宗醍醐派	愛媛	
26 鶴沼沓田	稻荷社		"	"	"	稻荷	41	真言宗御室派	"	龍光寺
27 鶴沼	普門寺	古義真言宗	"	"	"	八坂寺	47	真言宗醍醐派	"	
28 鶴沼	法照寺	浄土宗	"	"	"	西林寺	48	真言宗豊山派	"	
29 藤沢白旗別当	莊嚴寺	古義真言宗	"	"	阿波	大日寺	4	真言宗東寺派	徳島	
30 "	"	"	"	"	"	切幡寺	10	高野山真言宗	"	
31 藤沢台	観音堂		"	"	讃岐	八栗寺	85	真言宗大覚寺派	香川	
32 藤沢	壁土山		"	"	伊予	琴弾八幡	68	"	愛媛	神恵院
33 稻荷	本願寺	浄土宗	"	"	讃岐	観音寺	69	"	香川	
34 引地	養命寺	曹洞宗	"	"	土佐	西寺	26	真言宗豊山派	高知	金剛頂寺
35 羽鳥	徳昌院	曹洞宗	"	"	讃岐	道場寺	78	時宗	香川	郷照寺
36 "	天神山		"	"	伊予	太山寺	52	真言宗御山派	愛媛	
37 辻堂	宝殊寺	古義真言宗	"	"	阿波	法輪寺	9	高野山真言宗	徳島	
38 辻堂面	弥陀堂		"	"	"	藤井寺	11	臨濟宗妙心寺派	"	
39 辻堂願訪明神内	常光明真誓		"	"	讃岐	八島寺	84	真言宗御室派	香川	屋島寺
40 辻堂願訪明神別当	宝泉寺	古義真言宗	"	"	阿波	金泉寺	3	高野山真言宗	徳島	
41 小和田	弥陀堂		茅ヶ崎市	"	"	十桑寺	7	"	"	
42 "	広徳寺	古義真言宗	"	"	"	熊谷寺	8	"	"	
43 "	千手院	"	"	"	土佐	眞寺	24	真言宗豊山派	高知	最御崎寺
44 養沼	長福寺	古義真言宗	"	"	阿波	平等寺	22	高野山真言宗	徳島	

地名	寺社名	宗派名	所在地	旧郡名	国名	寺名	順番	宗派名	県名	備考
45 茅ヶ崎	円藏寺	古義真言宗	茅ヶ崎市	高座	讃岐	金倉寺	76	天台宗門派	香川	
46 "	観音堂		"	"	"	本山寺	70	高野山真言宗	"	
47 南湖	金剛院	古義真言宗	"	"	伊予	浄心寺	49	真言宗豊山派	徳島	浄土寺
48 "	西蓮寺	浄土宗	"	"	讃岐	志度寺	86	真言宗普通寺派	香川	
49 松尾	善性寺	"	"	"	"	小松尾寺	67	"	"	大興寺
50 柳島	地藏院	古義真言宗	"	"	土佐	寺山	39	真言宗智山派	高知	延光寺
51 "	普福寺	"	"	"	"	躑蛇	38	真言宗豊山派	"	金剛福寺
52 下町屋	梅雲寺	浄土宗	"	"	伊予	仏木寺	42	真言宗御室派	愛媛	
53 浜之郷八幡宮社頭左			"	"	"	八幡寺	57	高野山真言宗	徳島	栄福寺
54 矢畑	長谷寺(長善寺)	古義真言宗	"	"	"	香苑寺	61	真言宗御室派	"	香園寺
55 円藏	大日堂		"	"	土佐	大日寺	28	真言宗智山派	高知	
56 "	輪光寺	古義真言宗	"	"	阿波	立江寺	19	高野山真言宗	徳島	
57 西久保	宝性寺(宝生寺)	"	"	"	讃岐	曼荼羅寺	72	真言宗普通寺派	香川	
58 香川	玄珊寺	曹洞宗	"	"	伊予	大積山	55	真言宗醍醐派	愛媛	南光坊
59 大曲	地藏堂		寒川町	"	阿波	常楽寺	14	高野山真言宗	徳島	
60 一之宮	慶現寺(景観寺)		"	"	伊予	延命寺	54	真言宗豊山派	愛媛	
61 一之宮城山	地藏堂		"	"	讃岐	一之宮	83	真言宗御室派	香川	一宮寺
62 大塚(岡田)	安楽寺	古義真言宗	"	"	阿波	安楽寺	6	高野山真言宗	徳島	
63 宮山	薬王寺	"	"	"	伊予	一之宮	62	"	愛媛	宝寿寺
64 "	神照寺	"	"	"	讃岐	出歌迎寺	73	真言宗御室派	香川	
65 宮原	観藏寺	"	藤沢市	"	伊予	三角寺	65	高野山真言宗	愛媛	
66 大蔵	弥陀堂	"	寒川町	"	"	里前神寺	64	真言宗石鏡派	"	前神寺

地名	寺社名	宗派名	所在地	旧郡名	国名	寺名	頁番	宗派名	県名	備考
67 岡田	宝塔院	古義真言宗	寒川町	高座	讃岐	普通寺	75	真言宗普通寺派	香川	
68 "	観應寺	"	"	"	"	彌谷寺	71	"	"	
69 "	東覚寺(等覚寺)	"	"	"	阿波	国分寺	15	曹洞宗	徳島	
70 下寺尾	白峰寺	曹洞宗	茅ヶ崎市	"	讃岐	白峰寺	81	真言宗御室派	香川	
71 堤	地藏堂	"	"	"	阿波	鶴林寺	20	高野山真言宗	徳島	
72 甘沼	成就院	古義真言宗	"	"	土佐	清滝寺	35	真言宗豊山派	高知	
73 赤羽根	満蔵寺	"	"	"	"	青龍寺	36	"	"	
74 "	西光寺	浄土宗	"	"	讃岐	道隆寺	77	真言宗醍醐派	香川	
75 "	宝積寺	曹洞宗	"	"	伊予	吾生山	44	真言宗豊山派	愛媛	大宝寺
76 折戸	深正寺(深勝寺)	"	藤沢市	"	土佐	高福寺	33	臨済宗妙心寺派	高知	雪隠寺
77 四谷追分	不動尊	"	"	"	伊予	岩屋寺	45	真言宗豊山派	愛媛	
78 大庭	観音堂	"	"	"	讃岐	根来寺	82	天台宗	香川	根香寺
79 "	宗賢院	曹洞宗	"	"	土佐	一之宮	30	真言宗豊山派	高知	善楽寺
80 大庭小糸	泉秋寺	"	"	"	讃岐	長尾寺	87	天台宗	香川	
81 大庭	成就院	"	"	"	土佐	種間寺	34	真言宗豊山派	高知	
82 "	千手院	"	"	"	阿波	極楽寺	2	高野山真言宗	徳島	
83 石川	自任院	浄土宗	"	"	土佐	新田五社	37	真言宗智山派	高知	岩本寺
84 円行	青雲寺	曹洞宗	"	"	伊予	浄瑠璃寺	46	真言宗豊山派	愛媛	
85 "	八幡宮	"	"	"	"	石手寺	51	"	"	
86 飯田(下飯田)	東泉寺	曹洞宗	横浜市	鎌倉	"	国分寺	59	真言律宗	"	
87 亀井野	雲昌寺	"	藤沢市	高座	讃岐	雲辺寺	66	真言宗御室派	香川	
88 鶴沼	普門寺別堂	古義真言宗	"	"	"	大窪寺	88	真言宗(単立)	"	

注 黒字は原文書にある記載

相模国準四国八十八か所
寺院宗派名

宗派	寺院数
古義真言宗	36
曹洞宗	12
浄土宗	7
天台宗	1
不明	32
計	88

文政5年(1822)現在

四国八十八か所 靈場寺院地域割り

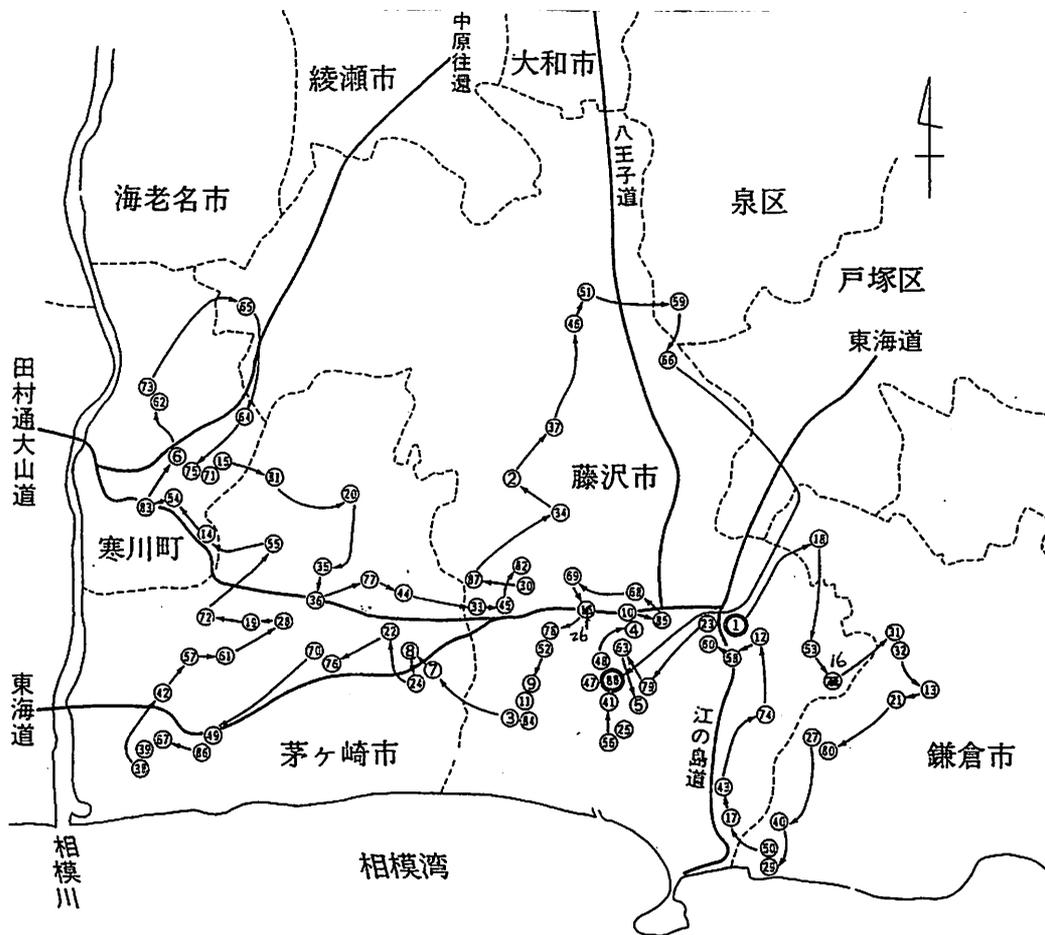
国名	県名	札所順番	寺数
阿波	徳島	1~23	23
土佐	高知	24~39	16
伊予	愛媛	40~65	26
讃岐	香川	66~88	23
計			88

2008年現在

四国八十八か所 靈場寺院宗派名

	宗派	本山	寺数
1	高野山真言宗	金剛峰寺	22
2	真言宗豊山派	長谷寺	18
3	真言宗御室派	仁和寺	12
4	真言宗智山派	智積院	9
5	真言宗善通寺派	善通寺	7
6	真言宗大覚寺派	大覚寺	5
7	真言宗東寺派	教王護国寺	2
8	真言宗醍醐派	醍醐寺	2
9	真言宗石鉄派	前神寺	1
10	真言律宗	西大寺	1
11	真言宗(単立 元大覚寺派)		1
12	天台宗	延暦寺	2
13	天台宗寺門派	園城寺	2
14	臨濟宗妙心派	妙心寺	2
15	曹洞宗	永平寺・總持寺	1
16	時宗	清浄光寺	1
	計		88

2008年現在

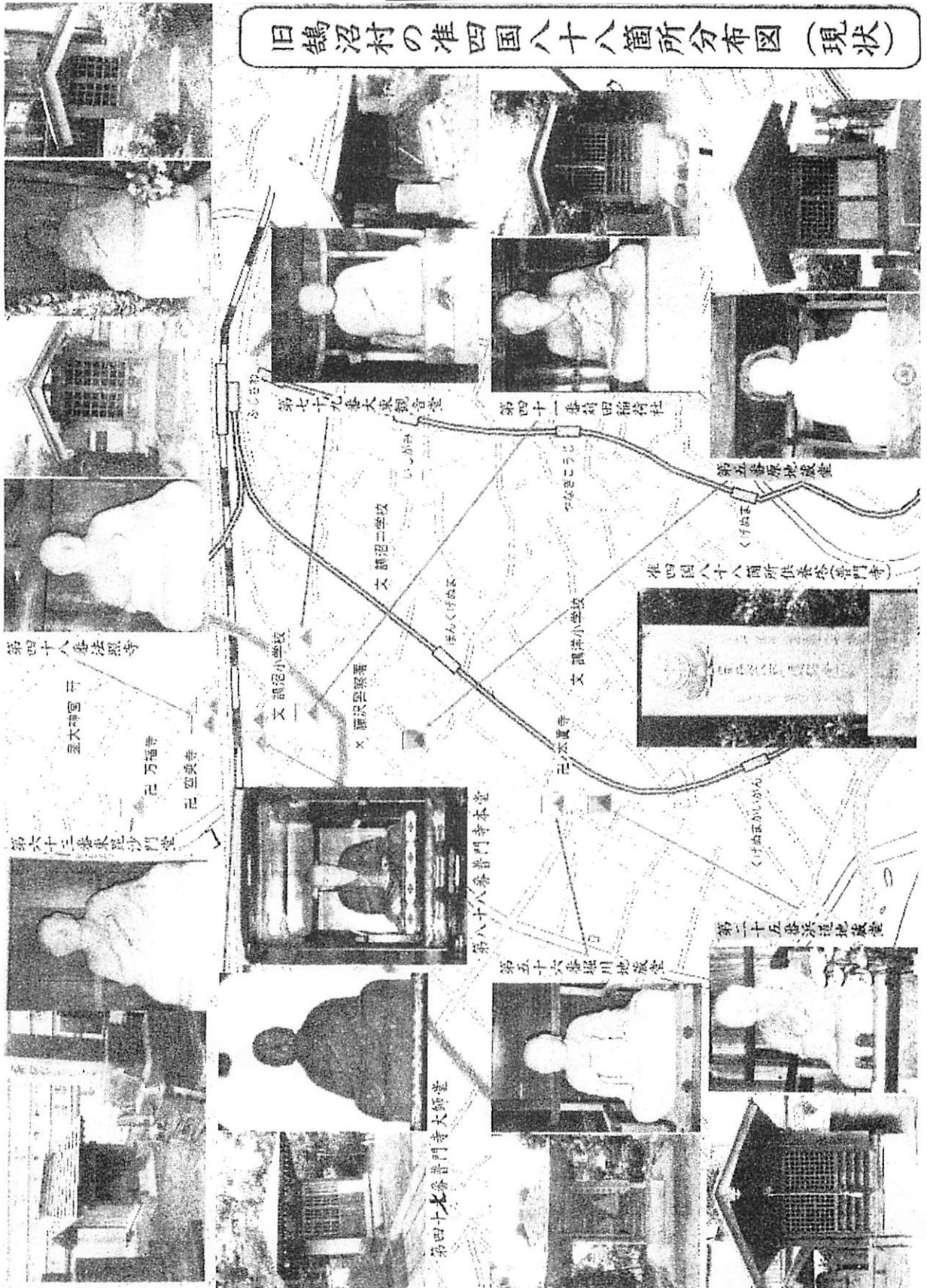


○内の数字は札所番号。

丸山久子「弘法大師新八十八ヶ所の霊場とその御詠歌」(『藤沢民俗文化』8)所収の「山上本」による。

相模国準四国八十八か所の順路

旧鵜沼村の准四国八十八箇所分布図（現状）



相模国準四国八十八か所の調査にあたって

はじめに

我々、鶴沼を語る会の会員が“相模国準四国八十八か所”に大きな関心を持ったのは、本号にも講演記録が掲載されている圭室文雄先生を講師として2008年9月27日に鶴沼公民館ホールで開催された公開講座「江戸時代 鶴沼村庶民の弘法大師信仰」サブタイトル「相模国準四国八十八ヶ所札所巡りの成立」(鶴沼公民館・鶴沼を語る会：共催)を受講したのがきっかけであった。

先生のお話で初めて知ったことだが、今から200年ほど前、私財を投じて庶民のために「相模国準四国八十八か所」を作った人が、「鶴沼の住人」であったということに鶴沼の住人である我々は感動し、大変誇らしい史実を知った喜びにひたつたのである。

毎年、春の彼岸のころ、4日をかけて巡るこの「巡札」は庶民の弘法大師信仰と同時に格好の娯楽として大いに賑わったという。当時の相模の国はほとんどが農家であったろう。それが明治初めの廃仏毀釈、大正12年の関東大震災による寺院倒壊などの試練にあい、時代とともに職業も多様化し軍事国家となっていく大正から昭和にかけてこの巡札の風習は急速に衰微し、今や全く忘れられた存在になっている。

心の拠り所を失い安らぎを求めて今日でも四国遍路に出かける人は少なくない。今こそ相模国準四国八十八か所の存在を多くの人々に知ってもらいたいと思うのである。そして是非、巡礼して頂きたいのである。きっとご利益があります。

設立者 浅場太郎右衛門について

浅場家はもともと鶴沼堀川の大地主であって今も一族の方々がお住いである。藤沢市鶴沼海岸7-5-16浅場一氏邸内の裏庭に第56番札所、堀川地藏堂があるが、大変立派なお堂である。そのお堂に向かって左側に浅場太郎右衛門の墓がある。

圭室先生のお話では、高野山慈眼院の宿泊者名簿には浅場太郎右衛門が再三登場するという、年代的に見ても一人の寿命では考えられない。明治の初め頃まではよくあったことだが、当主名を世襲するのである。浅場家では代々当主になると太郎右衛門を名乗っていたのである。

つまり相模国準四国八十八ヶ所の設立者太郎右衛門は父太郎右衛門の17回忌

の供養にこれを作ったということである。真柴本によれば藤沢感応院所蔵の靈簿記には文政十亥八月晦日光明院阿室見照居士鶴沼村堀川浅場太郎右衛門叟八十八ヶ所建之発願主也とあるそうである。堀川の浅場家敷地内にある光明院阿室見照居士の墓にも設立者であることが刻字されている。彼が何代目太郎右衛門であるかは不明である。

資料の発掘と参考文献

茅ヶ崎市南湖にある法林山金剛院住職真柴敬典氏は同院に伝わる古文書「新四国八十八札所 文政5年6月吉日上梓 鶴沼村」および「四国霊場奉写当地八十八箇所 文政4年辛巳初春 下高座郡鶴沼の郷 原ノ舎主人誌す」をもとに「相模国準四国八十八ヶ所開創の考証と詠歌」を著された。また丸山久子氏は鶴沼刈田の山上（茂八氏）家に残る古文書「相模国準四国八十八箇所」（文政5年）と「再版新四国八十八ヶ所」（文政5年）を「藤沢民俗文化」に紹介された。

以上の資料を比較研究し、実地調査された結果などで今までに発表されている文献を読者の参考に資するため発表順に掲げておく。

- 1) 『相模国準四国八十八ヶ所開創の考証と詠歌』（1964年）……………真柴敬典
注：原本は手書きガリ版刷。（鶴沼を語る会で活字化、プリント可）
- 2) 『藤沢民俗文化』8（1974年）
「弘法大師 新八十八ヶ所の霊場とその御詠歌」……………丸山久子
- 3) 『藤沢市史研究』6（1975年）
「相模国準四国八十八ヶ所について」……………樋田豊宏
- 4) 『湘南よみうり』（1983年6月～1986年5月）連載
「相模国新四国八十八ヶ所めぐり」……………川島弘之
注：このシリーズは約40ヶ寺を紹介して中断、1988年5月再開するが以後紹介される札所は「準四国」にない寺である。
- 5) 『相模国準四国八十八箇所—弘法大師石像をめぐりて—』（1983年）三木洋
注：この本は唯一、大師像の写真入りである。
- 6) 『相模国準四国八十八ヶ所参観のしおり』（1993年）……………樋田豊宏
注：残念なことに第15番札所 東覚寺が欠落している。
- 7) 『寒川町史』10巻 別編5章4節（1997年）
「相模国準四国八十八か所」……………圭室文雄

- 8) 『湘南さがみ空海石像八十八ヶ札所』(1999年) ……………山崎直人
注：1冊のみの手製本である。
- 9) 『相模国準四国八十八ヶ所』(2004年) ……………樋田豊宏
- 10) 藤沢市生涯学習大学かわせみ学園「放送通信科テキスト」
『相模国準四国八十八ヶ所を巡る』(2007年) ……………橋本周也

上記各資料の所在は以下のとおりである

- 1) …藤沢市文書館
- 2) …藤沢市中央図書館ほか
- 3) …藤沢市中央図書館
- 4) …藤沢市中央図書館
- 5) …藤沢市文書館、(巻末に三木氏の自宅住所記載。在庫あり入手可能)
- 6) …藤沢市中央図書館
- 7) …藤沢市中央図書館
- 8) …藤沢市文書館
- 9) …藤沢市文書館
- 10) …藤沢市学習文化センター

現地調査

近年、区画整理事業などでさらに設置場所が変わったりしている現状にかんがみ、広く湘南に住む人々に再認識していただくことを目的として、この調査をまとめることにした。

鶴沼を語る会会員有志 20 人余が 4 グループに分かれて調査を行った。

A グループ：鎌倉、藤沢東部	22 箇所
B グループ：藤沢中央部	22 箇所
C グループ：辻堂、茅ヶ崎南部	22 箇所
D グループ：寒川、茅ヶ崎北部、藤沢西部	22 箇所

調査時期は 2009 年 9 月から 2010 年 1 月にかけて、各グループとも数回に分けて写真撮影、聞き取り調査などのフィールドワークを行った。今までの資料から場所が移動していたり、個人宅内において管理者が変わっていたりして、調査に手間取るものもあった。

各グループからの報告データを集めたため、記載内容や表現に統一を欠く部分

もあろうかと思われるが、短期間に多人数がかかわったためとご容赦願いたい。

ただ、今回調査して分かったことだが大師像の紛失が意外に少なかったことである。祀られている場所は変わっても、また1か所に2~3体まとめておかれ、どれがどの札所のものか分からないケースもあるが所在不明はわずか1~2体であった。個体数を明確にできないのは、本札所とかかわりのない大師像だといわれているものがあるからである。

本書の編集方針

過去の資料には地図と写真の両方を載せたものはない。そこで、手軽なガイドブックとして役立つように写真と地図を入れ、また見やすいように1札所1ページとして編集した。

1札所について、札所番号、札所名、宗派、ご詠歌、所在番地、案内地図、安置されている場所の写真、大師像の写真、説明文を付し、下段に対応四国札所名とそのご詠歌を記載することとした。

説明文には前記に列挙した参考文献から多くを引用させていただいた。あつく御礼を申し上げる次第である。

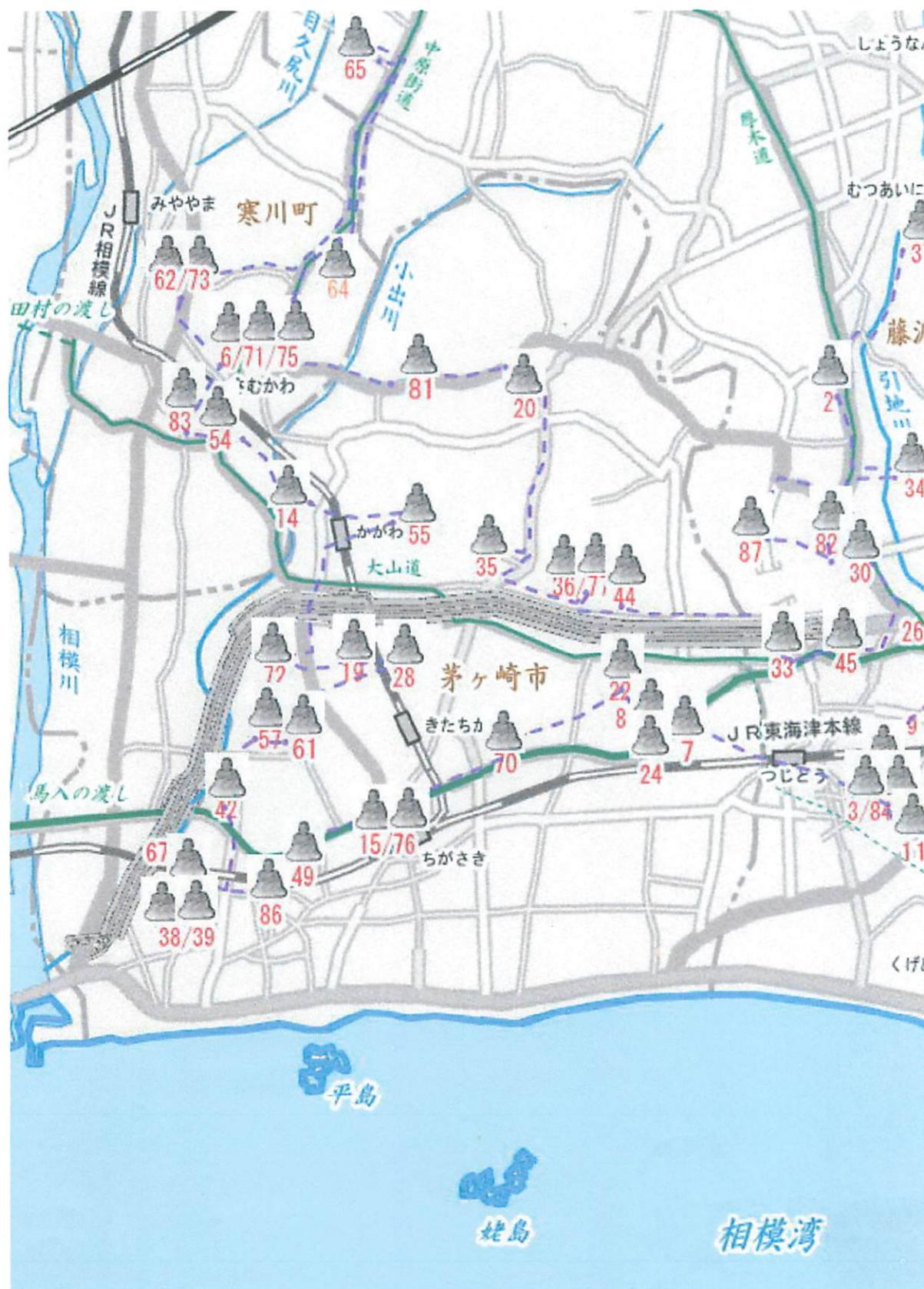
また対応する四国の札所名を記載したのは、準四国のご詠歌のなかに本四国の札所が詠み込まれたものや台座の石に本四国のどの札所の写しであるかが刻字されてある場合があり、その理解を助けるためである。

札所の順番は、圭室文雄先生の講座のテキストに記載された表（p33~p36）の番号順によって編集している。これは、山上本「準四国」と真柴本の道順によったものであって、山上本「再版新四国」では巡り順に違いがある。

本場の四国では1番札所から番号順に巡るのが本来正当とされているが、逆順に巡ったり、県別に巡ったり、巡る手段も、歩いて巡るのが原則だが、自転車、列車、バス、自家用車などを利用する人も多いという。

浅場太郎右衛門は本四国と雰囲気の似ている所にその番号を付けたのだそうで、番号順に巡ることは最初から考えていなかったらしい。ただ発願の第1番札所は最初に、結願の第88番札所を最後にお参りするようにはなっている。

ただし、この編集方法だと、検索に不便なので札所番号順に記載ページが分かる札所番号順目次（p46）を設けた。



相模国準四国八十八ヶ所 弘法大師像現在地分布図

 大師像現在地  江戸期主要街道
 番号のみは大師像不明  想定巡礼路



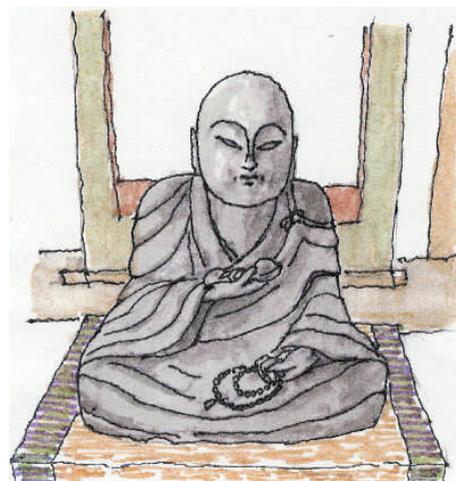
札所番号順目次

札所番号	地名	寺社名	page	札所番号	地名	寺社名	page
1	大鋸	感応院	47	45	四谷	不動尊	123
2	大庭	千手院	128	46	円行	青雲寺	130
3	辻堂	宝泉寺	86	47	鵠沼	普門寺	73
4	白旗	荘厳寺	75	48	鵠沼	法照寺	74
5	鵠沼 原	地蔵堂	69	49	南湖	金剛院	93
6	大塚	安楽寺	108	50	腰越	満福寺	59
7	小和田	弥陀堂	87	51	円行	鎮守八幡社	131
8	小和田	広徳寺	88	52	羽鳥	天神山	82
9	辻堂	宝珠寺	83	53	高谷	弥陀堂	49
10	白旗	荘厳寺	76	54	一宮	景觀寺	106
11	堂面	弥陀堂	84	55	香川	玄珊寺	104
12	舟久保	不動院	63	56	鵠沼 堀川	地蔵堂	71
13	寺分	東光寺	53	57	浜の郷	常光院	99
14	大曲	地蔵堂	105	58	砂山	観音堂	64
15	岡田	東覚寺	115	59	飯田	東泉寺	132
16	宮の前	徳寿院	50	60	蔵前	稲荷社	65
17	片瀬	密蔵寺	60	61	矢畑	長善寺	100
18	関谷	地蔵堂	48	62	宮山	薬王寺	109
19	円蔵	輪光寺	102	63	鵠沼 東	毘沙門堂	68
20	堤	地蔵堂	117	64	大蔵	弥陀堂	112
21	梶原	等覚寺	54	65	宮原	観蔵寺	111
22	菱沼	長福寺	90	66	亀井野	雲昌寺	133
23	藤沢	常福寺	66	67	松尾	善性寺	95
24	小和田	千手院	89	68	藤沢	壁土山	78
25	鵠沼 浜道	地蔵堂	70	69	稲荷	本願寺	79
26	引地	養命寺	80	70	茅ヶ崎	観音堂	92
27	手広	青蓮寺	56	71	岡田	観護寺	114
28	円蔵	大日堂	101	72	西久保	宝生寺	103
29	腰越	浄泉寺	58	73	宮山	神照寺	110
30	大庭	宗賢寺	125	74	川名	地蔵堂	62
31	町谷	泉光院	51	75	岡田	宝塔院	113
32	"	"	52	76	茅ヶ崎	円蔵寺	91
33	折戸	深正寺	122	77	赤羽根	西光寺	120
34	大庭	成就院	127	78	羽鳥	徳昌院	81
35	甘沼	成就院	118	79	鵠沼 東	観音堂	67
36	下赤羽根	満蔵寺	119	80	手広	宝積院	55
37	石川	自性院	129	81	下寺尾	白峰寺	116
38	柳島	善福寺	97	82	大庭	観音堂	124
39	柳島	地蔵院	96	83	一宮	地蔵堂	107
40	津村	宝善院	57	84	辻堂	諏訪神社	85
41	鵠沼 苅田	稲荷社	72	85	台	観音堂	77
42	下町屋	梅雲寺	98	86	南湖	西運寺	94
43	片瀬	泉蔵寺	61	87	大庭	泉秋寺	126
44	赤羽根	宝積寺	121	88	鵠沼	普門寺	134

第1番 三島山瑞光(院)寺感應院 かんのういん 高野山真言宗

御詠歌：法のたねまきしいさおをみしまやま 米てううすにあうぞうれしき

現在地：同所 藤沢市大鋸2-6-8 神奈中バス藤沢橋より徒歩2分



感應院は建保6(1218)年開山、藤沢で最も古い寺院の一つで真言宗である。

浅場太郎右衛門が一番札所にしたのもうなづける古刹である。

本堂内に2体並ぶ右側の大きい方(坐高52cm)が感應院の1番。左の像は、住職夫人によれば相模国準四国八十八ヶ所とは無縁とのことだが、2体の彫りの特徴が酷似しているところから23番常福寺のものではないかと思われる。

拝観は許可必要。写真撮影不可。

本四国：竺和山一乗院靈山寺 (徳島県鳴門市麻町板東)

靈山の釈迦の御前にめぐりきてよろずの罪も消えうせにけり

調査：2009年10月20日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/戸井田道子/内藤喜嗣

第18番 ^{せきや} 關谷地藏堂

御詠歌：流れ行く月日をこゝに關谷村 露の命を延べにけるかな

現在地：同所 鎌倉市 城廻622



地藏堂本尊地藏立像に向かって左側に安置されている。

高50cm、台石に水差しと杓とが彫られている。

台石に「四国八十八ヶ所 第十八番 阿波国恩山寺写 本地薬師如来 関谷打越中」と刻字されている。

地藏堂は昭和52年12月13日建立。

本四國：母養山寶樹院恩山寺（徳島県小松寺島市田野町恩山寺寺谷）

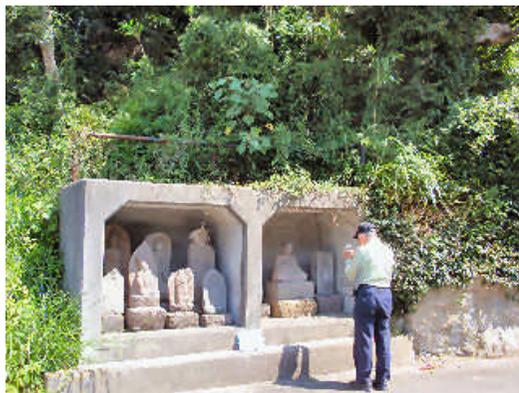
子を産める その父母の 恩山寺 訪いがたき ことはあらじな

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

第53番 たかやみだどう 高谷彌陀堂(廃堂)

御詠歌：世のうさをのがれ高谷と思ふらん たど 辿るも樂し法のみちづれ

現在地：村岡御堂 藤沢市 村岡東3-28



台石には四国豫州五十三番圓明寺写 高谷村中 文政三辰年十一月吉日と刻字されている。

彌陀堂は渡内村二伝寺持ちであったが、廃仏毀釈により、高谷425の西野正二宅に移設され、その後、藤沢市の都市計画による区画整理により現在地に再移転された。

坐高47cm

本四國：須賀山正智院圓明寺 (愛媛県松山市和気町)
すがさん えんみょうじ
 来迎の 彌陀の光の 圓明寺 照りそう影は よなよなの月

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

第16番 村岡山徳壽院(廃寺) 曹洞宗

御詠歌：たゞ頼めふた、びとては逢ひがたき みのりをこゝに宮前の寺

現在地：徳壽院跡地やぐら内 藤沢市 宮前520



徳壽院は廃寺。大師像は寺院跡地、後ろの崖をくりぬいた「やぐら」の一番右端に安置されている。左手前に昭和57年宮前念佛講中が建てた石碑がある。「第廿六番阿波國観音寺」となっているが、16番が正しい。

本四國：光輝山千手院観音寺 (徳島県徳島市国府町観音寺)
忘れずも 導き給え 観音寺 西方世界 彌陀の浄土へ

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

まちや
第31番 町谷天神宮

御詠歌：あきの田のみのり豊かににきはふも 町谷の衆ひかり添ふらん

現在地：泉光院(天守山高音寺) 真言宗大覚寺派 鎌倉市 上町屋631



天神宮は上町谷村の鎮守で泉光院持であった。

向かって右の大きな像が31番。坐像高52cm。

体に朱が塗られている。胸を張り、彫刻が良く肩もすんなりして、袈裟衣の彫刻線ははっきりし、袖もはっきりとしている。

台石右面には土佐五台山とあり、正面には沓と水差しが浮き彫りされている。左面に「文政四巳年三月吉日」とある。

本四國：五臺山ごだいさん金色院ちくりんじ竹林寺（高知県高知市五台山）
南無文殊 三世諸物の 母と聞く 吾も子心 乳ぞほしけれ

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

第32番 放光山如意院吉祥寺(廃寺) 真言宗

御詠歌：浮世をばくるしき海と説く法の ちかひの舟をまちや渡らん

所在地：泉光院(天守山高音寺) 真言宗大覚寺派*右側 鎌倉市 上町屋631



吉祥寺は青蓮寺末。天保年間に無住となり大師像は泉光院に移された。明治初期廃寺となる。

向かって左の小さい像が32番。坐像高43cm。31番よりやや小さい。体には朱が塗られていて、同じ彫り方の像である。

台石には「願主密三建之」とあり、沓と水差しの浮彫がある。

本四國：八葉山求聞持院禪師峯寺(峰寺) (高知県南国市十市町)

静かなる 我がみなもとの 禪師峰寺 浮かぶ心は 法の早船

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

とうこうじ
第13番 天照山薬王院東光寺 高野山真言宗

御詠歌：ハ十あまりハツの御寺を分け行けば こゝろに澄めるのちのよの月

所在地：同所 鎌倉市 寺分1-7-6



お堂の屋根は銅板葺き。

坐像高44cm。

耳の形が面白い。

丸顔で目はやさしく、口を結び、顎はふっくらして、なで肩でやさしい感じ。

台石正面には水差しと杓が浮き彫りされ、「第十三番阿波一之宮写天照山東光寺」また右側面「世話人文政三辰年九月吉日」と村講中五人の名前が彫られている。



おおぐりざん
本四國：大栗山花藏院大日寺（徳島県一の宮町西町）

阿波の国 一の宮とや ゆうだすき かけてたのめや この世後の世

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

第21番 休場山彌勒院等覺寺 高野山真言宗

御詠歌：のりえたる船のかじはらこぎ行けば 世をふみ渡るあしもさはらじ

所在地：同所 鎌倉市 梶原1-9-2



山門茅葺き。坐像は48cmと比較的大きく丸顔で、目は閉じ、口は一文字に結んでいる。台石には杓と水差しが左向きに浮彫。

右側面には「四国八十八ヶ所之内 二十一番 阿波太龍寺写」

左側面には「当国一同講中文政庚辰年十一月吉日休場山等覚寺」とある。

本四国：^{しゃんざん}舎心山常住院^{たいりゅうじ}太龍寺（徳島県阿南市加茂町大竜寺）

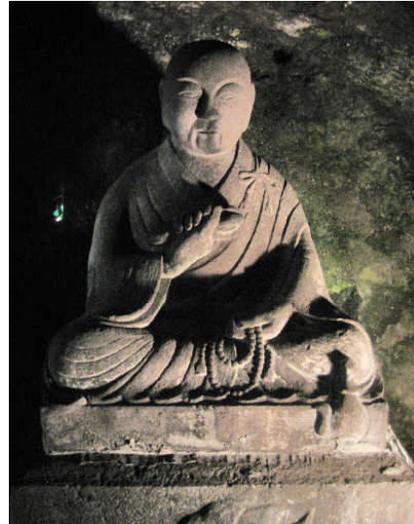
大龍の 常にすむぞや げに岩屋 舎心閑持は 守護の為なり

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

第80番 ほうしやくいん 寶積院(手廣山藥王寺)(廃寺)

御詠歌：御仏の手ひろくむすぶまきのひも とくやからうた大和ことのは

現在地：江の島第一岩屋 藤沢市 江の島2-5



宝積院は手広青蓮寺の塔頭。青蓮寺の参道に入って左側にあったお堂が明治時代に取り壊されて久しかった。近年、堂宇再建の運びとなり、平成18年地下に納骨堂を持つ宝積院がよみがえった。

大師像は廃寺となった折、行方不明になったが、今は江の島の岩屋内に安置されている。台石には江戸屋講中と刻字されている。懐中電灯を持参すると良い。

本四國：はくぎゅうざん 白牛山千手院國分寺（白牢山）（香川県綾歌郡國分寺町）

國を分け 野山をしのぎ 寺々に 詣れる人を 助けませませ

調査：2009年12月3日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

はんじょうざんにおういんしょうれんじ
第27番 飯盛山仁王院青蓮寺 高野山真言宗

御詠歌：あまくだる神もありしといひもりの 山なつかしみまいるもろひと

所在地：同所 鎌倉市 手広769



鎖大師で有名な古刹手広の青蓮寺。高野山真言宗準別格本山。関東八十八ヶ所第五十九番札所、東国新四国八十八箇所第八十八番結願札所、相州二十一箇所第十九番札所であり、相模国準四国八十八ヶ所第二十七番札所は等閑視されている。

弘法大師千百年御遠忌供養塔に向かって右にある。

像高47cm、露座のため風化が激しい。

本四國：竹林山地藏院神峯寺（高知県安芸郡安田町）

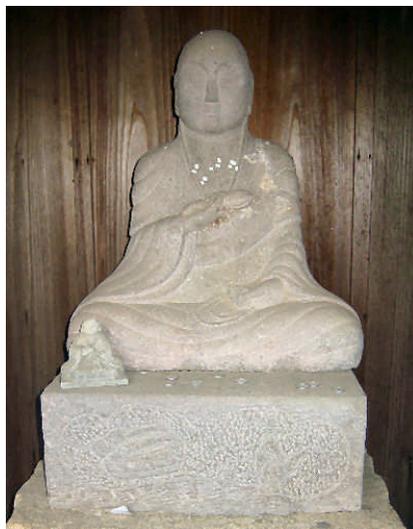
三佛の 恵みの心 神の峰 山もちかひも 高き水音

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

第40番 ほうぜんいん かじざんりょうせんじ 寶善院(加持山靈山寺) 真言宗大覚寺派

御詠歌：江の島や代々の聖のとしつきを こゝにつむらの寺ぞ尊ふとき

所在地：同所 鎌倉市 腰越5-13-17



山門を入れて左側に大師像を安置した小堂あり。
像高55cm、台石には杵と水差しが彫られている。
「江之島 江戸屋内 みと」と刻字されている。

本四國：平城山薬師院かんじざいじ観自在寺（愛媛県南宇和郡御荘町平城）

心願や 自在の春に 花咲きて 浮世のがれて 住むやけだもの

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

こゆるぎざんしょうがんにんじょうせんじ
第29番 小動山松岩院浄泉寺 真言宗大覚寺派

御詠歌：袖袂濡れるもうれしくゆるぎの 清き泉を結ぶと思へば

所在地：同所 鎌倉市 腰越2-10-7



国道134号が小動岬を越えるところにあり、赤い山門が目立つ
山門を入ると左側にある地蔵堂の中に、地蔵と大師石像が安置されている。
像高53cm、台石には杓と水差しが彫られている。

まにさん
本四國：摩尼山寶藏院國分寺（高知県南国市国分町）

國を分け 宝を積みて 建つ寺の 末の世迄の 利益のこせり

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

第50番 りゅうございおういんまんぶくじ 龍護山醫王院満福寺 真言宗大覚寺派

御詠歌：ますらをの心をこめし水莖の あとになぬしそもろ人のそで

所在地：同所 鎌倉市 腰越2-4-8



義経の「腰越状」で知られる満福寺。

境内の本堂み向かって左手奥に大師堂がある。

像高49cm、台石には沓が一足彫られている。沓先が尖っていて渦文様がある。

側面には「片瀬村石工平治良」「文政四辛巳歳 三月吉日 満福寺現住智寂代」と刻字されているというが、両脇の壁との間が狭く、判読不能である。

本四國：ひがしやま 東山瑠璃光院はんたじ 繁多寺（愛媛県松山市畑寺町）

よろずこそ 繁多なりとも 怠らず 諸病なかれと 望み祈れよ

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

ほうせいざんやくしいんみつぞうじ
第17番 寶盛山藥師院密藏寺 真言宗大覚寺派

御詠歌：濁る世はむすびかたせの川みつも いまぞ澄むなる井戸寺の月

所在地：同所 藤沢市 片瀬3-3-44



下諏訪神社と上諏訪神社の間にある。境内左手には多数の大師像が露坐。一段高い小堂内に安置されているのが本札所の大師像である。像高54cm、台石には沓が一足彫られている。 像と台石とは石の材質が異なっている。

本四國：瑠璃山眞福院妙照寺または井戸寺（徳島県徳島市国府町井戸）

おもかげを うつして見れば 井戸の水 おすべば胸の あかや落ちなん

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

第43番 かたせざんだいしょういんせんぞうじ 片瀬山大聖院泉藏寺 高野山真言宗

御詠歌：浦ちかきかたせの川の泉には うかみながる、深きつみとが

現在地：同所 藤沢市 片瀬2-18-3



参道を行き山門を潜ってすぐ左側に位置する東京報栄講建立の供養塔の前に露坐する。像高53cm。台石に沓は彫られているが、水差しはない。

台石側面に「四十三番豫州明石寺写 当寺現住隆誉代 文政四歳辛巳二月吉辰 当所発願主 甘粕治右衛門 小池吉右衛門 同講中」「当所石工平治良」と刻字されている。

本四國：源光山圓手院明石寺めいせきじ（愛媛県東宇和郡宇和町）

聞くならく 千手の誓い 不思議には 大盤石も 軽くあげいし

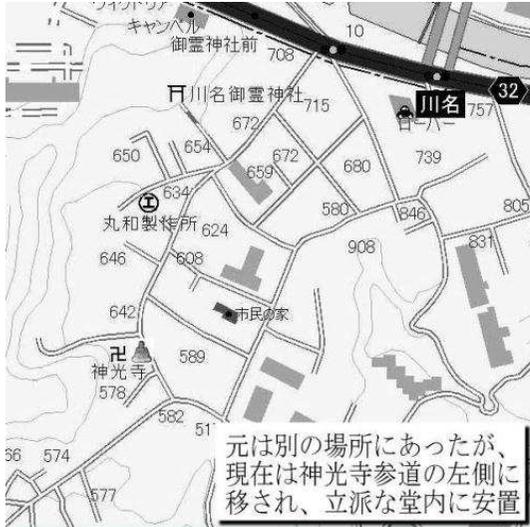
調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

かわな
第74番 川名地藏堂(廃堂)

御詠歌：いとふかくかけしちかひをたのみにて 川なのはしを渡るもろびと

いなりさんようごういんじんこうじ

現在地：稲荷山影向院神光寺 高野山真言宗 藤沢市 川名584



地藏堂は川名村の金剛院大勝寺持であったが、明治の初め廃寺令により地藏堂もなくなり、大師石像は川名村の神光寺に移された。

台石には沓と水差しが彫られ、左側面に「文政四年二月」と刻字されている。

この寺の奥が藤沢三大谷戸の一つ川名清水谷戸である。

本四國：醫王山多寶院甲山寺（香川県善通寺市弘田町）
十二神 味方にもてる 戦には、おのれと心 甲山かな

調査：2009年9月14日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/内藤喜嗣

ちすいざんのうまんじ
第12番 舟久保不動院(知水山能満寺)(廃寺)

御詠歌：いと廣き恵の海につなでなは うちはへつなぐのりの舟くぼ

現在地：船玉神社(?行方不明) 藤沢市 大鋸2-16-50



船玉神社



不動院は知水山能満寺と号し、京都醍醐寺三宝院末。遊行寺領鎮守諏訪明神と船玉社、山王権現社の別当であった。

明治初頭、住職は寺院を廃し、僧籍を離れて還俗し、自ら完全に廃仏毀釈を行い、別当をしていた三社の神官を専らするようになったといわれる。

一説には大師像は関東大震災までは不動院跡にあったが、その後船玉神社に移されたという。

しかし、現在は行方不明。



まろさん しょうさんじ
本四國：摩盧山正壽院焼山寺 (徳島県名西郡神山町下分)

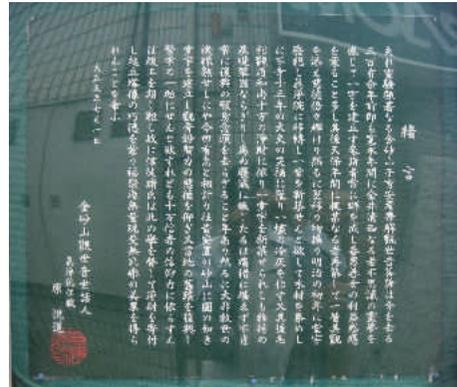
後の世を 思えばくぎょう 焼山寺 死出や三途の 難所ありとも

調査：2009年10月20日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/戸井田道子/内藤喜嗣

第58番 金砂山観音堂

御詠歌：すな山にうめる黄金はなみならぬ このふだらくの恵みとやせん

所在地：(不明) 藤沢市 藤沢693



参道両側に石柱あり。右には金砂観世音、左には鼻黒稲荷大明神と刻字されている。

境内に砂山観音のいわれを書いた緒言（大正五年七月一日、眞浄院住職原悦道）が立ててある。それによると、寛永年間に金井清西が

建立、その後、天保年間に梶某なる者が再築、子育て、安産、帯解の観音として賑わったが、明治初年廃仏毀釈で観音像は遊行寺末寺眞浄院に移転したとある。その後大正6年、旧地に堂を建てた。大正12年震災で倒壊したが、修復されて現在に至っている。

大師像は廃仏毀釈時に行方不明になったらしい。

本四國されいざん：佐禮山千光院仙遊寺（愛媛県越智郡玉川町別所）
 立寄りて 作礼の堂に 休みつつ 六字を称え 経を読むべし

調査：2009年10月20日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/戸井田道子/内藤喜嗣

第60番 日照山金剛院(廃寺)

御詠歌：とくとしの稲のみのりを荷ひきて こゝにをさめるくらぞ尊ふとき

所在地：藏前稻荷社 藤沢市 藤沢30



山上家文書によれば「藤沢金剛院焼失後屋敷地斗にて当時藏前稻荷社」とある。

金剛院は23番常福寺の西側、今の藤沢小学校の北側、堀内家墓地付近にあったが、天保2年大火により常福寺

と共に焼失、再建されず明治7年廃寺となった。

大師堂は稲荷の社、向かって右側に建っている。大師像は2段の台石があり、上の段は杳と水差し、下の段は四国八十八箇所内第二十三番阿州薬王院写、光明真言藏前町安全と刻字されている。下の台座は23番常福寺のものと思われるが、藏前とあるのが謎である。

本四國：石鐵山福智院横峯寺（愛媛県周桑郡小松町石槌）

たて横に 峰や山辺に 寺たてて あまねくひとを 救うものかな

調査：2009年10月20日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/戸井田道子/内藤喜嗣

第23番 光輝山醫王院常福寺(廃寺)

じょうふくじ

御詠歌：紫の雲やにほはんとくとはに たゑぬちぎりのるりのたまみづ

所在地：感應院(三島山瑞光寺) 高野山真言宗 藤沢市 大鋸2-6-8



常福寺は感應院の末寺。天保2年の大火で焼失。その後小堂が再建されたが明治7年廃寺となり、本尊など全て感應院に移された。感應院本堂内に安置されている2体の大師像のうちの向かって左側の小さい方がそれであるという。

一方、60番稲荷社の大師像台石に23番の刻字がある。いずれが常福寺のものであろうか。感應院は拝観許可が必要。写真撮影不可。

本四國：醫王山無量壽院薬王寺（徳島県海部郡日和佐町寺町）

皆人の 病みぬる年の 薬王寺 瑠璃の薬を 与えます

調査：2009年10月20日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/戸井田道子/内藤喜嗣

おおひがし
第79番 大東観音堂 高野山真言宗（廃寺）

御詠歌：施しの布きて結ぶ草まくら さむるもおしきあかつきの夢

現在地：大東町内会館 藤沢市 本鵠沼2-4-36



観音堂は普門寺持で真言宗。観音堂の庵主であった浄心は当四国八十八ヶ所の発願者である浅場太郎右衛門と普門寺住職善應により本四国八十八ヶ所の札とお砂を持ち帰った。大師坐像高41cm。同脇の石柱に「百番供養塔」「文化十四年丁丑孟冬建之願主浄心」「四国八十八ヶ所」の刻字。

本四国：金花山高照院天皇寺(金華山)(香川県坂出市西庄天皇)

十樂の 浮世の中を たずぬべし 天皇さえも さすらいぞある

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤久美子/鈴木三男吉/佐藤和子/中島明/持田玉枝/綿谷克延

びしやもんどう
第63番 毘沙門堂(鵠沼神明1)(移転)

御詠歌：つとにをき夜半につとめて生れぬし みちを守ればまもるこの神

現在地：高松家墓地 藤沢市 鵠沼神明3-4-37 鵠沼墓地



毘沙門堂は教寶院高福山と号し、小田原松原神社の別当配下で真言宗。「新編相模国風土記稿」には享保年間祐賢が開基創建とあるが、「皇国地誌」には建久6(1195)年修驗祐範が開基創建とある。鵠沼村横須賀にあり東毘沙門と称した。明治3(1870)年堂宇を廃し、境内の地は地主高松祐重復した。昭和18年頃日本精工の工場拡張のため、付近の墓地と共に整理され、現在地鵠沼共同墓地の高松家墓地内に移転された。坐像高50cm。

本四國：密教山胎藏院吉祥寺(愛媛県西条市永見)

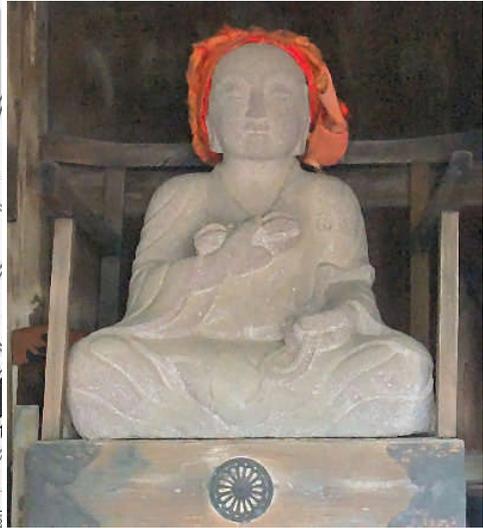
身の中の 悪き悲報を 打捨てて みな吉祥を 望み祈れよ

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤久美子/鈴木三男吉/佐藤和子/中島明/持田玉枝/綿谷克延

第5番 ^{はら}原大師(地藏)堂

御詠歌：このさとの人の心も月かげも 砥上が原にみがきあぐらん

現在地：同所 藤沢市 本鵠沼2-19-11



原の地藏堂は鵠沼原大師とも称されている。堂宇内には向かって左に大師像、右に地藏尊が祀られている。堂の右の柱には御詠歌を彫った板が掲げられている。

石造坐像 49cm

本四國：無盡山莊嚴院地藏寺(徳島県板野郡板野町羅漢)

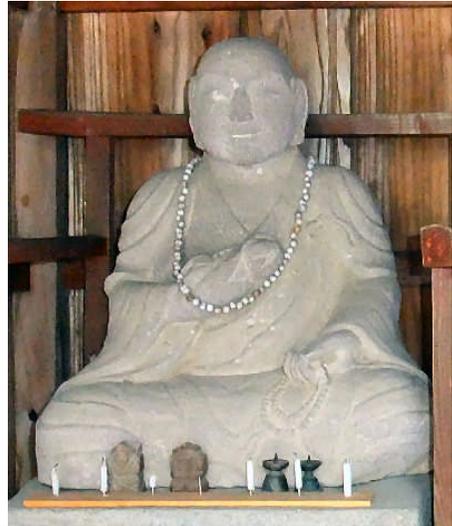
六道の 能化の地藏 大菩薩 導き給え この世後の世

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤久美子/鈴木三男吉/佐藤和子/中島明/持田玉枝/綿谷克延

はまみちほりかわ
第25番 濱道堀川大師(地藏)堂

御詠歌：のりの舟いづるつでらといろくすも このはま道につどひよるらん

現在地：同所 藤沢市 鵜沼海岸7-4-17



小堂が二つ並んで建っていて、左には庚申塔が、右の格子戸付きの方に大師像と地藏菩薩が祀られている。向かって左柱に「浜道弘法大師」右柱に「準四国八十八ヶ所堀川地藏堂 “法の舟入るか出るかこの津寺速う吾身をのせてたまへや” と本四国の御詠歌が書かれた木札が掛けられている。大師像 50cm。台石には「文政三辰年六月吉日堀川講中」と刻字。小屋前の石柱正面「二十五番南無大師遍照金剛」右側面「土州宝珠山津寺写」左側面「天保二辛卯年三月吉日堀川」

本四国：寶壽山真言院津照寺(津寺) (高知県室戸市津町)

法の船 入るか出るか この津寺 速う吾身を のせてたまえや

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤久美子/鈴木三男吉/佐藤和子/中島明/持田玉枝/綿谷克延

第56番 堀川大師(地藏)堂

御詠歌：おほつおやのみたままさしくありあけの 影さやかにぞすめるほりかは

現在地：同所 藤沢市 鵜沼海岸7-5-12浅場方(浅場太郎右衛門の墓もある)



浅場方。個人宅内にあり、拝観には許可が必要。

浅場太郎右衛門の墓あり。

大師像の杓は木製で足元に置いてある。

地藏尊と同じ堂宇内にある。

石造坐像 50cm 1827年建立

本四國：金輪山勅王院泰山寺(愛媛県今治市小泉町)

みな人の 詣りてやがて 泰山寺 来世の引導 たのみ置きつつ

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤久美子/鈴木三男吉/佐藤和子/中島明/持田玉枝/綿谷克延

第41番 ^{かりだ} 苺田稻荷社

御詠歌：とりどりに神と仏のちかひありて 稲もみのりのまもりますなり

現在地：同所 藤沢市 本鶴沼5-10-21



民家の塀の間、幅1mに満たない細い路地を入ると小堂が二つ建っている。向かって右は稲荷社。左が大師堂である。堂脇の石柱には「第四十一番南無大師遍照金剛」「文政十一年戊子八月苺田講中」「伊予国霊場稲荷写」と刻字。

大師坐像高 52cm

本四國：稲荷山護国院龍光寺(愛媛県北宇和郡三間町戸雁)

この神は 三国流布の 密教を 守らせ給はん 誓いとぞ聞く

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤久美子/鈴木三男吉/佐藤和子/中島明/持田玉枝/綿谷克延

第47番 みつごんざんへんしょういんふもんじ 密嚴山遍照院普門寺 高野山真言宗

御詠歌：まことあるふることきけばはつかりの こゑを普く門にくふらん

所在地：同所 藤沢市 本鶴沼5-5-12



普門寺は大鋸感応院の末寺。享禄元(1528)年、良元が草創。元和3(1617)年、元朝阿闍梨が現所に開基した。中興は善龍、延宝4(1676)年入寂。現本堂は生田浄耕52世が慶応2年に起工し、明治11年遷座した。

大師像は石造で、境内の小堂に祀られている。坐像 50cm

本四國：熊野山妙見院八坂寺(愛媛県松山市浄瑠璃町八坂)

花を見て 歌読む人は 八坂寺 三佛じょうの 縁とこそ聞け

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤久美子/鈴木三男吉/佐藤和子/中島明/持田玉枝/綿谷克延

ぜんこうざんてんりゅういんほうしやうじ
第48番 善光山天龍院法照寺 浄土宗

御詠歌：錦してみのりの庭を照らすらん 西の林の月のかつらは

現在地：同所 藤沢市 鶴沼神明2-2-24(2小祠の右側)



小堂は二つあるが向かって右側の小堂の方の大師像と思われる(関根昭一氏証言)
右側のお堂の前に標柱あり(正面：南無大師遍照金剛法照寺/右面：四国八拾八ヶ所之内/左面：第四拾八番伊豫西林寺寫/裏面：示時天保五年三月関根重三郎)
左側の大師像も全く同じ設立理由時期不明(町内会の大師様という)

石造坐像 48cm

本四國：清瀧山安養院西林寺(愛媛県松山市高井町)

彌陀佛の 世界を訪ね 行きたくば 西の林の 寺に詣れよ

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤久美子/鈴木三男吉/佐藤和子/中島明/持田玉枝/綿谷克延

第4番 はくおうざんはんにやいん 白王山般若院(前) そうごんじ 莊嚴寺 高野山真言宗

御詠歌：てらす日の影もまばゆくにほふかな みのりのもとのふじさはの寺

所在地：同所 藤沢市 本町4-6-12



莊嚴寺は元暦の創建、元文年間に火災に遭い草堂のみとなったが、延享年間に白旗神社の傍地に再建され別

当となった。このため今まで寺のあった所を前莊嚴寺、再建されたのを当莊嚴寺または白旗別当莊嚴寺と称していたが、廃仏毀釈により別当を去り、前莊嚴寺の所に帰り再建した。

大師堂は参道左側にあり、大師像が2体、地蔵が1体安置されている。後方の台石に乗った像が4番の像であるが、水差しを彫った本体が水差しのある台石上にあり、別の台石と思われる。坐像高42cm。

本四國 こくがくさん 黒巖山遍照院大日寺 (徳島県板野郡板野町黒谷)

眺むれば 月白妙の 夜半なれや ただ黒谷に 墨染の袖

調査：2009年10月20日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/戸井田道子/内藤喜嗣

第10番 しらはた 白旗別當 當莊嚴寺 高野山真言宗(移転)

御詠歌：神風のふきしづめたる御かみ道は しらはた山になびくもろくさ

現在地：白王山般若院莊嚴寺 高野山真言宗 藤沢市 本町4-6-12



山上本によれば、法照寺一当院より大道をゆき永勝寺前をたつね是を中道と申往還なり。11丁半一中ノ町へ出右の方白旗横丁より行くなり4丁半一白旗別當莊

嚴寺 とある。前莊嚴寺と當莊嚴寺が併存したのは間違いない。それが1箇所になったいきさつは4番で述べた。

大師像は堂内前方左側のもの。台石はない。4番の像の台石はこの10番の台石かも知れない。坐像高59cm。

本四國：とくどざん 得度山灌頂院切幡寺（徳島県阿波郡市場町切幡）
きりはたじ
 欲心を ただ一筋に 切幡寺、後の世までの 障とぞなる

調査：2009年10月20日 岡田哲明/熊坂兌子/小池清志/戸井田道子/内藤喜嗣

第85番 ^{だい}臺觀音堂(廢堂)

御詠歌：ふだらくの岸ははちすのうてなまち 世にすぐれたるめぐみいたばく

現在地：風早山高松院真源寺 浄土宗 *右側 藤沢市 本町3-17-19



右側の像



台觀音堂は常光寺持であつたが、度々の大火に焼失、再建を繰り返した模様。大師像は廢寺令により、真源寺に移された。真源寺は安永元(1772)年、空寂により開創。大師像は長い石段を上った左側の小堂に2体ある。いずれが85番か不明。もう一体の法は68番壁土山のものがここに移されている。

本四國：五劔山觀自在院八栗寺(香川県木田郡牟礼町)

煩悩を 胸の智火にて ハ栗をば 修行者ならでは 誰か知らべき

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

第68番 壁土山

御詠歌：かべつちのうへにもみゝのありといへば さそなきくらん松風のこゑ

現在地：風早山高松院真源寺 浄土宗*左側 藤沢市 本町3-17-19



左側の像



壁土山という地名は今日全く忘れられているが、「相模国高座郡鎌倉郡藤沢宿略図」によると坂戸町伊勢山の東側山麓に「常光寺持・壁土山・地藏堂」とある。

真源寺については85番台観音堂の項を参照されたい。

左右のいずれが68番かは不明である。

本四國：琴弾山八幡宮(神恵院) (香川県観音寺市観音寺町)

笛の音も 松吹く風も 琴弾くも 歌うも舞うも 法のこえごえ

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

第69番 おうじょうざんしやうみやういんほんがんにじ
往生山稱名院本願寺 浄土宗

御詠歌：ともどものみのりそしるきハ東徳の 稲荷ふてふこのさとのなに

所在地：同所 藤沢市 稲荷1-2-3



1333年の開創であるが、度々の火災により寺宝、旧記、本尊等焼失。明治より尼僧が住職として入山。

その後、大震災、台風、裏の飛行場からの土砂流により寺は流失。

本四國：七寶山神恵院観音寺(香川県観音寺市観音寺町甲)

観音の 大悲の力 強ければ 重き罪をも 引きあげてたべ

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

ひきちさんようめいじ
第26番 引地山養命寺 曹洞宗

御詠歌：とくめくる人のいのちをやしなふて くるまひきしの名をのこしける

現在地：同所 藤沢市 城南4-10-35



大庭宗賢院の末寺。開創は文禄元(1592)年に没した宗賢院三世暁堂といわれている。

大師像は露坐で、頭部がない。

なお、本堂裏手の收藏庫には薬師三尊像があり、運慶作といわれ、国重要文化財に指定されている。

本四國：龍頭山りゅうずさん光明院くわうめい金剛頂寺こんごうちやうじ(高知県室戸市室戸町)

往生に 望みをかくる 極樂は 月のかたむく 西寺のそら

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

第78番 羽鳥山徳昌院(廃寺)

御詠歌：にはどりのなくねと共に起きいでて 露ふみわくるのりのみちしば

現在地：天神山汲田墓地*左側 藤沢市 羽鳥3-2



徳昌院は明治の初め廃寺。その本堂を利用して小笠原東陽は三觜八郎右衛門の協力を得て学校を開き「読書院」と称した。そのため境内の墓地は一切天神山の墓地に移した。大師像も同時に移されたものと思われる。ここには52番天神山の大師像も祀られている。読書院は名声と共に手狭になり、汲田1020番地に移り、「耕余塾」と改称。台石正面に「四国八十八ヶ所内七十八番讃州道場寺写文政三辰六月吉日転余智円尼上座」と刻字。像高41cm。首に修理跡。

本四國：佛光山廣徳院郷照寺(香川県綾歌郡宇多津町)

踊りはね 念仏唱う 道場寺 ひょうしをそろえ 鐘を打つなり

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

第52番 天神山

御詠歌：このかみのちかひあふげばたいさんの みねとしるらんふでのはやしは

現在地：天神山汲田墓地*右側 藤沢市 羽鳥3-2



天神山は現在汲田の墓地と称され、同地区の共同墓地になっている。この墓地には羽鳥村の老梅庵や徳昌院（共に廃寺）の墓が移されている。

大師像も同時に移設されたものと思われる。

台石側面に「五十二番伊予太山寺写」と刻字。像高47cm。

本四國：龍雲山護持院太山寺(愛媛県松山市太山寺)

太山に 登れば汗の 出てけれど 後の世思えば 何の苦もなし

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

はつしようざんみょうおういんほうじゆじ
第9番 八松山明王院寶珠寺 高野山真言宗

御詠歌：てらのなの珠の光はくもらめや 八もとの松の八千代ふるとも

現在地：同所 藤沢市 辻堂元町2-4-27



地元辻堂では「北の寺」と親しまれている鎌倉初期創建と伝えられる真言宗の古刹。大師像は参道右手の石組みの上に建てられた小堂に祀られている。

初めは南方の八松ヶ原久保田にあり、元禄7年(1694)の火災の後、東海道線に近い現在地に移ったという。毎月骨董市が開かれる。

本四國：正しょうかく覺山菩提院法輪寺（徳島県板野郡土成町土成）

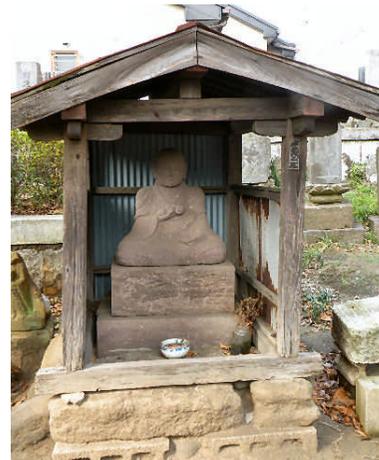
大乘の ひぼうもどがも ひるがえし 転法輪の 縁とこそきけ

調査：2009年11月10日 浅野陽子/小林政夫/渡部かほり/渡部瞭

ひがしどうめんあみだどう
第11番 東堂面阿彌陀堂

御詠歌：このさとのなをなつかしみ宿る夜は 弥陀のみくに、すむこ、ちせり

現在地：同所 藤沢市 辻堂元町3-6-12



宝珠寺門前から右方向、南西への道を進み、突き当たったら左折して道なりに進むと、左手小高いところに阿彌陀堂がある。参道左側に石仏・石神が集められており、トタン葺きのやや傾いた大師堂がある。台石は一段高い基石の上にあり銘が彫られているが風化して判読しづらい。坐像高49cm。

本四國：金剛山一乗院ふじいでら藤井寺（徳島県麻植郡鴨島町飯尾）
色も香も 無比中道の 藤井寺 真如の波の たたぬ目もなし

調査：2009年11月10日 浅野陽子/小林政夫/渡部かほり/渡部瞭

つじどうこうみようしんごん
第84番 辻堂光明眞言(諏訪神社)

御詠歌：水上は諏訪のかみらもひるよるに たからのいづみくめどつきせぬ

現在地：海龍山観音院寶泉寺 高野山眞言宗 藤沢市 辻堂元町3-15-13



辻堂の地名の語源といわれる「堂」は、神仏混淆時代の光明眞言という眞言系の寺で、明治の神仏分離で諏訪神社と宝泉寺に分かれたとされる。その境界に宝泉寺側に向けた2体の大師像が並んだ赤屋根トタン葺き大師堂がある。台石がないので、どちらが3番か84番かは不明という。

本四國：南面山千光院屋島寺やしまじ（香川県高松市屋島東町）
梓弓 屋島の寺に 詣でつつ 祈りをかけて 勇む武夫

調査：2009年11月10日 浅野陽子/小林政夫/渡部かほり/渡部瞭

かいりゆうざんくわんおんいんほうせんじ
第3番 海龍山観音院寶泉寺 高野山真言宗

御詠歌：いちや寝てこゝろの月をすましみよ のりのいづみのかげはくらまず

所在地：同所 藤沢市 辻堂元町3-15-13



地元辻堂では「南の寺」と親しまれている宝泉寺も真言宗の寺院である。境内左手の諏訪神社との境に84番と並んで3番の大師像が安置されている。2体共に赤い頭巾を被り、よだれかけをかけるという地藏尊と同じ扱いを受けている。

真言宗寺院だけに、この扱いは残念な気がする。

本四國：亀光山きこうざん 積迦院こんせんじ 金泉寺（徳島県板野郡板野町大寺）

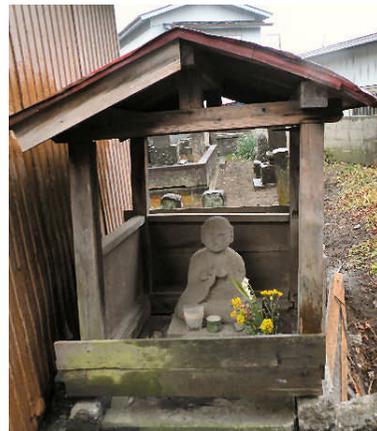
極楽の たからの池を 思えただ 黄金の泉 澄みわたる

調査：2009年11月10日 浅野陽子/小林政夫/渡部かほり/渡部瞭

こわだあみだどう
第7番 小和田阿彌陀堂(廃堂)

御詠歌：うへもなきみのりをおもへハ東徳に 小和田のたり穂打なびくなり

現在地：代官町大師堂(弥陀堂) 茅ヶ崎市 代官町5-48



旧東海道である国道1号の信号機のある上正寺前交差点と小和田交差点の中間から南に入る小径の突き当たり、右にカーブするところにある。現在阿彌陀堂はなく、かなり大きな地蔵堂と大師石像が納められ壊れかけた小堂とが並んでいる。向かいには馬頭観音像も祀られていて、かつてはかなり重要な辻であったことを偲ばせる。坐像高43cm。

本四國：光明山蓮華光院 十樂寺 (徳島県板野郡土成町高尾)

人間の 八苦を早く 離れなば 到らん方は 九品十らく

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

第8番 さんのうざんくわんおんいんこうとくじ 山王山観音院廣徳寺 高野山真言宗

御詠歌：たがはずに親のおしへをまもる子の 行くすゑひろきのりの庭かな

所在地：同所 茅ヶ崎市 小和田1-17-5



国道1号小和田交差点の北側にある真言宗寺院。家康が江戸に入り、東海道が整備された頃、元和元年（1615）の創建である。本尊は千手観世音菩薩。元禄年間に本堂を焼失、明和年間に再建されたという。

大師堂は本堂に向って右手の真新しい小堂で、像の保存状態も良く、大切に扱われてきたことが判る。坐像高39cm。

本四國：ふみょうさん くまだにじ 晋明山真光院熊谷寺（徳島県板野郡土成町西原）

薪とり 水くま谷の 寺に来て 難行するも 後の世のため

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

第24番 せんじゆいん てんおうざんじんぼじ 千手院(天應山神保寺) 高野山真言宗

御詠歌：遠近の人の小和田につどへるも ほとけのみ手にまねかれてこそ

所在地：同所 茅ヶ崎市 代官町1-4



広徳寺の筋向かいにある。調査時点では本堂は建て直し工事中で、基礎が打たれたばかりだった。平成22年3月の春季彼岸会以降に宮大工による立柱式を挙行し、年度内完成の予定。

真言宗。江戸初期の創建で本尊は千手観音座像という。

大師像は墓地の東縁の一見犬小屋を連想する現代的(?)デザインの小堂に納められている。坐像の頭は体に比較すると小さく、首がセメントで付けられた跡がある。台石は右向きに据えられている。台石には文政四年正月吉祥日の銘がある。坐像高45cm。



本四國：ほつみさきじ 室戸山明星院最御崎寺 (高知県室戸市室戸岬町)

明星の 出でぬる方の 東寺 暗き迷は などかあらじま

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

ちようふくじ
第22番 菱沼山長福寺 高野山真言宗

御詠歌：假かりのよとおもひし沼にさきぐさの しげきめぐみにあふぞ嬉しき

所在地：同所 茅ヶ崎 松林3-11-52



茅ヶ崎市立松林小学校の西隣にある真言宗寺院。本尊は薬師如来で創建は寺の縁起では鎌倉時代末期とされる。大師像は本堂の左側のかかなり立派な大師堂に地藏菩薩と共に納められているが、赤いよだれかけを掛けている。坐像高39cm。

境内には文学碑が多く、飯田九一句碑、鴨立庵芳如句碑、添田唾蟬坊句碑、水越梅二歌碑が見られる。

本四國：白山水醫王院平等寺（徳島県阿南市新野町秋山）
 平等に 隔てのなきと 聞く時は あら頼もしき 佛とぞみる

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

第76番 茅ヶ崎山遍照殿圓藏寺 えんぞうじ 高野山真言宗

御詠歌：さぬきなる遠きこがねをちがさきの まどかのくらにおがむかしこさ

所在地：同所 茅ヶ崎市 十間坂1-3-39



茅ヶ崎駅北口から西方へ、国道1号に背を向けて建つ真言宗寺院。本尊は薬師如来で創建は不詳だが、震災前は本村観音堂（70番札所）の所にあった。

山門を入れて左に向かい、さらに左折すると、塀沿いに真新しい大師堂が北向きに二つ並んでいる。向かって右のやや大振り的大師堂に安置されているのが第76番。左は第15番である。

堂の右前には御詠歌を刻んだ石板が設置されている。

本四國：けいそくさん 鶏足山こんぞうじ 寶幢院金倉寺（香川県善通寺市金藏寺町）
まことにも 神仏倉を 開くれば 真言加持の 不思議なりけり

調査：2009年12月1日 浅野陽子/小林政夫/渡部かほり/渡部瞭

ほんそん
第70番 本村観音堂

御詠歌：よびあふて結ぶみのりやふだらくの きしさし渡す舟のちがさき

現在地：同所 茅ヶ崎市 本村5-6



海前寺の北西方、本町4丁目交差点から西へ向かい、すぐ北へ分かれる小径の奥に赤い屋根の観音堂が見える。ここには元々円蔵寺があったが、震災で倒壊し現在の十間坂に移転し、観音堂だけが残された。大師像は本堂の左前にある小堂に安置されている。

本四國：七寶山持寶院本山寺（香川県三豊郡豊中町本山）

もとやまに 誰か植えける 花なれや 春こそたをれ たむけにぞなる

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

ほうりんざんちようせいでんこんごういん
第49番 法林山長生殿金剛院 高野山真言宗

御詠歌：たのもしさ影を南のうみちかに のりのはやしにたちしげりつゝ

現在地：同所 茅ヶ崎市 南湖1-2-11



国道1号南湖入口交差点から南に入ったところにある高野山真言宗の寺院。鎌倉時代創建と伝える古刹で、明治41年(1908)茅ヶ崎町が結成された時、初代の町役場はこの寺に置かれた。先代住職真柴敬典師は、昭和37年(1962)に『相模国準四国八十八ヶ所 開創の考証と詠歌』を冊子にまとめられた。

大師堂は本堂左手の塀際にあるが、大師像は風化が激しいためか、前に大師を線刻した新しい石板が置かれていて、裏を覗き込まないと見えない。

本四國：西林山三藏院淨土寺 (愛媛県松山市鷹子町)

十悪の 我身を棄てず そのままに 浄土の寺へ まいりこそすれ

調査：2009年12月1日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/渡部かほり/渡部瞭

第86番 御靈山淨祥院西運寺 浄土宗

ごりようざんじようしやういんさいうんじ

御詠歌：はては皆西にあゆみを運ぶ身ぞ 心にかけてみがけわがたま

現在地：同所 茅ヶ崎市 南湖2-9-34



南湖二丁目北端の東海道本線に沿う浄土宗の寺院。

慶長元年（1596）創建と伝えられる。

大師堂は本堂左手にある。大師像には赤い頭巾とよだれかけが掛けられている上、ご丁寧にも「南無地藏菩薩広大慈悲」の卒塔婆が添えられていて、完全にお地藏様として祀られている。左側の堂は南郷力丸の供養塔である。

本四國：補陀洛山清淨光院志度寺（香川県大川郡志度町志度）

いざさらば 今宵はここに 志度の寺 祈りの声を 耳に触れつつ

調査：2009年12月1日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/渡部かほり/渡部瞭

第67番 松尾山神明院善性寺 高野山真言宗

御詠歌：時またぬ命をたれかしらまゆみ ひくや小まつを千代のためしに

所在地：同所 茅ヶ崎市 松尾3-22



公団浜見平団地の北西方向の裏道にある小さな真言宗寺院で、やや見つけにくい。

本尊は元は大日如来であったが、現在は阿弥陀如来である。開山は不詳だが、万治3年

(1660)清印により中興されたという記録がある。

大師堂は参道右手の赤いトタン葺きの小堂で、かなり風化が進んで、目鼻立ちのはっきりしない大師像が単独で安置されている。首は折れたらしく、補修してある。坐像高46cm。

本四國：小松尾山不動光院大興寺（小松尾寺）（香川県三豊郡山本町）

うえおきし 小松尾寺を 眺むれば 法の教えの 風ぞ吹きぬる

調査：2009年12月1日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/渡部かほり/渡部瞭

第39番 柳島地藏院(廃寺)

御詠歌：うちなびきはるはみどりの柳島 夏はすゞしきかげとこそなれ

現在地：柳島山宝亀院善福寺 高野山真言宗 茅ヶ崎市 柳島1-3-28



元の柳島地藏院の正確な位置は不明だが、現在は柳島バス停の北西にある善福寺の大師堂に第38番の善福寺大師像と並んで安置されている。

山門を潜って本堂に向かう左側に「大師堂」の扁額を掲げた新しい堂がある。向かって左が第39番の大師像で、やや身幅が広く風化が進んでいる。

台石は花崗岩の新しいもので、特に銘などは彫られていない。

本四國：赤亀山寺山院延光寺（高知県宿毛市平田町）

南無薬師 諸病悉除の 願くめて 詣る我身を 助けまませ

調査：2009年12月1日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/渡部かほり/渡部瞭

ほうきいんぜんぶくじ
第38番 柳島山寶龜院善福寺 高野山真言宗

御詠歌：ふくかぜになびく柳のみどりより なほしたはるゝのりの恵みは

現在地：同所 茅ヶ崎市 柳島1-3-28



柳島バス停北西にある真言宗の寺院で、西側に石造仁王像に護られた山門がある。山門を潜った左側に大師堂があり、2体の大師像が安置されている。

向かって右側のやや身幅が狭い方が第38番の善福寺大師像で、かなり風化が進み傷みが激しい。台石は花崗岩製の真新しいものに取り替えられており、特に銘などは彫られていない。

本四國：蹉跎山補陀洛院金剛福寺（あしずり寺）（高知県土佐清水市足摺岬）
 ふだらくや こゝは岬の 船の棹 取るも捨つるも 法のさだやま

調査：2009年12月1日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/渡部かほり/渡部瞭

だいこういんばいうんじ
第42番 町屋山大廣院梅雲寺 浄土宗

御詠歌：春はなほ梅のにほひにかゝつちの 神もひかりをますかゞみかな

所在地：同所 茅ヶ崎市 下町屋2-12



国道1号下町屋カーブの北方にある浄土宗寺院。本尊は阿弥陀如来で、江戸時代初期の創建という。

大師堂は本堂の左側に廻った裏手の墓地入口右手の赤いトタン屋根で、左側には不動明王が並んでいる。

大師像は割合小さく顔も小さい。隣の不動明王像と共に赤いよだれかけが掛けられている。

本四國 いっかさん 一か山毘盧舎那院佛木寺 (愛媛県北宇和郡三間町則) ぶつもくじ
 草も木も 佛になれる 佛木寺 なを頼もしき 鬼畜にんでん

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

はまのごう
第57番 浜之郷 八幡宮社頭

御詠歌：たまちはふ神のめぐみはよろづよも つきぬまさこと拾ふさとびとひろ

現在地：懐島山龍前院 曹洞宗 茅ヶ崎市 浜之郷356



八幡宮とは鶴嶺八幡宮のことで、大師像は社頭の左手にあったという。明治の神仏分離令により龍前院に移された。龍前院はもと真言宗であったが、永正5年(1508)頃に曹洞宗寺院として再興された。

大師堂は本堂を裏側に回った北側の塀際にポツンと建っている。大師像は座像高46センチと堂に比して小ぶりで、右側に五輪塔が置かれている。境内には市指定重要文化財の五輪塔10基があることで知られる。

本四國 ふとうさん 府頭山無量壽院 えいふくじ 榮福寺 (愛媛県越智郡玉川町八幡)

この世には 弓矢を守る ハ幡なり 来世は人を 救う彌陀佛

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

りんかいざんちようぜんじ
第61番 臨海山長善寺 高野山真言宗

御詠歌：^{あづきゆみ} 梓弓はるの耕 ^{たがや} しいそぐらん 矢はたのみのりまどにかけつゝ

現在地：同所 茅ヶ崎市 矢畑150



鶴嶺八幡宮の北東、梅田通りの西側の裏道にある赤い屋根の真言宗寺院。江戸時代は鶴嶺八幡宮の別当12院の一つで勝運坊と呼ばれた。

参道左側の植え込みの中に大師堂が建っている。ここでも赤い頭巾とよだれかけが掛けられている。台石正面に「予州香園寺写 四国六十一番高祖弘法大師倍增法楽也 一見阿字 五逆消滅 真言得果 即身成仏」の銘がある。

本四國：^{せんだんざん} 梅檀山教王院 ^{こうおんじ} 香園寺（愛媛県周桑郡小松町南川）

後の世を 思えば詣れ 香園寺 とめて止まらぬ 白滝の水

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

第28番 ^{えんぞう} 圓藏 大日堂

御詠歌：大そらにてる日のひかりまどかにも おさまる御代にあへるのりかな

所在地：真光寺 ^{しんこうじ} (院) 高野山真言宗 茅ヶ崎市 円蔵2-8-10



極めて判りにくいところにある。県立鶴嶺高校運動場の北西端北方から西に向かう道を進むと、相模線踏切の手前左側が畑になっていて、その奥に住宅とは思えないが、寺院にはとても見えないトタン張りの粗末な建物がある。これが江戸時代の領主の横山半左衛門が建立した真言宗の真光寺（真光庵とも）らしい。

大師堂はその右前にあるブロック積みの囲いで、鶴田町内会29名が62,500円の寄付と7人の手間で建てられた旨記されており、供物が供えられている。

本四國：^{ほうかいざん} 法界山高照院大日寺（高知県香美郡野市町）
^{だいにちじ} 露霜と 罪を照らせる 大日寺 などか歩みを 運ばざらまじ

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

第19番 天慶山地藏院輪光寺 りんこうじ 高野山真言宗

御詠歌：よきたねをまきしみのりやうつせみの みも世もやすきゑんそうしかな

所在地：同所 茅ヶ崎市 円蔵2238



真光寺から西へ、相模線の踏切を渡って進んだ突き当たりにある真言宗の寺院。室町時代初期の創建。開山は天快と伝えられる。本尊は地藏菩薩。

本堂左手に小ぶりの大師堂に収まった小ぶりの大師像が見られる。

この寺には市指定重要文化財の寛永17年(1640)日本最古の庚申塔がある。

本四國：まにさん 摩尼山又は橋池山たつえじ 摩尼院立江寺（徳島県小松島市立江町若松）

いつかさて 西の住居の わが立江 弘誓の船に 乗りて到らん

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

第72番 かいとうざんほうしようじ 懷嶋山寶生寺 高野山真言宗

御詠歌：みな人のすます心の法のみづ このにしくぼにながれよるなり

現在地：同所 茅ヶ崎市 西久保546



平安末の鎌倉党の武者懷嶋景能の開基と伝える真言宗の古刹。本尊は金剛界大日如来。他に国指定重要文化財の阿弥陀三尊像が安置されている。茅ヶ崎市も西端に近く、畑に囲まれている。

大師堂は境内左手にあり、よく整備されている。

大師像はやや大型で、台石はない。花柄の衣が着せられている。

本四國：がはいしざん 我拜師山延命院まんだらじ 曼陀羅寺（香川県善通寺市吉原町）

わづかにも 曼陀羅おがも 人はただ ふたたびみたび かへらざらまし

調査：2010年1月12日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/原雅子/渡部かほり/渡部瞭

げんさんじ
第55番 香川山玄珊寺 曹洞宗

御詠歌：伊豫の海三島の神のみづかきを にほふ香川にうつしくみけり

現在地：同所 茅ヶ崎市 香川2-27-24



玄珊寺は大庭宗賢院末。開創は天正9(1581)年宗賢院四世長厳である。
天正19(1591)年、この地に300石の知行地を拝領した旗本本間政季の菩提寺となった。

坐像高43cm。

JR相模線香川駅下車、徒歩7分

本四國：別宮山金剛院光明寺南光坊（愛媛県今治市別宮町）

このところ 三島の夢の さめぬれば 別宮とても おなじ垂迹

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

とうふくじ
第14番 東福寺(廃寺)地蔵堂(廃堂)

御詠歌：大まがりまがる心の人とても すぐにみちびけ六のちまたに

おおまがり
現在地：大曲(共同墓地内) 寒川町 大曲1-18



当初の札所地蔵堂は宝永4年(1707)円心が建立したもので、東福寺(今は廃寺)持ちであった。大師石像は共同墓地の一角の小堂に六地蔵と共に一番右端に納められている。

新編相模国風土記稿に「地蔵堂、宝永四年(1707)四月僧円心建、東福寺持」とある。

JR相模線香川駅下車、徒歩10分

本四國：盛壽山延命院常樂寺(徳島県徳島市国府町延命)

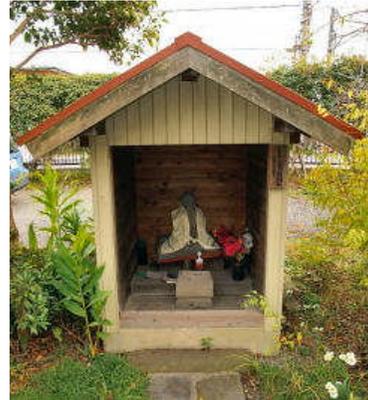
常樂の 岸にはいつか いたらまし 弘誓の船に 乗り遅れずば

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第54番 山王山南泉寺(廃寺)
なんせんじ

御詠歌：つくりなすつみの重荷もみほとけの 誓にかるのいちのみやかな

現在地：窪田山宝珠院景観寺 天台宗 寒川町 一之宮1-18-15
けいかんじ



天台宗。この54番は元々一宮の山王山南泉寺のもので、後に景観寺に移されてきたといわれている。平成10年に大師堂が寄進されている。

景観寺：天平宝字元年(757)に創立されたと伝えられ、新編相模国風土記稿に「窪田山と号す。天台宗大住郡一之沢発願寺末本尊十一面観世音菩薩立像。鐘明和七年(1770)築造」とある。坐高105.3cm。木造割矧造玉眼。

本四國：近見山寶鐘院延命寺 (愛媛県今治市阿方町)
ちかみさん

くもりなき 鏡の縁と ながおれば 残さず影を うつすものかな

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第83番 城山地藏堂(廃堂)

御詠歌：法の露むすべばすくにゆうたすき かけしちかひは一のみやかな

所在地：山王山明王院南泉寺 高野山真言宗 寒川町 一之宮1-23-1



当初は城山の城山地蔵堂であるが今はない。大師石像は明治の神仏分離令により、南泉寺に移された。平成18年立派な石造りの大師堂が建立された。御詠歌も右側面に刻まれている。

南泉寺：山王山 真言宗。新編相模国風土記稿に「古儀真言宗岡田村安楽寺末、不動を本尊とす。開山善清、天正年中(1573-1592)創立す。開基は村民五右衛門の先祖なり。」とある。明治35年以降は高野山の直轄に昇進した。

本四國：神毫山^{しんごうざん}大寶院^{いちのみやじ}一之宮寺（香川県高松市一之宮町）

讃岐一 宮の御前に 仰ぎ来て 神の心を 誰かしらゆう

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第6番 ^{あんらくじ} 大塚山安楽寺 高野山真言宗

御詠歌：のちのよとおぼつかなくもこのみしか このよからこそ安くたのしき

現在地：同所 寒川町 岡田2387



安楽寺の御詠歌

明治の後半に町内の等覚寺、岡田村の観護寺、岡田宝塔院が諸般の事情によりこの寺にまとめられたという。高野山真言宗大塚山安楽寺は養老2年(715)の建立と伝えられる町内最古の格式の高い寺院で十数の末寺があった。本尊は大日如来坐像(町指定重要文化財)、「新編相模国風土記稿」には古くは寒川神社の別当であったと記されている。明治37年に末寺の等覚寺、岡田村観護寺、明治40年に岡田宝塔院(地蔵)を合併した。境内裏手に前方後円墳の大神塚古墳がある。

本四國：温泉山瑠璃光院安楽寺(徳島県板野郡上板町引野)

かりの世に 知行争う おやくなり 安楽園の 守護をのぞめよ

調査：2009年9月11日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

やくおうじ
第62番 薬王寺(廃寺)

御詠歌：ちはやふる神のみややま寒川の ふかき恵みは身にぞしみける

現在地：靈信山西善院 高野山真言宗 寒川町 宮山3925



左側の像



薬王寺は寒川神社の別当寺であったが、廃寺になったため大師像は現在の西善院にある。二体あるがいずれも銘はない。もう一体は73番神照寺のものという。

西善院は寒川神社供僧だったが、明治維新後の神仏分離令で神社から独立。その折りに廃絶した別当薬師寺、供僧神照寺、同中之坊、同三大坊の本尊や檀家を引き継いだ。

本四國：一の宮（天養山）観音院寶壽寺（愛媛県周桑郡小松町駅前）

さみだれの あとに出でたる 玉の井は 白つゆなるや 一の宮川

調査：2009年9月11日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第73番 ^{しんしょうじ} 神照寺(廃寺)

御詠歌：宮山ににほふあさひはたまちはふ 神のてらせるかゞみなるらん

所在地：靈信山西善院 高野山真言宗 寒川町 宮山3925



右側の像



神照寺は寒川神社の別当寺であったが、廃寺になったため現在の西善院にある。62番とともに二体あるがいずれも銘はなく、左右いずれが何番かは不明。

西善院は寒川神社供僧だったが、明治維新後の神仏分離令で神社から独立。その折りに廃絶した別当薬師寺、供僧神照寺、同中之坊、同三大坊の本尊や檀家を引き継いだ。

本四國：^{がはいしざん} 我拜師山求聞持院出釋迦寺 (香川県善通寺市吉原町)

^{しゅつしやかじ} 迷いねる 六道衆生 救わんと 尊き山に いづる釈迦寺

調査：2009年9月11日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第65番 宮原山不動院觀藏寺 ^{くわんぞうじ} 高野山真言宗

御詠歌：はなさきてみのらぬ草はなかりけり 神もほとけも秋をみやはら

所在地：同所 藤沢市 宮原1665



台石には正面に沓、水差しが浮き出ている。そして「本地仏十一面観世音 四国八十八ヶ所之内六十五番予州高座郡宮原村観藏寺」と銘がある。坐高51cm。

この地区、中原街道と大山道、厚木道が交差する交通の要所で、江戸時代人馬繫立場として栄えたところ。当院は中原街道沿いにある。駐車場はないが交通量は少ない。

本四國 ^{ゆれいざん} 幽霊山 (由霊山) ^{さんかくじ} 慈尊院三角寺 (愛媛県川之江市金田町)

おそろしや 三つの角にも 入るならば 心をまろく 慈悲を念ぜよ

調査：2009年9月14日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第64番 おおぞうあみだどう 大藏阿彌陀堂(廃堂)

御詠歌：ととくしにあきのみりの大藏と おおぞう かねてつけたるさとの名にもや

所在地：大藏共同墓地 寒川町 大藏854



大師像は小さなガラス張りの堂に納められている。石柱に「相州高座郡大藏村 講中 四国八十八ヶ所之内 六十四番予州黒前 南無大師遍照 文政三辰十一月吉祥日 願主世話人・・・」の銘あり。坐高50cm

昔は阿彌陀堂とあるが、現在跡地は共同墓地となっている。駐車場はなく、車両でのアクセスは無理。

本四國：いしづちさん まえがみじ 石鉄山金色院前神寺（愛媛県西条市洲の内）

前は神 後は佛 極楽の よろずの罪を くたくいちづち

調査：2009年9月14日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

ほうとういん
第75番 南岳山寶塔院(廃寺)

御詠歌：民草に露を岡田のうるおいも さながら法のめぐみなりけり

現在地：大塚山安楽寺 高野山真言宗 寒川町 岡田2387



宝塔院は南岳山と号し、真言宗。安楽寺の末寺であった。

高野山真言宗大塚山安楽寺は明治37年に末寺の等覚寺(本尊地藏)、岡田村観護寺(本尊不動)、明治40年に岡田宝塔院(本尊地藏)を合併した。境内裏手に帆立貝型前方後円墳の大神塚古墳がある。

三体のうちの左。台石には杳、水差しのほか正面に「四国七十五番讃州五岳山善通寺写 岡田村宝塔院」の銘がある。左右壁面に銘があるが読めず。坐高50cm

本四國：屏風浦誕生院善通寺（五岳山総本山）（香川県善通寺市善通寺町）
 我住まば よも消えはてじ 善通寺 深き誓いの 法のともしび

調査：2009年9月14日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第71番 鶴足山慈眼院くわんごじ観護寺(廃寺)

御詠歌：この寺のみのりをあふぐ民草を ゆたかにまもれ山も岡田も

現在地：大塚山安楽寺 高野山真言宗 寒川町 岡田2387



観護寺は鶴足山慈眼院と号し、真言宗。安楽寺の末寺であった。明治37年に末寺の等覚寺(本尊地藏)、岡田村観護寺(本尊不動)、明治40年に岡田宝塔院(本尊地藏)を合併した。

境内裏手に帆立貝型前方後円墳の大神塚古墳がある。

三体のうち右。台石には杵、水差しのほか正面に「四国七十一番讃州弥谷寺写」の銘がある。左右壁面に銘があるが読めず。坐高52cm

本四国：けんごさん 劔御山(劔五山) いやだにじ 千手院彌谷寺 (香川県三豊郡三野町)

悪人と 行連なんも 彌谷寺 只かりそめも 良き友ぞよき

調査：2009年9月14日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

とうがくじ
第15番 東覚寺(廃寺) 高野山真言宗

御詠歌：海ならぬ岡田のあきのうちなびき みちもなぎさの波とこそみえ

現在地：茅ヶ崎山遍照殿圓蔵寺 高野山真言宗 茅ヶ崎市 十間坂1-3-39



東覚寺(等覚寺)は、岡田村(寒川町岡田)にあった真言宗寺院だが、明治37年(1904)に観護寺と共に大塚山安楽寺に併合され、大師像も移された。

茅ヶ崎駅北口から西方の円蔵寺山門をに入って左に向かい、さらに左折すると、堀沿いに真新しい大師堂が北向きに二つ並んでいる。向かって左のやや奥まって建てられた大師堂に安置されているのが第15番。右は円蔵寺の第76番である。

堂の左前には御詠歌を刻んだ石板(右下写真)が設置されている。

本四国：薬王山金色院國分寺(徳島県徳島市国府町矢野)

薄く濃く わけわけ色を 染めぬれば 流転生死の 秋のもみじば

調査：2009年12月1日 浅野陽子/小林政夫/長谷川祐/渡部かほり/渡部瞭

はくほうじ
第81番 景德山白峰寺 曹洞宗

御詠歌：かしらには月日の霜をいたゞきて 数の御寺をめぐるうれしさ

所在地：同所 茅ヶ崎市 下寺尾1551



正面に「四国八十八ヶ所之内 本地千手観音 第八十一番讃州白峰寺写 文政三
 辰年十二月吉日」の銘がある。坐高46cm

車の場合は入口前に駐車場がある。

ペット霊園としても知られている。

本四國：綾歌山洞林院白峯寺（綾松山）（香川県坂出市青梅町）

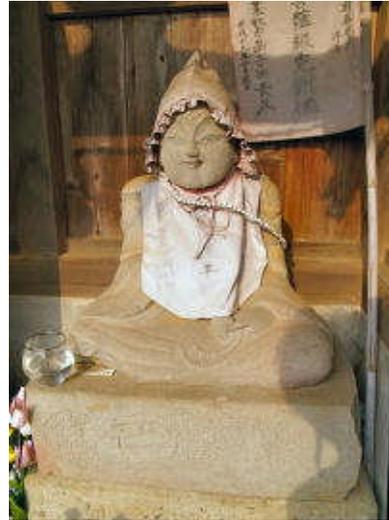
霜さむく 露白妙の 寺のうち 御名を称うる のりのこえごえ

調査：2009年9月14日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

つつみ
第20番 堤地蔵堂

御詠歌：みほとけのころもに身をやつ、みむら 六のちまたにやどるその夜は

現在地：同所 茅ヶ崎市 堤3426 (※村越勝治邸敷地内)



地蔵堂は堤の正覚院(曹洞宗)持ちであったが、今はなく、小さなお堂に左側の地蔵菩薩と一緒に納められている。村越氏が自宅敷地内にて管理されている。

拝観にはひとことあいさつしておく配慮が必要。

坐高46cm

本四國：靈鷲山寶珠院鶴林寺 (徳島県勝浦郡勝浦町鶴山)

しげりつつ 鶴の林を するべにて 大師ぞいます 地蔵帝釈

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第35番 じょうじゆいん 成就院(甘沼山薬王寺) 高野山真言宗

御詠歌：清瀧の水のながれをせきとめて むすぶちかひや甘沼のさと

現在地：同所 茅ヶ崎市 甘沼473



寺は真言宗で茅ヶ崎円蔵寺の末寺。「一言大師」の幟が目立つ。一言大師とは、この石像(坐高44cm)で、成就院中興真恵和尚が慶安5年晋山の折村の流行病退散を祈願され、造立された弘法大師空海の姿である。その靈驗あらたかなるが故に信仰され、大切な願い事を一心に念じまた一番の願い事を必ず叶えてくださるご利益により、「一言大師」と伝えられる。

台石右側に「世話人千右衛門太左衛門」左側に「甘沼村講中」の刻字。

本四國：醫王山鏡池院清瀧寺きよたきじ(高知市土佐市高岡清滝)
澄む水を 汲むは心の 清瀧寺 波の花散る 岩の羽衣

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第36番 ^{まんぞうじ} 満藏寺(廃寺) ^{やくしどう} 薬師堂(廃堂)

御詠歌：^{ちはやふる} 千早振神のおしへのたねまきて 秋のみのりにみつるくらかな

現在地：^{さいこうじ} 迎接山乗蓮院西光寺 浄土宗 茅ヶ崎市 赤羽根3222



当初の札所満藏寺は赤羽根山安楽院と号し、真言宗。赤羽根神明宮の別当であったが、明治の神仏分離で廃寺になり、本尊や檀家は菱沼の長福寺に移された。その後平成15年に薬師堂は廃堂になり、大師石像は西光寺に移された。

坐高41cm。台石右側に「赤羽根現住智照上人 当村世話人 古知谷六右衛門 小池儀左衛門 川辺佐二衛門 城田次兵衛」左側には「干時 文政三辰歳九月大吉日」と刻字されている。

本四國：^{とっこうざん} 獨故山伊舎那院清龍寺 ^{しょうりゅうじ} (高知県土佐市宇佐町竜)

わずかなる 泉に棲める青竜は 仏法守護の 誓いとぞきく

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第77番 迎接山乗蓮院西光寺 浄土宗

御詠歌：野も山もそむる錦の赤羽ねは 西の光りのめぐみなりけり

所在地：同所 茅ヶ崎市 赤羽根3222



西光寺は浄土宗。徳治2(1307)年尊誉唯称が開創したと伝えられる。大師像は本堂左手の墓地入口に庚申塔などが並べられた中央に露坐。坐高43cm。台石には「文政四辛巳年二月二日 世話人 川口新左衛門 小川金左衛門 小池与衛門 小池勝衛門」と刻字されている。

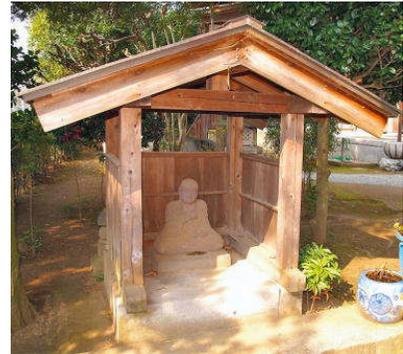
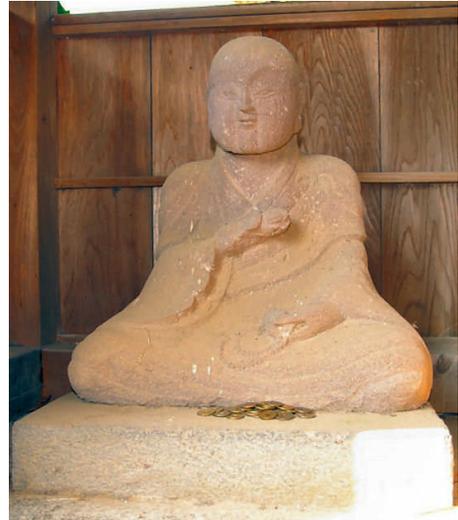
本四國：桑多山明王院道隆寺（香川県仲多度郡多度津町）
ねがいをば 仏道隆に 入りはてて 菩提の月を 見まほしさに

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

ほうしやくじ
第44番 稻荷山寶積寺 曹洞宗

御詠歌：法のみちたどる半とすかふ山 うつす宝を積めるこの寺

所在地：同所 茅ヶ崎市 赤羽根3042



宝積寺は大庭の宗賢院の末寺で曹洞宗。開創は慶長2(1597)年、宗賢院四世冷室長厳といわれている。

大師堂は山門を潜って境内を左折、本堂に向かって左手前の薬師堂の向こう側にある。

坐高44cm。台石に刻字があるが殆ど判読不能。

本四國：菅生山大覚院大寶寺（愛媛県上浮穴郡九万町菅生）

今の世は 大悲の恵み 菅生山 ついには彌陀の 誓いをぞ待つ

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第33番 東光山深正寺^{しんしょうじ}(廃寺)

御詠歌：おこたらでひちを折戸のあけくれに 深く正しきのりをえしかな

現在地：藤沢霊園 藤沢市 城南1-17-37



元来の札所東光山深正寺は曹洞宗。「新編相模国風土記稿」には深勝寺とある。大寺であったが明治の神仏分離令により廃寺となる。跡地は共同墓地になっていて、その一角に小堂があり、大師像が安置されている。バイパス側道のすぐ近くにも菩薩が祀られた小堂と地藏様があり、間違いやすい。

坐像高46cm。

本四國：高福山高福院雪蹊寺^{せつけいじ}(高福寺)(高知県長浜町)
旅の道 うえしも今は 高福寺 後のたのしみ 有明の月

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第45番 四ツ谷不動尊(廃寺)

御詠歌：こよろぎのいそぎ四谷にやどかりて あふり 雨降の山をふしおがまん

所在地：城南八坂神社 藤沢市 城南5-1-8



四ツ谷不動尊は東海道の四ツ谷追分、すなわち大山街道との分かれ道にあり、大師石像はここにあったが、藤沢バイパス(国道1号)の建設のため道路向かい側にある八坂神社の境内に移され、新しい小堂に納められている。

坐高46cm

本四國：海岸山岩屋寺 いわやじ (愛媛県上浮穴郡川村七鳥)

大聖の 祈る力の げに岩屋 石の中にも 極楽ぞある

調査：2009年11月10日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

ばんりゆうざんそうけんいん
第30番 蟠龍山宗賢院 曹洞宗

御詠歌：龍のふす山をあふがんもろもろの

しう 宗のかしこさ づ 禪るみてらを

所在地：同所 藤沢市 大庭819



宗賢院は曹洞宗。説明板には「永正2(1505)年に開創され、開山は虚堂玄白。慶安3年(1649年)三代将軍家光のとき寺領10石の御朱印を賜り17箇寺の末寺があった。本堂前の竜骨堂に祀ってある竜骨は雨乞いの靈験あらたかであることで有名で早魃になると近くの村から借りる人が多かったといわれている」と書かれている。坐像高47cm。

本四國：どどざん 百々山妙色山安樂寺・(善樂寺) (高知県高知市一宮本町)

人多く 立ち集まれる 一の宮 昔も今も 栄えぬるかな

調査：2009年9月14日 佐藤弘/杉本辰夫/竹内広弥/西野賢二

第87番 城光山泉秋寺 曹洞宗

御詠歌：みな人もこゝにこいとやまねくらん かのきしちかき法のふなでに

所在地：同所 藤沢市 大庭3565



大師像台石左側面には「四国八十八ヶ所内八十七番 讃州補陀洛長尾寺写 文政三辰九月 大庭小糸村 光明真言講中」と刻字されている。坐高53cm

辻堂駅北口発湘南ライフタウン行き有藤下車。坂を登って行くと3分で泉秋寺に入る石段下。車の場合は裏門側に駐車場がある。

本四国：補陀洛山観音院長尾寺（香川県さぬき市長尾西）

あしびきの 山鳥の尾の 長尾寺 秋の夜すがら 御名を唱えて

調査：2009年9月14日 佐藤弘/竹内広弥/西野賢二

第34番 成就院(稻荷山寶染寺) 高野山真言宗

御詠歌：みとしろのをだ まき小田に蒔たるたねまでら あふぐみのりはおほばなるらん

所在地：同所 藤沢市 大庭8157



成就院は1番札所感応院の末寺。

開創は不明であるが開基は文和5(1354)年に没した山名伊豆守時氏。中興は弁応といわれている。

明治の神仏分離令までは、近くの鎮守大庭神社の別当だった。

関東大震災で全壊したが、昭和3年再建された。

大師像は境内右手の小堂に祀られており、像高42cm。

本四國：もとおざん たねまじ本尾山朱雀院種間寺(高知県吾川郡春野町)

世の中に 蒔ける五穀の 種間寺 深き如来の 大悲なりけり

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

第2番 ^{ほつがんだん} 發願山千手院(廃寺)阿彌陀堂 浄土宗

御詠歌：かずかずの御手にひかれてきたのだに ふかきめぐみにあひにけるかな

所在地：丸山共同墓地 藤沢市 大庭字丸山



丸山共同墓地奥の小堂に安置。元来の像は首がなく、無縁仏と共に置かれている



千手院は明治6年に出た無住寺院の廃寺令により廃寺となったが、院跡は大庭村の共同墓地となり、大師像は小堂と共に残されたが、その後土地区画整理のため、道の反対側に移されている。この像は首が欠損していて無縁墓石のピラミッド上にあり、小堂には最近造られた大きめの大師像が安置されている。

本四國：日照山無量壽院極樂寺(徳島県鳴門市大麻町椴)

極樂の 彌陀の浄土へ 行きたくば南無阿彌陀佛 ログセにせよ

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

第37番 ^{じしよういん} 自性院(石河山龍見寺) ^{りようけんじ} 浄土宗

御詠歌：いしかはにうきよのちりをかきながし おのづからなるすかたうつさん

所在地：同所 藤沢市 石川3562



自性院は藤沢常光寺末。慶長16(1611)年、領主旗本中根臨太郎が開基、竜見が開山したと伝えられる。

大師像は坐高48cm、台石には右側に「文政三辰年十一月吉日」また台石下の石に「本地阿弥陀如来四国三十七番新田五社相州高座郡石川村 世話人 伊沢治衛門」他七人の氏名が刻字されている。

本四國：^{ふじいさん} 藤井山五智院岩本寺(高知県高岡郡窪川町)

六のちり 五の社 あらわして 深き仁井田の 神のたのしみ

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

せいうんじ
第46番 圓行山青雲寺(廃寺)

御詠歌：青雲のうきよはるりの海なれや 薬師のめぐみむすばぬはなし

現在地：光輝山雲昌寺 曹洞宗 藤沢市 亀井野1457



46番は円行山青雲寺(藤沢市円行571)にあったが、明治の初め廃寺となり、大師像は66番と共に雲昌寺にある。

台座左側に文政三辰年十一月吉日の文字。

本四國：醫王山養珠院浄瑠璃寺(愛媛県松山市浄瑠璃町)

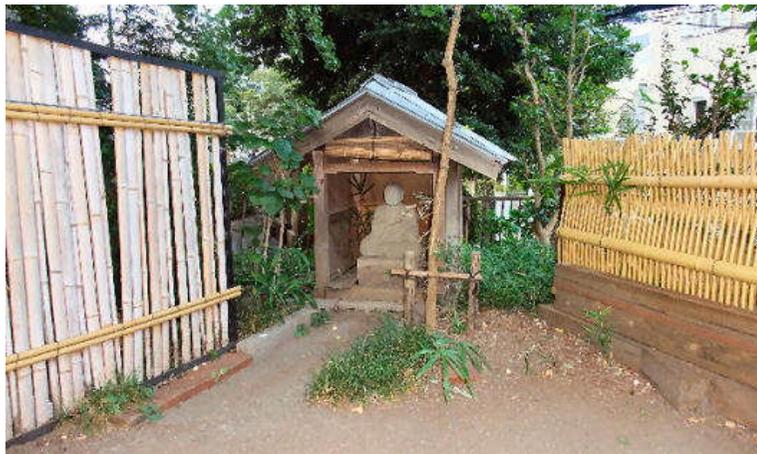
極樂の 浄瑠璃世界 たくらへば 受くる苦樂は 報いならまじ

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

えんぎよう
第51番 圓 行村八幡社

御詠歌：のりの雨ふるよに神とみほとけの ちかひむすびし石清水かな

よろげんざんほうせんじ
現在地：耀駿山法泉寺 日蓮宗 藤沢市 亀井野391



大師像は当初、円行村の鎮守、八幡社にあった。明治の神仏分離令により、他に移され、2005年までは湘南台3-8円行458鈴木氏宅にあったが、現在は法泉寺に移されている。法泉寺は開山は日現、開基は加藤九一郎、創建は不詳、明治22年、当地に金沢文庫杉田付近にあった法泉寺の本尊を移し再興された。坐像高48cm。

本四國：^{くまのざん}熊野山虚空藏院^{いしでじ}石手寺(愛媛県松山市石手)

西方をよそとは見まじ 安養の寺に詣りて 受くる十樂

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

とうせんじ
第59番 巨木山東泉寺 曹洞宗

御詠歌：打なびく稲の穂なみのよる人も みなゆたけしと飯田むらかな

現在地：同所 横浜市 泉区 下飯田町743



唯一つの横浜市に存在する札所である東泉寺は、鎌倉、植木の竜宝寺末。開基は慶安2(1649)年、中興は宝暦元(1751)年に没した寿鶴という。同寺は隣にある金比羅社の別当であった。今は杳が彫られた台石から外して小堂に安置されているが、以前は一体として露坐していた。坐像高51cm。

本四國：金光山最勝院國分寺(愛媛県今治市国分町)

守護の為 建ててあがむる 國分寺 いよ々恵む 薬師なりけり

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

第66番 光輝山雲昌寺 曹洞宗

御詠歌：白峯の雲よりうつるつきかげも よろづ代すめり亀井野のみづ

所在地：同所 藤沢市 亀井野1457



雲昌寺は鎌倉市植木の竜宝寺末。寺伝には、地条陸奥守義時入道して光輝院瑞竜滝濟庵主と号す。入唐して観音像を得、帰国して建保年間今田村に寺を創し光輝山瑞竜寺と号した。慶長年間亀井野村に移り雲昌寺と改めたという。

大師像は46番と66番が二体並べて地蔵菩薩、観音菩薩などと共に安置されている。

本四國：巨龜山千手院雲邊寺(徳島県三好郡池田町)

はるばると 雲のほとりの 寺に来て つき日を今は 麓にぞ見る

調査：2009年9月15日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/綿谷克延

第88番 みつごんざんへんしょういんふもんじ 密嚴山遍照院普門寺 高野山真言宗

御詠歌：たび衣はるばるこゝに鵠沼の かど 普き門にきたるうれしき

現在地：同所 251-0028藤沢市 本鵠沼5-5-12



普門寺の縁起については第47番の項を参照されたい。

山上本や真柴本には88番は普門寺別堂と記されている。本来は別堂にある石像が88番なのかも知れないが、本堂内にあるこの木造大師像が現在では結願の88番の大師像ということになっている。

本四國：醫王山遍照光院大窪寺おおくぼじ (香川県大川郡長尾町多和)

南無薬師 諸病なかれと 願いつつ 詣れる人は おおくぼの寺

調査：2009年9月29日 有田裕一/佐藤和子/佐藤久美子/鈴木三男吉/中島明/持田玉枝/綿谷克延

「鵠沼を語る会」活動の記録

(平成21年10月～平成22年3月) 総務担当

運営委員会 9月29日(火) 11名出席

平成21年10月例会 10月13日(火) 10時～12時 21名出席

議題1 会誌99号配付について — 出席者に席上配付した。欠席者には従来通り別途配付とした。

議題2 『相模国 準四国八十八ヶ所』の調査について — 四つに分けた班毎に途中状況が報告された。

議題3 公民館での展示について — 各サークルの紹介展示の準備状況が報告された。併せて、先月紹介した公民館まつりでの当会の展示『相模国準四国八十八ヶ所』鵠沼地区関係の作成状況が報告された。

お話— 『松籟と潮騒の保養地が生み出し育んだ文化』 について渡部瞭会員からお話していただいた。

「更級日記」に記載された『もろこしが原』から始まり、西行法師、鴨長明、源実朝、冷泉為相が『砥上が原』と詠み、幕末、明治、大正時代の歌人、小説家、芸術家達が鵠沼を描写した内容およびそれらの人のつながりを紹介した。鵠沼の3軒の旅館、白樺派が生まれ、草土社が育ち、大正教養派が巣立った様子をビジュアルで説明された。次回後半へ続く。

運営委員会 10月27日(火) 11名出席

平成21年11月例会 11月17日(火) 10時～12時 20名出席

議題1 公民館まつりの報告 — 10月31日に公民館開設50周年記念植樹として、当会の鈴木会員の寄贈による楷の木が植えられたことが報告された。公民館まつりの展示『相模国準四国八十八ヶ所』鵠沼地区関係の内容がスライドで紹介された。展示方法が好評であったこと、リーフレットは90部以上配付されたことなど状況が報告された。

議題2 『相模国 準四国八十八ヶ所』の調査について — 先月に引き続き四つの班毎に調査途中状況が報告された。

議題3 その他 — 入退会紹介(入会1名、退会1名)

お話— 『松籟と潮騒の保養地が生み出し育んだ文化』 先月に続き後半を渡部

瞭会員からお話していただいた。

「浜辺の歌」は藤沢生まれの歌であるという説、1年間住んだ芥川、10年住んだ長谷川路可、震災後昭和時代の東屋の客、別荘地から定住住宅地へ、高瀬住宅地の人びと、療養の地=鵜沼、松竹大船撮影所、鵜沼育ちの作家、大政翼賛会禊錬成所、疎開先の地=鵜沼、終戦直後に見せた文化人の活動、地域文化の高揚に貢献した美術家、鵜沼を愛した大衆作家と挿絵画家、老後を鵜沼で、鵜沼で育った藤沢市民オペラ、若者の発信する湘南文化、鵜沼から始まったビーチスポーツ、鵜沼文化人の遺したものについて、映像を交え整理された鵜沼の歴史の話を、していただいた。

運営委員会 11月24日(火) 11名出席

平成21年12月例会 12月8日(火)10時~12時 23名出席

議題1 新年会について — 1月19日例年通りアコレードにて、例会に引き続き行う旨の内容が説明された。

議題2 会誌「鵜沼100号」について — 編集の構想概要が紹介された。
藤沢市の広報に案内のあった、公益的市民活動助成事業の申請も検討して行くことが紹介された。

議題3 その他 — 内藤千代子著作本のコピー版、CD等を藤沢市総合図書館に寄贈したことが報告された。

お話- 『相模国 準四国八十八ヶ所』の調査中間報告会

四つの各班が、スライドを使って、現地調査でのエピソードも交えて説明された。

運営委員会 12月22日(火) 11名出席

平成22年1月例会、新年会 1月19日(火)11時30分~14時 30名出席

場所 鵜沼マリンロード(鵜沼海岸商店街)アコレード

例会 報告事項 — 昨年の主なイベントをふりかえり、会誌100号の現在の進捗状況、他が報告された。

新年会 内藤会長挨拶、狛倉会員の音頭により乾杯、出席会員による今年の目標、近況等披露。歓談、ビンゴゲームにより和やかなムードの中、懇親を深め有田副会長の閉会の挨拶でお開きとなった。司会は中島会員。

運営委員会 1月26日(火) 11名出席

平成22年2月例会 2月9日(火)10時～12時 23名出席

議題1 会誌「鵠沼」100号について — 掲載項目の決定および、藤沢市公益的市民活動助成事業への申請を行なった旨が報告された。

議題2 新年会の会計報告について — 会計内容の説明がされた。

議題3 その他 — 希望者には会誌『鵠沼』のバックナンバーならびに、『鵠沼ゆかりの文化人』の小冊子を頒布することが紹介された。

お話— 今回はお話ではなく、鵠沼公民館開設50周年記念に伴い、昨年10月末に行われた「楷の木記念植樹」ならびに記念シンポジウム「鵠沼公民館の50年を振り返って」のビデオ記録映像を上映した。公民館の歴史を会長他詳しい方達が3名で時代毎に語られており、あらためて鵠沼公民館の特異性を認識した。

運営委員会 2月23日(火) 7名出席

平成22年3月例会 3月9日(火)10時～12時 20名出席

議題1 会誌「鵠沼」100号について — 藤沢市公益的市民活動助成事業への申請結果第二次審査を二位で通過したこと、相模国準四国八十八ヶ所の調査報告書が本日各班共提出されること、発行時期等について報告された。

議題2 その他 — 入退会(入会1名)、六会中学への楷の木の植樹の件他が報告された。

お話— 今回もお話ではなく、鵠沼郷土資料展示室で開催中の「鵠沼海岸商店街の110年～鵠沼銀座通りからマリンロードへ」「なつかしき学び舎 湘洋中学校」の展示見学をした。詳しい事を知る会員の補足説明もしてもらった。

運営委員会 3月30日(火) 9名出席

(文責 佐藤 弘)

編集後記

- * ついに鶴沼を語る会会誌『鶴沼』は 100 号という大台に乗りました。
編集にかかわられた歴代の諸先輩のご努力あればこそです。
- * 昭和 51(1976)年 7 月 31 日創刊から満 34 年。その間、年数回の刊行のときもあれば年 1 回というときもありましたが、1 年のブランクもなく刊行が続けられました。
- * 現在のスタイルになったのは平成 9(1997)年 9 月 30 日発行の 75 号からです。またこれ以後、発行日も年 2 回、3 月末と 9 月末という定期刊行となりました。
- * 原稿の作成や印刷手法の変遷も興味深い。初期は毛筆手書きの原稿をジァゾコピーしていました。それから手書きガリ版になり、ワードプロセッサ一での活字印刷になるに及んで縦書きから横書きになりました。パソコンが登場して書体の自由度や文字の大きさなど表現方法が飛躍的に進化しました。写真を載せたのが 31 号から、カラーページが登場したのが 76 号からです。
- * 巻頭に祝詞（原稿は 3 月中にご執筆）を戴いた松久鶴沼市民センター長は、4 月にご栄転になりました。新職場でのご活躍を祈ります。
- * 圭室文雄先生の公開講座「江戸時代鶴沼村庶民の弘法大師信仰」の講義記録を読んでみて、改めてその内容の素晴らしさに驚嘆しました。講座当日、何気なく聞き流してしまった事柄があまりに多く恥じ入るばかりでした。なお先生はこのあと当会の会員になられました。
- * なんといっても相模国準四国八十八か所は鶴沼の住人浅場太郎右衛門が作ったのですから鶴沼を語る会が会誌『鶴沼』100 号を記念する特集のテーマとしては最もふさわしいと思うのです。
- * 相模国準四国八十八か所実態調査にご協力くださった会員有志の方々には本当にご苦労様でした。各グループとも情熱を持って取材され、丁寧に資料をまとめて下さいました。
- * 本号刊行については 2010 年度 藤沢市公益的の市民活動助成事業の助成金を得ることが出来ました。また、鈴木三男吉会員より多額の寄付を頂きました。それによってページ数、発行部数ともに通常より多くなりましたが、資金のめどが立ちました。厚く御礼申し上げます。 (岡田)

『鵠沼』 第100号
平成22年4月30日発行

本誌の記事引用の際は
ご連絡ください

編集・発行 鵠沼を語る会
藤沢市鵠沼海岸2-10-3
鵠沼公民館内
電話0466-33-2002

※この事業は「平成22年度藤沢市公益的市民活動助成事業」対象事業です。

URL=<http://kugenuma.sakura.ne.jp/>